

# Marketing Cloud リリースノート

Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

2013 年 1 月 18 日

- [Social 2.2](#)
- [SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース](#)
- [SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース](#)
- [AppMeasurement およびモバイル](#)
- [Discover 3.1 メンテナンスリリース](#)
- [ReportBuilder 4.3.44](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [Web サービス API](#)
- [Survey 3.4 メンテナンスリリース](#)
- [SearchCenter 4.4 メンテナンスリリース](#)
- [AudienceManager](#)
- [Test&Target 3.1](#)
- [Search&Promote 8.9.4（日本未発売）](#)
- [Recommendations 2.10](#)
- [Scene7](#)
- [Insight 5.5](#)

## Social 2.2

Social 2.2 リリースには次の新機能および機能強化が含まれています。

機能	説明
レポート：キャンペーンの詳細レポート	キャンペーン / キャンペーンレポートの表示時、各トラッキングコードの詳細を含む投稿レベルのレポートにアクセスできます。
レポート：オーディエンス別投稿一覧レポートのフィルター処理	オーディエンスごとに、投稿一覧レポートをフィルターします。
投稿：Facebook のカバー写真	管理する Facebook ページ上のカバー写真を投稿または更新します。カバー写真を即時に投稿したり、スケジュールに基づいて投稿したりできます。

機能	説明
投稿：bitly リンク短縮サービス	Social 内で複数の bitly アカウントを作成し、デフォルトの Social リンク短縮サービスの代わりに bitly の短縮 URL を投稿で生成します。
投稿：オーディエンスの絞り込み	Facebook 投稿の作成時、既存のオーディエンスを絞り込みます。
投稿：オーディエンス投稿の RSS フィード	すべてのオーディエンス投稿で RSS フィードを使用できます。
アプリ：モバイルのサポート	モバイルデバイス上で、新規作成したページアプリや既存のページアプリが適切に表示されます。
アプリ：クーポンテンプレート	アプリビルダーでクーポンページアプリの作成や設定を行います。
アプリ：ビデオプレイヤー要素	ページアプリで Vimeo ビデオを再生します。以前は YouTube ビデオのみ再生が可能でした。
アプリ：コンテストのカルーセル要素	カルーセル内の画像を古い順、投票数の少ない順、またはランダムに並べ替えます。以前は画像を新しい順、または投票数の多い順のみ並べ替えることが可能でした。。
アプリ：外部ファイルをページアプリに含める	外部の JavaScript または CSS スタイルシートをページアプリに含めます。
ソーシャル管理：インテリジェンスレポートからのツイートのモデレート	インテリジェンスレポート上の個別のツイートから、Social の Twitter のモデレートモジュールにアクセスします。
アカウント：Disqus および Tumblr のサポート	Social を使用して、Disqus および Tumblr 上でキーワードを追跡します。
アカウント：一括処理によるキーワードの追加	SAINT を使用する代わりに、Social 内から合理化されたワークフローを使用して、追跡するキーワードを追加します。
UI とドキュメントのローカライズ	すべてのモジュールのユーザーインターフェイスが、言語セクターで選択可能な言語にローカライズされました。ドキュメントは繁体中国語、簡体中国語、韓国語にローカライズされ、ご利用いただけるようになりました。その他の言語のドキュメントは現在ローカライズの最終段階で、近日中にご利用いただける予定です。

機能	説明
リスニングモジュールでのUIの改善	繁体中国語、簡体中国語、日本語および韓国語は以前もリスニングモジュールでサポートされていましたが、ユーザーインターフェイスの問題がいくつか報告されていましたが、単語やキーワードの区切りにスペースを使用しない言語の場合も、レポートレットおよびウィジェットで、期待される結果が表示されるようになりました。
日本語用のセンチメント分析	日本語用のセンチメント分析は、現在ベータテスト中です。ベータ版の過程でこの機能が強化され、好感度分析が改善されます。
ドキュメントの更新	Social ユーザーガイドに、変更点についての詳細を説明する新しいトピックを追加しました。

詳しくは、[Social の新機能](#)に関するページを参照してください。

Social 2.2 リリースには、次の修正が含まれています。

- Twitter のライセンスに関する問題により、Twitter の推定リーチ指標は廃止されました。Twitter の推定リーチイベントは、Social レポートの設定ページで設定されません。
- クリックスルーリンクが、Google+ 投稿の投稿一覧レポート上に表示されない問題を修正しました。
- Google+ および Twitter を使用してオーディエンスに投稿するときにエラーが発生する問題を修正しました。
- アプリページ上のアプリタイトルで訪問（新規 / リターン）の統計が更新されない問題を修正しました。
- ページアプリが複数の Facebook ページに投稿された場合、このページアプリを 1 つのページのみで非公開にすることができない問題を修正しました。
- Google+ または Twitter の承認待ち投稿の編集時にエラーが発生する問題を修正しました。
- コンテスト用の参加者の「いいね！」要素の問題を修正しました。「表示する動詞」が「おすすめ」に設定されていて、ユーザーがボタンをクリックした場合、この「おすすめ」が Facebook に投稿されていませんでした。
- レポートでのいくつかのローカライズの問題を修正しました。
- 多くの場合で、Social の概要ダッシュボードの競合ウィジェットに競合相手のページを追加できない問題を修正しました。
- アプリの役割が削除されたときのバックエンドでのクリーンアッププロセスを調整しました。
- 投稿が Facebook ページから削除されたときに、誤ったエラーメッセージが Social に表示される問題を修正しました。
- まれに Google+ 投稿のリンククリック数が記録されない問題を修正しました。

- ・キーワードレポートの改ページの問題を修正しました。
- ・一部の顧客の Facebook からデータを収集できない問題を修正しました。
- ・インテリジェンスレポートが正しく表示されない問題を修正しました。
- ・キャンペーン／トラッキングコードレポートが表示されない場合がある問題を修正しました。
- ・トラッキングリンクを含む Facebook ビデオ投稿が作成できないエラーを修正しました。
- ・投稿一覧レポートにある上位の投稿の集計ウィジェットでの表示の問題を修正しました。
- ・数値フィールドに数値以外の文字の入力が許可される（「900」だけでなく「900px」も入力できる）問題を修正しました。

## SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース（2013 年 1 月 18 日）には、次の機能改善が含まれています。

機能	説明									
イベント前の時間レポート	<p>イベント前の時間という新しいレポートが、SiteCatalyst の<b>サイト</b>指標で使えるようになりました。このレポートは、選択したコンバージョンイベントが訪問時に発生するまでの経過時間を表示します。</p> <p>このレポートの売上高などの指標は、イベントが発生したときの時間帯に表示されます。例えば、訪問者が 1～5 分の時間帯に 5 ドルの購入を行い、次に 5～10 分の時間帯に 10 ドルの追加購入を行った場合、5 ドルは 1～5 分の時間帯に、10 ドルは 5～10 分の時間帯に表示されます。訪問回数は訪問が終了した時間帯に計上されるので、この訪問は、訪問が終了した 5～10 分の時間帯に表示されます。</p>									
	<table><tr><th>イベント前の時間</th><th>売上高</th><th>訪問回数</th></tr><tr><td>1～5 分</td><td>5</td><td>0</td></tr><tr><td>5～10 分</td><td>10</td><td>1</td></tr></table>	イベント前の時間	売上高	訪問回数	1～5 分	5	0	5～10 分	10	1
	イベント前の時間	売上高	訪問回数							
	1～5 分	5	0							
5～10 分	10	1								
<p>訪問は 5～10 分の時間帯に表示されるので、指標値が高いにも関わらず訪問回数が少なくなる場合があります。これは、そのイベントが長い訪問の一部だったことを示します。</p>										

機能	説明									
訪問別滞在時間レポートの仕様変更	<p>訪問別滞在時間レポートが、バウンス（1 回のサーバーコールのみを含むサイト訪問）を含まないように仕様を変更しました。<b>この変更後、「1 分未満」の時間範囲での訪問回数が減少します。</b></p> <p>このレポートに表示される売上高などの指標は、訪問が終了した時間帯に計上されます。例えば、訪問者が 1～5 分の時間帯に 5 ドルの購入を行い、次に 5～10 分の時間帯に 10 ドルの追加購入を行った場合、これら両方の購入の売上高が 5～10 分の時間帯に表示されます。</p> <table><tr><td>訪問別滞在時間</td><td>売上高</td><td>訪問回数</td></tr><tr><td>1～5 分</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>5～10 分</td><td>15</td><td>1</td></tr></table> <p>訪問が終了した時間帯にすべてのクレジットが割り当てられるので、訪問の期間別に指標の合計を確認できます（滞在時間が x の顧客は訪問あたり x の売上高に貢献している、など）。</p> <p>一方、イベント前の時間レポートでは、売上高などのイベントが、そのイベントが発生した時間帯に表示される点にご注意ください。訪問時のどの時点でイベントが発生するかを確認する場合にこのレポートを使用します。</p>	訪問別滞在時間	売上高	訪問回数	1～5 分	0	0	5～10 分	15	1
訪問別滞在時間	売上高	訪問回数								
1～5 分	0	0								
5～10 分	15	1								
処理ルールにおけるページ URL のサイズ拡大	<p>近い将来に予定されているリリースで、アドビのデータ収集サーバーは 255 バイトを超えるページ URL の収集を開始します。この変更により、処理ルールおよびデータフィードでページ URL 全体が使用できるようになります。</p> <p>この変更を有効にするには、JavaScript H.25.3（2013 年 1 月リリース）にアップグレードする必要があります。</p>									
「なし」の配分方法の変更	<p>配分の設定として線形が選択されているときに「なし」の値へクレジットを配分する方法が変更されました。「なし」はクレジットを受け取る唯一の値である場合のみ、クレジットを受け取ります。他の値がクレジットを受け取る場合、クレジットはこれらの値に割り当てられ、「なし」には配分されません。</p>									
キャンペーンマネージャーの終了	<p>キャンペーンマネージャー（管理者 / <b>キャンペーンを管理</b>）機能は、2 月 22 日のメンテナンスリリースで削除される予定です。</p>									

#### 修正点:

- 権限の問題により、ユーザーに正しい権限が割り当てられていても、ターゲットレポートにアクセスできない場合があります。

- ダッシュボード画面上で作成した新しいセグメントが、正しく作成および保存されているにもかかわらず、セグメントドロップダウンリストに表示されませんでした。
- SiteCatalyst 15 への移行日を含む期間で参照ドメインレポートを手動入力/ブックマークを含めてトレンド表示すると、値が多く表示されていました。
- 分類レポートで未指定という値をクロス集計すると、選択した行項目に固有の値だけでなく、すべての分類値が表示されていました。
- フォールアウトレポートに、リンクトラッキングで計測されたデータが表示されていませんでした。
- 地理特性 - 地域レポートに行項目の合計が表示されていませんでした。
- SiteCatalyst 14 から SiteCatalyst 15 に移行されたダッシュボードで、一部のメモがレポートの印刷版に表示されていませんでした。
- ダッシュボードの棒グラフに汎用が表示されていませんでした。
- モバイルデバイスレポートから開始したクロス集計が、最大 50 項目に制限されていました。現在このようなレポートで、すべてのレポート項目が表示されます。
- ユーザーに正しい権限が割り当てられていても、モバイルレポートで分類を表示できない場合があります。
- モバイルレポートをクロス集計した状態で日付比較機能を使用すると、データが表示されませんでした。
- サーバー、サイトセクション、訪問者の州、訪問者の郵便番号のレポートで使用可能な指標としてインスタンスを追加しました。
- ReportBuilder および SiteCatalyst の買い物かご指標に関して、1 日単位の精度のトラフィックレポートで異なる値が表示される場合があります。
- 参照ドメインレポートでリファラーをクリックして開く詳細レポートに、選択したリファラーに一致しないリファラーの結果が表示されていました。現在、これらの詳細レポートには選択したリファラーのみの結果が表示されます。
- ブラウザータイプレポートで、一部の計算指標がトレンド表示に表示されず、ランク表示に正しく表示されていました。計算指標は、現在両方の表示で正しく表示されます。
- 複数のレポートスイートを選択してコンバージョン変数の有効期限の設定を編集するとき、カスタムの有効期間を持つ変数がカスタムの日数ではなく固定文字列「日」を表示していました。これらの変数は、現在カスタムの有効期間を表示します。
- 見出しに月の合計数が一覧表示されるように、訪問件数レポートの合計訪問数を変更しました。以前は、この行には 4 週間分のデータが表示され、レポート下部にある合計を示す行と一致していました。

## SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース（2013 年 1 月 18 日）には、次の機能改善が含まれています。

- モバイルレポートをクロス集計した状態で日付比較機能を使用すると、データが表示されませんでした。
- 複数のレポートスイートを選択してコンバージョン変数の有効期限の設定を編集するとき、カスタムの有効期間を持つ変数がカスタムの日数ではなく固定文字列「日」を表示していました。これらの変数は、現在カスタムの有効期間を表示します。

## AppMeasurement およびモバイル

JavaScript を除くすべてのプラットフォーム向け AppMeasurement ライブラリが、[Developer Connection](#) でホストされるようになりました。最新の JavaScript 版 AppMeasurement ライブラリと、ユーザーの保存したコードアーカイブは、従来どおり管理 **コンソール** / **コードマネージャー** からダウンロード可能です。

### JavaScript AppMeasurement

#### H.25.3

- 今後予定されているページ URL フィールドのサイズ拡大に向けて、255 バイトを超える URL の送信のサポートを追加しました。255 バイトを超えるページ URL は分割され、最初の 255 バイトは `g=` パラメーターに、残りのバイトはその後のクエリ文字列の `-g=` クエリパラメーターに表示されます。これにより、ブラウザを切り捨てる場合に長い URL が他のデータより優先されないようにする一方、長い URL の収集を引き続き有効にすることができます。
- `escape` と `encodeURIComponent` を組み合わせて使用しエンコードされた文字列の URL デコードの処理を修正しました。
- WebKit ブラウザーで、ページの最初のサーバーコールがタイムアウトした場合、リンクの追跡に失敗する問題を修正しました。
- `abort` フラグを新しく追加しました。このフラグは `doPlugins` 内で設定できます。このフラグを `true` に設定すると、対象のトラッキング呼び出しで AppMeasurement ライブラリが続行しません。`abort` フラグはあらゆるトラッキング呼び出しによってリセットされるので、後続のトラッキング呼び出しも中止する必要がある場合は、このフラグを再度 `doPlugins` 内に設定する必要があります。

```
1. s.doPlugins = function(s) {  
2.     s.campaign = s.getQueryParam("cid");  
3.     if ((!s.campaign) && (!s.events)) {  
4.         s.abort = true;  
5.     }  
6. };
```

これにより、追跡したくないアクティビティ（ディスプレイ広告内の一部のカスタムリンクや外部リンクなど）の識別に使用するロジックを一元管理することができます。

### その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

## Discover 3.1 メンテナンスリリース

この リリースには、次の機能強化および修正が含まれています。

機能	説明
直帰率指標	<a href="#">直帰率</a> 指標は、サイトにランディングして、それ以上アクションを実行せずにサイトを離脱した訪問者の割合を示します。この指標が、Discover で標準の指標になりました。
イベント前の時間レポートの更新	<p>このレポートの分類で、訪問が終了した時間帯の訪問が表示されるようになりました。これにより、分類とレポートが一致するようになります。</p> <p>以前は、分類では訪問者のアクティビティが確認された時間帯ごとに訪問がカウントされていました。例えば、訪問者が 1～5 分の時間帯に 5 ドルの購入を行い、次に 5～10 分の時間帯に 10 ドルの追加購入を行った場合、以前の分類では、両方の時間帯に訪問者が表示されていました。また、1 分未満の時間帯にも（この時間範囲でのアクティビティが存在するので）同様に表示されていました。この更新後の分類では、訪問は終了した時の時間範囲（この例では 5 ～ 10 分の時間帯）でのみカウントされます。</p>

### 修正点

- Shift-JIS エンコードに依存する 2 バイトの国際文字が、MS Excel などのコンマ区切り（CSV）のレポートで文字化けしていました。Discover は現在、Shift-JIS エンコードとデフォルトの UTF-8 エンコードの両方に対応しています。
- リファラータイプを使用するセグメントで、無効なデータが表示される問題を修正しました。



- Discover の起動時に複数のセッションが発生する問題を修正しました。この問題は通常、SiteCatalyst などの他のアプリケーションから Discover を起動したときに発生していました。
- プロジェクトが開かない問題を修正しました。
- Excel での予定されたフォールアウトレポートで、データが見つからなかったり、合計が不正確になる問題を修正しました。
- 表ビルダーでのレポートの日付範囲の処理方法を改善しました。
- 「Discover を起動できませんでした」というエラーメッセージが不必要に表示される問題を修正しました。
- セグメントに対して行った変更をキャンセルできない問題を修正しました。
- 表ビルダーで行と列を操作したときに 0 だけが表示される、自動列の生成の問題を修正しました。
- セグメントフォルダー内のセグメントや指標が表示されない可能性がある問題を修正しました。このエラーは、セッションのタイムアウト時にセグメントや指標を編集している場合にのみ発生していました。

## ReportBuilder 4.3.44

ReportBuilder（2013 年 1 月 18 日）には、次の機能および修正が含まれています。

### 機能

機能	説明
----	----

機能	説明
ビデオおよびモバイルのレポート	<p>以下のビデオレポートおよびモバイルレポートを追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日別関与ユーザー数</li> <li>・ アップグレード回数</li> <li>・ 広告完了</li> <li>・ ビデオ完了</li> <li>・ セグメントビュー</li> <li>・ ビデオ開始</li> <li>・ ビデオ時間</li> <li>・ ビデオビュー</li> <li>・ ビデオ日別訪問者数</li> <li>・ ビデオ訪問件数</li> <li>・ ビデオ要素（管理コンソールで SiteCatalyst 15 ビデオ指標が設定された場合のみ有効）</li> </ul> <p>詳細は、<a href="#">Measuring Video in SiteCatalyst</a> を参照してください。</p>
Social レポート	<p>Adobe Social では、Facebook、Twitter、Google+、YouTube、ブログを含む、複数のチャンネルにわたるソーシャルメディアイニシアチブがすべて表示されます。</p> <p>Social ヘルプの<a href="#">レポート</a>を参照してください。</p>
今日を除外	<p>リクエストウィザードのステップ 1 に「今日を除外」オプションを追加しました。今日のデータでは 1 日が完全にレポートされないため、このオプションによって今日が常に日付範囲から除外されます。</p>
Web の更新	<p>Web の更新プロセスをアップグレードしました。ReportBuilder を自動的に更新するかどうかを指定するには、「オプション」で「<b>新しいバージョンが利用可能な場合に更新</b>」を有効にします。</p>
無効な日付のチェック	<p>カスタマイズされた日付式での警告を追加しました。この警告は、特定の日のレポートが表示できないときに表示されます。このようなエラーは、リクエストウィザードのステップ 2 に移動するときに発生します。</p>

修正点

- ・日付範囲を変更した後のリクエスト応答の表示方法を改善し、前に選択した日付が更新後に削除されるようにしました。
- ・レポート API に、欠落していたパーティシペーションの計算指標を追加しました。これらのパーティシペーション指標には、売上高、購入回数、購入点数、買い物かごオープン、買い物かご表示、チェックアウト、買い物かごへの追加、買い物かごからの削除が含まれます。
- ・「今日を除外」オプションを追加しました。今日のデータでは1日が完全にレポートされないの  
で、このオプションによって今日が常に日付範囲から除外されます。
  - ・ページレポートに、欠落していた指標を追加しました。これらの指標には、訪問回数、個別訪問者数、ページビューが含まれます。
  - ・トラフィックベースのトレンドレポートで、計算指標の最初の行項目にデータが表示されていませんでした。
  - ・ページの深さレポートをトレンド表示すると、エラーが表示されデータが返されませんでした。このレポートは、現在正しく読み込まれます。
  - ・ReportBuilder で、精度を「日別」に設定してトレンド表示していた場合、月別 / 週別 / 四半期別 / 年別の実訪問者数が日別訪問者数に表示されていました。

## クリックストリームデータフィード

### page\_url 列および page\_event\_var1 列の今後の拡張

今後の製品リリースで、これらの列を拡張し、255 文字を超える URL を格納できるようにします。この変更によって、以前は 255 文字に切り捨てられていた長いクエリ文字列などの値を含む可能性がある、各ページやトラッキング対象リンクの URL 全体を受け取ることができます。

この変更後、page\_url および page\_event\_var1 の長さは 255 バイトから 64 キロバイトに拡張されます。データフィードの処理に使用しているアプリケーションやスクリプトをすべて更新し、64 キロバイトの変数を使用してこれらの文字列を格納するようにします。データフィードをデータベースに格納している場合、page\_url 列および page\_event\_var1 列が 64 キロバイトまでの文字列を十分格納できることを確認します。または、システムでこれらの列の切り捨てたバージョンが必要な場合、ETL が切り捨てを適切に処理していることを確認してください。

この変更は post\_page\_url 列または post\_page\_event\_var1 列に影響を与えません。これらの列は 255 文字のままです。

### 必要なアクションについて

ほとんどの場合、この変更を有効にするには、JavaScript H.25.3（2013 年 1 月リリース）にアップグレードする必要があります。ただし、データ挿入 API を使用してデータを SiteCatalyst に渡している場合は、1 月末よりも前に URL のサイズ拡大が開始される可能性があります。データ挿入 API を使用している場合は、ETL においてこの変更への対応が準備されていることを確認してください。または、JavaScript H.25.3 の公開時に ETL を更新することもできます。

最新の情報については、[クリックストリームデータフィードのヘルプ](#)を参照してください。

## Web サービス API

Web サービスメンテナンスリリース（2013 年 1 月 18 日）には、次の機能強化が含まれています。

- 保存済みのブックマークからレポートを生成する機能を追加しました。  
[Bookmark.GetReportDescription](#) を参照してください。
- SiteCatalyst レポート API で階層レポートがご利用いただけるようになりました。レポートで階層要素を取得する場合に必要な構文については、[要素のレポート](#)に関するページを参照してください。

Web サービス API について詳しくは、[developer.omniture.com](#) を参照してください。

## Survey 3.4 メンテナンスリリース

Survey 3.4 メンテナンスリリース（2013 年 1 月 18 日）には、次の修正が含まれています。

- CSS のコメントでコンマ (,) を使用できない問題を修正しました。

詳しくは、[Survey ユーザーガイド](#)を参照してください。

## SearchCenter 4.4 メンテナンスリリース

SearchCenter メンテナンスリリース（2013 年 1 月 18 日）には、次の新機能および機能強化が含まれています。

機能	説明
Google および Bing	Google および Bing を使用した同期およびインポートのパフォーマンスが大幅に向上しました。
サポートされる通貨	ノルウェークローネを、Bing でサポートされている通貨として追加しました。
一括インポート/エクスポート	一括処理システムを変更し、エラーが発生した場合プロセスが再処理されるのではなく、中断した場所から再開されるようになりました。

詳しくは、[SearchCenter の新機能](#)に関するページを参照してください。

SeachCenter メンテナンスリリース（2013 年 1 月 18 日）には、次の修正が含まれています。

- SearchCenter のトラッキングコードを無視した場合、サイト拡張がサポートされない問題を修正しました。
- 一部の分類ジョブが失敗後に自動再開されない、設定の問題を修正しました。

- ・グリッド上で「もっとロードする」ためにクリックした後の並べ替えの問題を修正しました。
- ・入札ルールで、一般的でない記号を含むキーワードが評価されない問題を修正しました。
- ・一部の顧客の「なし」の行にすべてのデータが表示される、環境の問題を解決しました。
- ・一部のブックマーク内の日付範囲が永続的にならない問題を修正しました。
- ・パフォーマンス指標が、削除されたキャンペーン上のエンジンからダウンロードできない問題を修正しました。
- ・一部のキーワードに関するカスタムグループの割り当てが永続的にならない問題を修正しました。

## AudienceManager

最新の AudienceManager メンテナンスリリース（2012 年 12 月）には、次の新機能および機能強化が含まれています。

機能	説明
特性ビルダー	アルゴリズムの特性の作成時に、新しい特性保存フォルダーを作成できるようになりました。

### 修正点

- ・式ビルダーで、キー値の名前が長い場合は切り捨てられ、新しい行に折り返されていませんでした。
- ・式ビルダーで検索結果を並べ替えようとした場合、検索語句が消去されていました。
- ・画面解像度が高い場合、または Safari ブラウザーのバージョンが 5.1 以前の場合に、ユーザーインターフェイスの表、グラフおよびコントロールの表示にずれがありました。
- ・90 日間隔でさかのぼるアルゴリズムのセグメントをコピーすると、90 日ではなく 30 日の間隔が使用される場合があります。
- ・アルゴリズムのモデルで使用する複数行のエラーメッセージが、メッセージテキストの最初の行のみ表示されていました。

## Test&Target 3.1

Test&Target リリース（2012 年 11 月 9 日）には、次の機能強化および修正が含まれています。

機能	説明
----	----

機能	説明
再利用可能なセグメント	セグメントにより、特定の条件を満たす訪問者のキャンペーンをターゲットにできます。セグメントは、Test&Target で、ターゲティングが可能な対象に使用されます。キャンペーンをターゲティングするためには、セグメントの一覧から再利用可能なセグメントを選択するか、キャンペーン専用のセグメントを作成します。詳しくは、 <a href="#">セグメント</a> に関するページを参照してください。
強化された日付選択	新しいカレンダーベースの日付と時間セレクターにより、キャンペーン作成処理において異なるキャンペーンをより簡単にスケジュールできるようになりました。 <a href="#">キャンペーンの開始日と終了日</a> を参照してください。
レポートのデフォルトホストグループ	実際の実稼動ホストを、デフォルトの「Production（実稼動）」ホストグループではなく、新しいホストグループにグループ分けできるようになりました。これによりレポート作成がより効率的になります。 <a href="#">レポート用のデフォルトホストの設定</a> に関するページを参照してください。
新しい HTML オファー API	新しい API により、HTML オファーを作成、取得およびリスト化できます。 <a href="https://developer.omniture.com/ja_JP/documentation/target/r-test-and-target-api-sample-code">https://developer.omniture.com/ja_JP/documentation/target/r-test-and-target-api-sample-code</a> を参照してください。
強化された GeoTargeting インターフェイス	GeoTargeting がサイトで有効になっている場合、オフラインの CSV ファイルを使用せずに、スマート検索ドロップダウンメニューボックスや選択プロセスから GeoTargeting ルールを選択できます。 <a href="#">地域に基づくターゲット設定</a> に関するページを参照してください。

機能	説明
更新された利用可能なソーシャルターゲット	利用可能なソーシャルターゲットは、現在のトレンドを反映するように更新されました。例えば、Pinterest がターゲットとして追加されました。 <a href="#">ターゲット設定インターフェイス</a> を参照してください。
強化されたキャンペーン作成 API 検証	強化されたこのキャンペーン作成 API 検証によって、エラーメッセージがより明確になりました。

Test&Target 1:1 は更新され、次の機能が追加されました。

機能	説明
オファーおよびモデリンググループレベルにおける回答の重み付け	個々のオファーおよびモデリンググループごとに、マーケティング担当者が、そのオファーに関する「価値」をマークすることができます。この重み付けは、価値の高いオファーを、価値の低いオファーよりも高い頻度で表示させるために使用します。
任意の単一ステップに対する最適化	マーケティング担当者は、1つのキャンペーン成功指標を選択してモデルの最適化に使用する一方で、レポート用途のために、その成功指標の枠を超えて訪問者の行動を追跡し続けることができます。これにより、提供コンテンツに近いアクションに対してモデルを最適化しつつ、そのキャンペーンに関するコンバージョンの最終的な ROI をはっきりと把握できます。この機能は 1:1 キャンペーンにも、最適化キャンペーンにも適用されます。

## Search&Promote 8.9.4（日本未発売）

Adobe Search&Promote 8.9.4 には、次の新機能、機能強化および修正点が含まれています。

新機能および機能強化	説明
------------	----

新機能および機能強化	説明
ルール	クエリ消去ルール、検索前のルールおよび検索後のルールの作成時に、インラインメモを作成できる機能を追加しました。このメモフィールドによって、ルールを文書化しルールについて説明することができます。
ガイド付き検索	<p>検索にかかった時間の合計を示すためのガイド付き検索タグを追加しました。</p> <p>&lt;guided-search-time&gt; - 検索時間の値（ミリ秒）が含まれます。</p> <p>&lt;guided-fall-through-searches&gt; - 検索回数が含まれます。</p> <p>&lt;guided-if-fall-through-search&gt; - 検索回数が 2 回以上の場合、true になります。</p>

#### 修正点

- ・キーワードレポートで、アスタリスクが無視されるようになりました。
- ・ **Reports / Null Search Terms Report** を開き、時間帯を選択して、レポートを表示します。レポート内のある単語をクリックして検索を開始し、その後「**View Report**」を再度クリックすると、クリックしたキーワードの検索数が 2 回増加します。この現象が修正されました。
- ・ ビジネスルールをライブにプッシュしたとき、パフォーマンスの最適化が行われていました。
- ・ パンくずリストでの削除機能が、常時使用できませんでした。
- ・ Re-Rank Index 機能で「**Regenerate**」を使用しない場合、ランキングルールの変更内容が検索結果で有効になりませんでした。

Adobe Search&Promote の最新ドキュメントについては、[Search&Promote ドキュメントホーム](#)を参照してください。

## Recommendations 2.10

Recommendations のこのリリースには、次のような変更が含まれています。

機能	説明
レコメンデーションカードの変更	デフォルトコンテンツに対してテストを行っていない場合、レコメンデーションカードには下側のバーは表示されません。
変更されたアルゴリズムのデータソース	以前のリリースでは、「サイトの親和性」アルゴリズムのみ DataWarehouse データを使用していました。このリリースでは、「表示の親和性」および「表示 / 購入の親和性」も、DataWarehouse データを使用します。



機能	説明
レコメンデーション結果を表示する際のコントロールデータの選択	レコメンデーションの結果を表示する際に、使用したいコントロールデータを選択できるようになりました。
強化された商品検索	カスタム変数を含む、すべての変数を検索できるようになりました。また、結果をさらに絞り込むために、複数の検索条件を指定できます。
拡張されたアルゴリズム名の長さ制限	アルゴリズム名として許可される長さが 255 文字に拡張されました。

Recommendations の最新ドキュメントについて詳しくは、[Recommendations の新機能](#)に関するページを参照してください。

## Scene7

Scene7 の最新のリリース情報について詳しくは、[Scene7 Publishing System Release Notes](#) を参照してください。

## Insight 5.5

Insight の監視プロファイルを使用して、管理者が指定の間隔で Insight サーバーの全体的な健全性を監視したり、エラーをリアルタイムで報告したり、Insight の読み込み容量および処理スケジュールを最適化することができます。

Insight の最新のリリースノートおよびドキュメントについては、[Insight 製品ドキュメント](#)を参照してください。

**重要:** このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Marketing Cloud リリースノート

Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

2013 年 2 月 22 日

- [SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース](#)
- [SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース](#)
- [Social 2.3](#)
- [Discover 3.1 メンテナンスリリース](#)
- [ReportBuilder 4.3](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [Web サービス API](#)
- [AppMeasurement およびモバイル](#)
- [DataWarehouse](#)
- [AudienceManager](#)
- [Test&Target 3.3](#)
- [Search&Promote 8.9.5（日本未発売）](#)
- [Survey 3.4](#)
- [SearchCenter 4.4](#)
- [Genesis 3](#)
- [Insight 5.5](#)

## SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース（2013 年 2 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
時間ごとのアラート	SiteCatalyst で時間ごとのアラートをトリガーするとき、データの遅延が考慮されるようになりました。前の時間のデータがその時間の終了時に有効でなかった場合、アラートは 5 分ごとに完全なデータを再確認し、適切なアラートをトリガーします。

機能	説明
キャンペーンマネージャーの提供終了	キャンペーンマネージャー (管理者 > <b>キャンペーン</b> を管理) の機能は提供を終了したため、メニューから削除されました。
訪問者の州の非US対応	サーバー側で訪問者の州 (zip) の値をセットするよう設定しているレポートスイートで、米国以外の国におけるデータも取得できるようになりました。
検索エンジンと検索キーワードレポートにおける計算方法	<p>同一訪問に複数回の検索流入があった場合、検索エンジンと検索キーワードレポートでイベントを最初の検索ではなく最後の検索に対して配分するよう変更しました。これはDiscoverの仕様と合致します。</p> <p>例えば、有料検索経由でサイトを訪問し、訪問が切れる前に自然検索でサイトを再訪問してからevent1が発生した場合、以前は有料検索に対してevent1が配分されていましたが、今後は自然検索に対して配分されます。これは訪問内における指標の配分方法であり、管理コンソールにおける「検索方法」の配分設定とは異なります。</p>

## 修正点

- ・1月18日から2月22日までの間、検索エンジンと検索キーワードのレポートデータに誤差が生じていた不具合を修正しました。この期間に取得したデータは再取得が必要です。
- ・通信業者が不明のモバイルデバイスを携帯電話会社レポートの「なし」行に追加し、合計訪問数にすべての訪問数が含まれるように更新しました。これにより、携帯電話会社レポートの合計訪問数と接続タイプレポートにおける Mobile Carrier の合計訪問数との相違が解消されました。
- ・パーティシペーション指標が、リスト変数レポートで利用可能な指標として正常に表示されるようになりました。
- ・マーケティングチャネルの処理ルール設定で「が空である」「が存在しない」などの条件を利用できるようになりました。
- ・データの標準化をオンにした場合、グラフの数値が正規化されない問題を修正しました。
- ・分類されたトラフィック変数の子レポートを親レポートでクロス集計すると数値がおかしくなる不具合を解決しました。
- ・ユーザーが数値 2 指標を計算指標の一部として使用できない問題を修正しました。
- ・主要指標レポートで、ページビュー数を含む計算指標を追加できるようになりました。

- レポートで時間ごとの精度が利用できない場合はエラーメッセージを表示するよう変更しました。
- 主要指標レポートで、グラフに表示する指標を選択解除したとき、グラフ上の凡例が選択内容と一致しない問題を修正しました。
- 日付の比較時に、ダッシュボードの列見出しに適切な期間が表示されるようになりました。
- まれにユーザーがダッシュボードのレポートレットを更新できなくなる問題を修正しました。
- 会社サマリダッシュボードレポートレットの見出しに、イベントの名前ではなく、イベントの数字が表示される問題を修正しました。
- ユーザー管理で設定を他のユーザーに移行できないことがある不具合を解決しました。
- DB Vista 用のファイルのアップロードに成功しても実際には処理されないことがある不具合を解決しました。
- データ抽出および ExcelClient の参照ドメインレポートで、手動入力 / ブックマークトラフィックがリクエストされていない場合でも、このデータが含まれていました。このデータは現在、リクエストされた場合のみ含まれます。
- ReportBuilder および ExcelClient で、「未指定」の行項目をフィルター処理してモバイルデバイスレポートから削除できるようになりました。
- 地域レポートで、米国のコネティカット州が誤ってオーストラリアンキャピタルテリトリーとして分類される問題を修正しました。

## SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース（2013 年 2 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

- 通信業者が不明のモバイルデバイスを携帯電話会社レポートの「なし」行に追加し、合計訪問数にすべての訪問数が含まれるように更新しました。これにより、携帯電話会社レポートの合計訪問数と接続タイプレポートにおける Mobile Carrier の合計訪問数との相違が解消されました。
- DB Vista 用のファイルのアップロードに成功しても実際には処理されないことがある不具合を解決しました。
- データの標準化をオンにした場合、グラフの数値が正規化されない問題を修正しました。
- 日付の比較時に、ダッシュボードの列見出しに適切な期間が表示されるようになりました。
- まれにユーザーがダッシュボードのレポートレットを更新できなくなる問題を修正しました。
- データ抽出および ExcelClient の参照ドメインレポートで、手動入力 / ブックマークトラフィックがリクエストされていない場合でも、このデータが含まれていました。このデータは現

在、リクエストされた場合のみ含まれます。

- ReportBuilder および ExcelClient で、「未指定」の行項目をフィルター処理してモバイルデバイスレポートから削除できるようになりました。
- 地域レポートで、米国のコネティカット州が誤ってオーストラリアンキャピタルテリトリーとして分類される問題を修正しました。この問題により、レポートにコネティカット州のデータが返されず、別のオーストラリアンキャピタルテリトリーのデータが返されていました。

## Social 2.3

Social 2.3 リリース（2013 年 2 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
投稿一覧レポート：画像と一緒に Excel にエクスポート	投稿一覧レポートの「画像と一緒に Excel にエクスポート」機能によって、投稿および画像をエクスポートし .zip ファイルに圧縮して、これらをアーカイブすることができます。
投稿：Facebook フォトアルバムの投稿	大きい画像の投稿タイプで、複数の画像をアップロードして Facebook フォトアルバムを作成できます。
アプリ：調査テンプレート	新しい調査テンプレートを使用して、質問に対するユーザーの回答を収集するアプリを作成できます。
アプリ：Coupon Code Generator 要素	有効なクーポンの数を指定するプロセスを改善しました。
ドキュメントのローカライズ	ドキュメントがフランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語（ブラジル）にローカライズされ、ご利用いただけるようになりました。日本語版は月末の公開に向けて準備中です。
ドキュメントの更新	お客様のフィードバックに基づき、ガイドを全体的に改善しました。

詳しくは、[Social の新機能](#)に関するページを参照してください。

### 修正点

- Facebook プレイスペース用の投稿を編集できない問題を修正しました。
- モバイルアプリのユーザーが既にページのファンであっても、そのページに「いいね！」をするよう求められていた問題を修正しました。

- Social でのアプリ作成時に SiteCatalyst 要素が含まれた場合、Microsoft Internet Explorer 9 および 10 で画像が Facebook に表示されない問題を修正しました。
- 投稿一覧レポートのエクスポート機能を強化し、Facebook のターゲット情報が含まれるようにしました。
- Social と Google+ との間でデータの相違（+1 やコメントの数など）が発生する問題を修正しました。
- 投稿の詳細（発言者、サマリ、プロバイダーなど）がキャンペーンの詳細レポートに含まれる問題を修正しました。
- アプリ内の一部のトルコ語文字が記号に置き換えられる問題を修正しました。

## Discover 3.1 メンテナンスリリース

Discover 3.1 メンテナンスリリース（2013 年 2 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

### 修正点

- Excel へのエクスポートプロセス中に表が折りたたまれた場合、レポートが生成されず、警告も表示されない問題を修正しました。
- Discover を使用してレポートの読み込みを行い、指標およびレポートの値を再読み込みすると、10 分以上かかることがある問題を修正しました。古いツールパネルが正しく消去されず、ユーザーインターフェイスに表示されていないパネルの項目についてもレポートが実行されることが原因でした。

この問題は修正されました。古いツールパネルを消去するには、デフォルト表示（**メニュー / ウィンドウ / デフォルト表示**）を実行します。システムがこのような状態になった場合、デフォルト表示にすると古いツールパネルがすべて消去されます。

- セグメント定義が大きい場合、Discover に保存できないことがある問題を修正しました。Discover が自動的に終了する前に与えられる 30 秒の間に、大きいセグメントフォルダーが保存されないことが原因でした。現在、Discover はすべてのセグメントフォルダーおよび指標フォルダーが保存されるまで終了しません。
- SiteCatalyst から Discover に渡されたセグメント定義内のエンコードされたアンパサンド（&）が原因で、Discover での実行時にルールの不一致が発生していました。SiteCatalyst および Discover でこの問題が修正され、セグメントと結果レポートが一致するようになりました。
- フォールアウトレポートとサイト分析レポートでの eVar（キャンペーン変数を除く）の処理方法に相違がありました。自動反映によって、新しい値が設定されるまで各ヒットに以前の eVar の値が割り当てられていました。パスレポートの場合、値は設定された最初のヒットからのみ使用することになっていましたが、自動反映された値を使用することにより、パスレポートの数値が大きくなり過ぎていました。この問題は修正されました。

## ReportBuilder 4.3

ReportBuilder 4.3 リリース（2013 年 2 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
配信失敗の通知	予定されていた ReportBuilder ワークブックの作成に失敗した場合、アドビから次の情報を提供する通知が電子メール送信されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ ワークブック名</li><li>・ 失敗の理由</li><li>・ 解決（トラブルシューティング）方法</li></ul>
新しいバージョンの通知	新しいバージョンがインストール可能な場合、ReportBuilder から通知されるようになりました。

### 修正点

- ・ 「セグメント」フィールドの表示の問題を修正しました。オートコンプリート機能によって、フォルダーに選択可能なセグメントが含まれていない場合でもセグメントフォルダーが表示されていました。
- ・ リクエストに削除済みの計算指標が含まれているときに発生する .NET 例外エラーを修正しました。
- ・ フィルターの定義ダイアログで発生する例外エラーを修正しました。このエラーは、「**すべてのアイテムを含む**」を選択して文字を入力した後で「OK」をクリックしたときに発生していました。
- ・ セルの書式設定で、フォントサイズを変更してからリクエストを保存および更新したときに発生していた問題を修正しました。フォント設定が、元の設定に戻されていました。

## クリックストリームデータフィード

### page\_url 列および page\_event\_var1 列の拡張

これらの列が、255 文字を超える URL を格納できるように拡張されました。この変更によって、以前は 255 文字に切り捨てられていた長いクエリ文字列などの値を含む可能性のある、各ページやトラッキング対象リンクの URL 全体を受け取ることができます。

この変更後、`page_url` および `page_event_var1` の長さは 255 バイトから 64 キロバイトに拡張されます。データフィードの処理に使用しているアプリケーションやスクリプトが 64 キロバイトの値を処理できることを確認してください。データフィードをデータベースに格納している場合は、`page_url` 列および `page_event_var1` 列が 64 キロバイトまでの文字列を十分格納できることを確認します。または、システムでこれらの列の切り捨てたバージョンが必要な場合、ETL が切り捨てを適切に処理するようにしてください。

この変更は `post_page_url` 列または `post_page_event_var1` 列には影響を与えません。これらの列は 255 文字のままです。

## 必要なアクションについて

拡張された列を処理するには、ETL プロセスをアップグレードする必要があります。

JavaScript AppMeasurement の最近のバージョンでは URL が 255 文字で切り捨てられるので、255 文字を超える URL の収集を開始するには JavaScript H.25.3（2013 年 1 月リリース）へのアップグレードが必要です。その他のデータ収集方法（その他の AppMeasurement ライブラリ、データ挿入 API、ハードコードされた画像リクエスト、フル処理データソースおよび過去のデータソースを含む）では URL が切り捨てられないので、今後はデータフィードで長い URL が受信される場合があります。

最新の情報については、[クリックストリームデータフィードのヘルプ](#)を参照してください。

## Web サービス API

Web サービス API について詳しくは、[developer.omniture.com](http://developer.omniture.com) を参照してください。

## AppMeasurement およびモバイル

JavaScript を除くすべてのプラットフォーム向け AppMeasurement ライブラリが、[Developer Connection](#) でホストされるようになりました。最新の JavaScript 版 AppMeasurement ライブラリと、ユーザーの保存したコードアーカイブは、従来どおり管理 **コンソール** / **コードマネージャー** からダウンロード可能です。

### JavaScript AppMeasurement

#### H.25.4

- `useForcedLinkTracking` の影響を受けるクリックイベントの範囲を絞り込みました。自動強制のリンクトラッキングは、次の場合にのみ適用されます。
  - <A> タグおよび <AREA> タグ
  - タグに `HREF` 属性が含まれている必要がある
  - `HREF` を #、`about:` または `javascript:` で始めることができない



- TARGET 属性が設定不可、または TARGET で現在のウィンドウ（\_self、\_top または window.name の値）を参照する必要がある
- 離脱リンクの自動トラッキングを変更し、#、about: または javascript: で始まる HREF 属性を含むリンクを常に見えなくするようにしました。

## その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

## DataWarehouse

DataWarehouse メンテナンスリリース（2013 年 2 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

- 地域レポートで、米国のコネティカット州が誤ってオーストラリアンキャピタルテリトリーとして分類される問題を修正しました。

## AudienceManager

AudienceManager メンテナンスリリース（2013 年 1 月）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
REST API	セッションの有効期限が切れた後で追加の呼び出しを行った場合、API から一般的な 500 エラーではなく 401 Unauthorized が返されます。

機能	説明
特性ビルダー、セグメントビルダー	コピーされた特性またはセグメントが、元の特性またはセグメントと同じ保存フォルダーに自動的に割り当てられるようになりました。ただし、必要に応じて別のフォルダーを選択できます。

## 修正点

- データベースで、ダッシュボード固有のユーザーグラフや数のデータが1日ずれる問題を修正しました。
- 特性ビルダーの使用時、特性サマリページでルールを表示し、特性ビルダーに戻って同じルールを変更した場合、前に作成した式への変更が保存されていませんでした。
- 保存先ビルダーで、ヘルプアイコンが半分に切れていました。
- 特性のサマリ表示ページの「データのカテゴリ」フィールドに情報が表示されていませんでした。

## Test&Target 3.3

Test&Target 3.3 リリース（2013 年 2 月 22 日）には、今後のリリースに備えて多くの非公開の変更が含まれています。これらの変更は、現時点でユーザーへの影響はありません。また、次の新機能が含まれています。

機能	説明
----	----

機能	説明
Test&Target 管理アクセス IP フィルター	<p>Test&amp;Target アカウントへのアクセスにどのコンピューターを使用するかを制御できます。例えば、会社の IP アドレスの範囲が 215.10.*.* の場合、その範囲外の IP アドレスを持つコンピューターを使用してサインインしようとするユーザーを Test&amp;Target で拒否するよう設定できます。</p> <p>この設定は、Test&amp;Target のスーパーユーザーが行う必要があります。この機能はクライアントの詳細ページにあります。</p> <p><b>IP フィルター</b>（現在は<b>レポート IP フィルター</b>に名前変更）と異なり、この新機能はホワイトリストです。アドレスまたは範囲が設定されている場合、設定されたアドレス範囲内のユーザーのみがサインインできます。管理アクセス IP フィルターが設定されていない場合、どの IP アドレスからもサインインできます。</p> <p>次のように、特定の IP アドレスを入力できます。</p> <p>215.10.155.20</p> <p>IP アドレスの範囲は、サブネットマスクを使用して次のように指定できます。</p> <p>215.10.0.0 255.255.0.0</p> <p>上記の組み合わせも可能です。例えば、会社と 1 つの家またはリモートオフィスからのアクセスを許可するには、次のように指定します。</p> <p>215.10.0.0 255.255.0.0</p> <p>119.10.54.16</p> <p>IP アドレスや範囲は、それぞれ個別の行に入力する必要があります。</p>
複数の訪問者プロフィール API	サードパーティのプロファイル API で、1 回の API 呼び出しによって複数のプロフィールを更新できるようになりました。

## 修正点

- 新しい Test&Target 管理**アクセス IP フィルター**と区別するため、「**IP フィルター**」の名称を「**レポート IP フィルター**」に変更しました。機能に変更はありません。

- 1:1 キャンペーンの古いレポート列から直接クリックしたとき、「適用」をクリックするまでレポートサマリページは古いもので、最新の結果が反映されません。値が大幅に異なることがあり、アナリストが古い値に反応する可能性があります。この問題は修正され、古い結果が提供されなくなりました。

## Search&Promote 8.9.5（日本未発売）

Search&Promote 8.9.5（2013 年 2 月 22 日）には、次の変更が含まれます。

### 修正点

- ファセットを動的に並べ替えることができるようになりました。
- バックエンドの検索 CGI パラメーター `sp_d_#` および `sp_date_range_#` が、ユーザー定義のメタデータフィールドに対して機能していませんでした。
- 重複の除外の問題により、検索結果の数が指定した数と等しくありませんでした。

Adobe Search&Promote の最新ドキュメントについては、[Search&Promote ドキュメントホーム](#)を参照してください。

## Survey 3.4

Survey は、このリリースでは更新されていません。

Survey について詳しくは、[Survey ユーザーガイド](#)を参照してください。

## SearchCenter 4.4

SearchCenter は、このリリースでは更新されていません。

SearchCenter について詳しくは、[SearchCenter ユーザーガイド](#)を参照してください。

## Genesis 3

更新された機能はありません。最新の情報については、2013 年 1 月のリリースノートの [Genesis 3 メンテナンスリリース](#)を参照してください。

## Insight 5.5

Insight の最新のリリースノートおよびドキュメントについては、[Insight 製品ドキュメント](#)を参照してください。

**重要:** このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:  
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Marketing Cloud リリースノート

Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

メンテナンスリリース発行日: **2013 年 3 月 22 日**

- [SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース](#)
- [SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース](#)
- [Social 2.4 メンテナンスリリース](#)
- [Discover 3.1 メンテナンスリリース](#)
- [ReportBuilder 4.3 メンテナンスリリース](#)
- [DataWarehouse](#)
- [Web サービス API](#)
- [AppMeasurement およびモバイル](#)
- [AudienceManager](#)
- [Genesis 3.1 メンテナンスリリース](#)
- [Search&Promote 8.9.6 \(日本未発売\)](#)
- [Recommendations 2.14](#)
- [Insight 5.5](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [ClickMap](#)
- [Survey 3.4](#)
- [SearchCenter 4.4](#)

## SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース (2013 年 3 月 22 日) には、次の変更が含まれています。

機能	説明
----	----

機能	説明
すべてのトラフィック変数でクロス集計が可能	<p>相関関係がすべてのトラフィック変数に対して使用できるようになりました。SiteCatalyst のトラフィックレポートでラインアイテムを他の任意のトラフィック変数でクロス集計できます。</p> <p>これまでに設定されていなかった相関関係の履歴データは、SiteCatalyst 15 のアップグレード移行日以降のデータに対して使用できます。</p> <p>SiteCatalyst 15 のアップグレード日より前に設定された相関関係については、相関関係が有効となった日付以降の履歴データが引き続き保持されます。</p> <p>現在相関関係を使用しているブックマーク、ダッシュボードおよび他のレポートは影響を受けず、引き続き想定どおりに機能します。</p> <p>相関関係を手動で設定する必要がなくなったことから、この変更の一環として、管理コンソールからデータの相関関係設定ページが削除されました。</p>

機能	説明								
<p>イベントリスト内で小数点以下の値を含む数値 / 通貨イベントが定義できるようになりました。</p>	<p>イベントリスト内の数値 / 通貨イベントに対して 10 進数値を指定できるようになりました。以前は、これらのイベントに対する 10 進数値は製品変数内で記載されていた場合にのみサポートされました。イベントリスト内の数値 / 通貨イベントの値は、製品リスト内のすべての製品 ID に適用されます。</p> <p>これは、個別の製品に対してセットする価格に影響を与えることなく、または製品リスト内の製品価格を別に追跡することによって、注文全体にわたる割引額や送料などの値を追跡するのに役立ちます。例えば、<i>event10</i> に注文全体にわたる割引額をセットした場合、10 % 割引のある購入は次のようになります。</p> <div data-bbox="548 693 1490 772" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <pre>s.events="purchase,event10=9.95" s.products=";Shoes;1;69.95,;Socks;10;29.50"</pre> </div> <p>注文全体にわたる割引（<i>event10</i>）レポートには、次のように表示されます。</p> <table data-bbox="548 934 1490 1222"> <tr> <th>製品</th><th>Event10</th></tr> <tr> <td>Shoes</td><td>9.95</td></tr> <tr> <td>Socks</td><td>9.95</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>9.95</td></tr> </table> <p>レポートの合計は、重複を排除したイベントの合計（レポート期間中の割引の総量）を表し、各製品に対するイベントの値の合計ではありません。</p> <p>数値 / 通貨イベントの値が製品文字列内およびイベント文字列内の両方で指定されている場合、イベント文字列の値が使用されます。</p>	製品	Event10	Shoes	9.95	Socks	9.95	合計	9.95
製品	Event10								
Shoes	9.95								
Socks	9.95								
合計	9.95								
<p>訪問者の移行に関する変更</p>	<p>サードパーティ cookie からファーストパーティ cookie への移行（またはその他の cookie の移行）を計画している場合の、訪問者の移行プロセスが変更されました。</p> <p>セキュリティ強化のために、訪問者の移行は、お客様のデータ収集コードでのデータ収集変数の使用によってではなく、ClientCare によってデータ収集サーバー上で設定されるようになりました。</p>								



機能	説明
リンクトラッキングのリダイレクトに関する変更	<p>               今回のリリースにおいて、リンク先 URL をアドビのデータ収集サーバーとして設定し、クリックを追跡した後、url クエリパラメーターを使用してリダイレクトを可能にするメカニズムに制限が導入される予定です。次に例を示します。             </p> <div data-bbox="558 401 1398 430" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <pre>&lt;a href="metrics.myco.com/b/ss/...&amp;url=http://somesite.com"</pre> </div> <p>               セキュリティ強化のために、リダイレクトが許可されるドメインについて制限が設けられます。この変更後は、リダイレクトが許可されるドメインのホワイトリストを指定することが必要になります。このリストにないドメインにリダイレクトしようとすると、「403 許可されていません」エラーがブラウザに返されます。             </p> <p>               アドビでは、現在使用中のリダイレクト URL に基づいてホワイトリストに事前登録するために、この機能を使用しているレポートスイートの監査を実行中です。お客様のレポートスイート用のホワイトリストの確認および更新を行うには、ClientCare にお問い合わせください。             </p> <p>               リンクトラッキングのリダイレクトは、現在リダイレクトを使用している場合を除き、デフォルトで無効になります。             </p>
国際郵便番号	<p>               2013 年 2 月 28 日以降、アドビのデータ収集サーバー側でセットするように設定されたレポートスイートの「訪問者の郵便番号」に、米国以外における郵便番号が表示されるようになりました。             </p> <p>               また、IP から 郵便番号へのマッピングメカニズムをアップグレードしたことで、精度が向上しました。このアップグレードの結果、一部の郵便番号に対応した指標が変動する可能性があります。             </p>
処理ルールのカスタム名	<p>               処理ルールに対してカスタム名を指定できるようになりました。これまでは、名前は操作や選択されている変数に基づいて自動的に作成されていました。             </p>
Internet Explorer 6 に対する SiteCatalyst UI との互換性テストの廃止	<p>               Internet Explorer 6 について、SiteCatalyst の UI との互換性テストは実施されなくなりました。Internet Explorer 6 を使用するお客様からのご要望に応じて、データ収集は引き続きご利用いただけます。             </p>

## 修正点

- ・ レポートを CSV でダウンロードした場合にコラムヘッダーが空白になることがある問題を修正しました。
- ・ データ抽出の画面表示に長くかかったり、場合によってはタイムアウトする問題を修正しました。
- ・ ダッシュボードとレポートレットで日付が 1 日進むことがある問題を修正しました。
- ・ ダッシュボードで表示したときの画像とダウンロードした PDF 形式のレポートで画像の位置が異なる問題を修正しました。
- ・ Test&Target キャンペーンが SiteCatalyst で表示されないことがある問題を修正しました。
- ・ 実訪問者を含む計算指標が、お気に入りメニューの計算指標リストに表示されない問題を修正しました。
- ・ ユーザーが管理コンソールを使用してコンバージョン変数を編集できないことがある問題を修正しました。
- ・ 多数のメンバーを含むユーザーグループの編集または削除を行うことができない問題を修正しました。
- ・ 長い名前を持つユーザーグループが管理コンソールに表示されない問題を修正しました。  
255 バイトを超える長さのユーザーグループをユーザーが作成できないようにする入力チェック機能が導入されました。
- ・ サマータイムが適用されていないレポートスイートで時間別精度を使用すると、3 月 11 日午前 2 時のデータがトレンドレポート（ページビュー数およびイベント数）に表示されず、午前 3 時のデータとして表示される問題を修正しました。

## SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

- ・ レポートスイートの合计数レポートの「指標セレクター」には、そのレポートでサポートされている計算指標のみが表示されるようになりました。
- ・ レポートを CSV でダウンロードした場合にコラムヘッダーが空白になることがある問題を修正しました。
- ・ ダッシュボードとレポートレットで日付が 1 日進むことがある問題を修正しました。
- ・ Test&Target キャンペーンが SiteCatalyst で表示されないことがある問題を修正しました。
- ・ ユーザーが管理コンソールを使用してコンバージョン変数を編集できないことがある問題を修正しました。

- 多数のメンバーを含むユーザーグループの編集または削除を行うことができない問題を修正しました。
- 長い名前を持つユーザーグループが管理コンソールに表示されない問題を修正しました。  
255 バイトを超える長さのユーザーグループをユーザーが作成できないようにする入力チェック機能が導入されました。
- サマータイムが適用されていないレポートスイートで時間別精度を使用すると、3 月 11 日午前 2 時のデータがトレンドレポート（ページビュー数およびイベント数）に表示されず、午前 3 時のデータとして表示される問題を修正しました。

## Social 2.4 メンテナンスリリース

Social 2.4 メンテナンスリリース（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
アプリ：Twitter テンプレート	新たに Twitter テンプレートを追加しました。これにより、アプリ内の Twitter フィードを迅速に表示することができます。
Twitter 機能	Twitter API の変更に伴い、Twitter 機能を更新しました。ユーザーに表示される機能については、Twitter フィードエレメントから「ユーザーの画像を表示」設定が削除された以外に変更はありません。
言語サポート	メニューからアクセスできるドキュメントが日本語化されました。 リスニング、発行、モデレーターの各機能においてヘブライ語とアラビア語がサポートされるようになりました。

詳しくは、[Social の新機能](#)に関するページを参照してください。

### 修正点

- ユーザーが Social の利用中にログアウトされる問題を修正しました。
- 主要指標レポートの「メンション」が想定より小さくなる問題を修正しました。
- Twitter アカウントの再認証によって、アカウントの所有者がリセットされ、ユーザーグループのメンバーがそのアカウントにアクセスできなくなる問題を修正しました。
- レガシーアプリケーションの編集時に、「画像をアップロード」ボタンが表示されない問題を修正しました。

# Discover 3.1 メンテナンスリリース

Discover 3.1 メンテナンスリリース（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

## 修正点

- 管理者でないユーザー、または明示的な管理アクセス権限を持つグループに属していないユーザーがレポートを実行すると 310 エラーが発生することがありました。この不具合は、個別の権限ごとに設定が有効になるように修正されました。
- 予定レポートマネージャーでレポートをスケジュールし、配信の終了項目内にある「[多数] 回後に終了」フィールドに日付を入力した場合、入力した値に関わらず、そのスケジュールが当日の後に終了する不具合が修正されました。さらに、「保存」ボタンをクリックした後に、「終了日の計算」メッセージが表示され、スケジュールされたアクションがいつ期限切れになるかが示されます。
- 英語以外の言語で Discover を利用し、30 分間放置したためにセッションがタイムアウトした場合に、メニューが英語に変更される不具合が修正されました。
- SiteCatalyst 15 への移行日をまたいだレポートを作成した場合に、予定レポートでゼロが表示されることがある不具合を修正しました。
- 「地域 - 国」レポートの各国の購入回数が正しく配分されていなかったことにより、行項目の合計が購入回数の合計より極端に少なく表示されていた問題を修正しました。修正後は、国のデータは訪問の間ずっと維持されるようになったので、購入回数は購入イベントを伴う訪問ごとに適切な国に配分されるようになりました。
- 米国のレポートにオーストラリアンキャピタルテリトリーが表示されていた問題が修正されました。
- 2013 年 2 月 22 日以降、米国の州についての地理特性レポートにデータが表示されなくなりました。この修正により、すべての履歴データが返されるようになります。各州のデータを表示したい場合は、国が米国に設定されている、訪問回数を含むセグメントを使用して、地域レポートを実行します。

# ReportBuilder 4.3 メンテナンスリリース

ReportBuilder メンテナンスリリース（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

## 新機能

機能	説明
----	----

機能	説明
<p>ReportBuilder でのスケジュールされたタスクの管理</p>	<p>管理者 / 会社名 / <b>ReportBuilder レポート</b>をクリックします。</p> <p>この画面で、管理者が ReportBuilder へのアクセス権限を持つすべてのユーザーを表示し、各ユーザーにいくつかの使用可能なスケジュールされたタスクがあるかを確認できるようになりました。各 ReportBuilder ユーザーライセンスでは、自動的に 10 個のスケジュールされたタスクが割り当てられます。必要に応じて、それらのスケジュールされたタスクを調整したり、再度タスクを割り当てたりできます。</p> <p>SiteCatalyst ユーザーに ReportBuilder へのアクセス権限を付与する方法については、管理ヘルプの「<a href="#">ユーザー</a>」を参照してください。</p> <hr/> <p><b>注意：</b> スケジュールされたタスクの数は、ユーザー当たり使用可能なタスク数を超えることはできません。使用可能な数をスケジュールされている合計数よりも小さな値として設定しようとすると、警告が表示され、予定レポートを削除することができます。</p> <hr/>
<p>Excel でマクロを使用したリクエストの最新の情報への更新</p>	<p>VBA から呼び出すことができる ReportBuilder API の 3 つのメソッドのサポートが追加されました。</p> <p>前提条件：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マクロを実行するコンピューターに、最新の ReportBuilder クライアントアプリケーションをインストールする。</li> <li>マクロを実行する前に、ReportBuilder にログインする。</li> </ul> <p>セキュリティ上の理由から、マクロを含むブックは ReportBuilder のスケジュールリングインターフェイスをとおしてスケジュールすることはできません。</p> <p><b>RefreshAllReportBuilderRequests()</b></p> <p>次のマクロは、アクティブなブック内のすべての ReportBuilder リクエストを最新の情報に更新します。</p> <pre> Sub RefreshAllReportBuilderRequests()      Dim addIn As COMAddIn     Dim automationObject As Object     Dim success As Boolean      'First step is to invoke the ReportBuilder COM Addin through its Product ID     Set addIn = Application.COMAddIns("ReportBuilderAddIn.Connect")     Set automationObject = addIn.Object      ' Once the Addin has been retrieved, invoke the RefreshAllRequests() API     success = automationObject.RefreshAllRequests(ActiveWorkbook)  End Sub </pre>



- 予定レポートのエラーメッセージに正しくないファイル名やレポート名が表示される問題を修正しました。
- 「日付を修正」オプション使用時にアクセス権エラーが発生する問題を修正しました。

## DataWarehouse

DataWarehouse メンテナンスリリース（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

### 修正点

- 既存のリクエストに対する行数制限の変更が適用されない問題を修正しました。
- データ量が多い DataWarehouse リクエストが、「分類アプリケーションがクラッシュしました」という内容のエラーメッセージを表示して失敗することがある問題を修正しました。
- セグメントルールで「&」が「&」で置き換えられました。

## Web サービス API

Web サービスメンテナンスリリース（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

- レポート API で異常検出が利用できるようになりました。この機能によって、上界、下界および予測データを取得することができます。[SiteCatalyst レポート API](#)を参照してください。
- 管理コンソールのコードマネージャーをシミュレートする CodeManager API が廃止されました。コードアーカイブは管理コンソールで引き続き使用できます。

Web サービス API について詳しくは、[developer.omniture.com](http://developer.omniture.com) を参照してください。

## AppMeasurement およびモバイル

JavaScript を除くすべてのプラットフォーム向け AppMeasurement ライブラリが、[Developer Connection](#) でホストされるようになりました。最新の JavaScript 版 AppMeasurement ライブラリと、ユーザーの保存したコードアーカイブは、従来どおり管理コンソール / コードマネージャーからダウンロード可能です。

--	--

<p>カスタムタイムスタンプの形式に関する変更</p>	<p>カスタムタイムスタンプ (<code>s.timestamp</code> 変数を使用) を ISO-8601 形式で指定する場合、次のような変更が行われています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日付と時刻を「T」で区切り、両方を指定する必要があります。</li> <li>• 日付はすべて揃った暦日付（年、月および日）であることが必要です。曜日と年間通算日はサポートされません。</li> <li>• 日付は、標準形式または拡張形式（YYYY-MM-DD または YYYYMMDD）が可能です。どちらの形式でも時間と分は含める必要があります。秒は省略可能です（HH:MM、HH:MM:SS、HHMM または HHMMSS）。分と秒の小数点以下の部分は、渡すことはできますが無視されます。</li> <li>• タイムゾーンは省略可能で、標準形式または拡張形式で指定できます（±HH、±HH:MM、±HH、±HHMM または Z）。</li> </ul> <div data-bbox="537 856 1490 997"> <pre>2013-01-01T12:30:05+06:00 2013-01-01T12:30:05Z 2013-01-01T12:30:05 2013-01-01T12:30</pre> </div> <p>UNIX タイムスタンプは引き続きサポートされます（1970 年 1 月 1 日からの秒数）。</p>
-----------------------------	--

## その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

## AudienceManager

AudienceManager メンテナンスリリース（2013 年 2 月）には、次の変更が含まれています。



## 新機能

機能	説明
宣言済み ID のターゲティング	宣言済み ID は、サードパーティ cookie のような持続的ストレージメカニズムを使用しないデバイスやブラウザとユーザー ID の交換および同期を行うのに役立ちます。「 <a href="#">宣言済み ID</a> 」を参照してください。

## Genesis 3.1 メンテナンスリリース

Genesis メンテナンスリリース（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

### デベロッパーセンターに関する修正

- ・ リスト変数の保存時に、「不明なエラーが発生しました」というメッセージが誤って表示される問題を修正しました。
- ・ 「リソースを追加」ページのロケールメニューですべての言語が表示されるように修正しました。

### 修正点

- ・ DFA 統合：データをインポートできない問題を修正しました。
- ・ DFA プラグイン：Adobe CQ との統合に関する問題を修正しました。
- ・ Salesforce 統合：データエラーを解決するために全般的なバックエンドの強化が行われました。

## Search&Promote 8.9.6（日本未発売）

Search&Promote 8.9.6（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

### 修正点および改良点

- ・ **パスバー**から 0 の値が削除されていませんでした。
- ・ 直接ヒットの大きなリストが処理されたときにエラーが発生していました。
- ・ 1 つ以上の**ビジネスルール**のライブをプッシュしたときの処理が強化されました。

Adobe Search&Promote の最新ドキュメントについては、[Search&Promote ドキュメントホーム](#)を参照してください。

## Recommendations 2.14

Recommendations のこのリリース（2013 年 3 月 22 日）には、次の変更が含まれています。

Recommendations は Adobe Target 内で不可欠な機能となりました。Adobe Target は Adobe Marketing Cloud の一部であり、Test&Target、Test&Target 1:1（自動行動ターゲティング）、地域ターゲティング、分析論に基づいたターゲティング、Recommendations および Search&Promote を統合した機能を活用して、売り上げへの効果があるデータ駆動型のパーソナライゼーションを提供するソリューションです。このツールの次のアップグレードの大部分では、データとプロフィールの統合、拡張されたアルゴリズムのオプション、Recommendations 内でのキャンペーンの作成およびデプロイにおける新しい効率性がサポートされます。固有のメリットとして、他の Adobe Target 機能との Adobe Marketing Cloud 全体にわたる強力なコラボレーションなどがあります。

機能	説明
ドロップダウンからの mbox の選択	使用可能な mbox は Recommendations の編集ページのメニューに一覧表示されます。サイト内を参照して mbox を検索する必要がなくなりました。
mbox の配布ターゲティング	<p>特定の条件に合致したときに mbox でのみ表示するように Recommendations を制限できます。この条件には、特定の URL 値、mbox パラメーター値、プロフィール値との一致などがあります。これらのルールは各 mbox リクエストごとに再評価されます。この新機能を使用すると、複数の推奨を 1 つの mbox 名で設定し、異なる状況で表示されるようにすることができます。</p> <p>例えば、/women/ を含む URL に mbox をターゲット設定して、あるレコメンデーションを女性用の製品ページに表示し、男性用のページには URL に /mens/ が含まれる場合にそのレコメンデーションを表示するようにできます。この場合、同じ mbox 名がすべての製品ページにわたって使用される場合でもかまいません。</p>

機能	説明
複数のクライアント環境（ホストグループ管理）に対するサポートの強化	<p>複数のホストグループ環境をサポートするために、次のように強化されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート表示対象のホストグループを選択できます。 デフォルトとして設定されているホストグループのレポートが表示されます（別のホストグループが選択されていない場合）。</li> <li>ホストグループは検索の詳細ページに表示されます。</li> <li>CSV ファイルのアップロード時およびフィードの設定時に、複数のホストグループを設定できます。</li> </ul>
「一致しない」オプションを含めることができるようにする包含フィルターの強化	ある属性がキーの属性と一致しない場合にデータを含めることができるようになりました。
複数のフィルター包含ルール	複数の「次の場合にのみ含める」フィルターを使用できます。2 つ以上のフィルターを使用する場合、フィルターは AND を使用して結合されます。

## Insight 5.5

Insight の最新のリリースノートおよびドキュメントについては、[Insight 製品ドキュメント](#)を参照してください。

## クリックストリームデータフィード

このメンテナンスリリースでは更新されていません。

最新の情報については、[クリックストリームデータフィード](#)のヘルプを参照してください。

## ClickMap

このメンテナンスリリースでは更新されていません。

## Survey 3.4

Survey は、このメンテナンスリリースでは更新されていません。

Survey について詳しくは、[Survey ユーザーガイド](#)を参照してください。

## SearchCenter 4.4

SearchCenter は、このメンテナンスリリースでは更新されていません。

SearchCenter について詳しくは、[SearchCenter ユーザーガイド](#)を参照してください。

**重要:** このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Marketing Cloud リリースノート

Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

2013 年 4 月 19 日

## Adobe Analytics

- [SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース](#)
- [SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース](#)
- [DataWarehouse](#)
- [ReportBuilder 4.3 メンテナンスリリース](#)
- [Discover 3.1 メンテナンスリリース](#)
- [Insight 5.5](#)
- [Genesis 3.1 メンテナンスリリース](#)
- [AppMeasurement およびモバイル](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)

## Adobe Target

- [Recommendations](#)
- [Search&Promote](#)
- [Test&Target](#)

## Adobe Social

- [Social](#)

## Adobe Experience Manager

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7](#)

## Adobe Media Optimizer

- [AudienceManager](#)
- [AdLens](#)
- [SearchCenter](#)

## Marketing Cloud のサービス

- [TagManager 2.0](#)
- [Web サービス API](#)

## TagManager 2.0

新しいバージョンの TagManager が使用できるようになりました。TagManager 2.0 リリース（2013 年 4 月 19 日）には、次の新機能が含まれています。

機能	説明
製品にとらわれないページコード	Adobe Marketing Cloud の全製品で新しいページタグ機能がサポートされます。
アップグレードウィザード	TagManager 1.0 から TagManager 2.0 へコンテナをアップグレードするためのワークフローを手順に沿って進めることができます。
完全にホストされたタグローダー	アドビが提供する CDN 上で、タグローダーをホストすることが可能になりました。これにはエラー防止のための可用性保護機能が組み込まれています。今後、自社の Web サーバーで JavaScript をホストする必要がなくなります。
Test&Target	Test&Target mbox.js およびグローバル mbox 実装の同時配信をサポートします。
同期タグと非同期タグ	同期タグと非同期タグを同じタグコンテナ内で配信できます。
リモートスクリプト読み込み	URL で指定することでリモートスクリプトを読み込めるようになりました。
強化されたタグ発行規則	タグ発行を管理するための規則の作成機能が強化され、再利用や正規表現がサポートされました。
強化された HTML タグのサポート	タブに HTML コードが含まれる場合のサポートが強化されました。
TagManager 1.0 との互換性	現行の TagManager ページコードおよびコンテナとの後方互換性があり、最新の TagManager アーキテクチャへ移行するための移行ウィザードなどの機能を備えています。

[TagManager のドキュメント](#)を参照してください。

## SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 15.4 メンテナンスリリース（2013 年 4 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

## 新機能

機能	説明
(準備中) 新しいバージョンの JavaScript AppMeasurement	<p>新しい JavaScript AppMeasurement ライブラリが今後のリリースで使えるようになります。このライブラリは <code>s_code.js</code> と同じ機能を提供しますが、モバイルサイトとデスクトップサイトのどちらで使ってもより軽量で高速です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• H.25 コードと比較して 3 倍 ~ 7 倍も高速</li><li>• わずか 21K の非圧縮コード、8K の gzip 圧縮コード (H.25 コードでは、33K もの非圧縮コード、13K の gzip 圧縮コード)</li><li>• いくつかの共通プラグインに対するネイティブサポート (クエリパラメーターの取得、Cookie の読み取り / 書き込み、URL のエンコード、高度なリンクトラッキング)</li><li>• モバイルサイトで使えるほど軽量かつ高速で、フルデスクトップ Web で使えるほど堅牢。1 つのライブラリを Web 環境全体で活用できます。</li></ul> <p>このライブラリは 2013 年 5 月のメンテナンスリリースよりコードマネージャーでご利用いただけるようになる予定です。</p> <hr/> <p><b>注意:</b> この新しいバージョンでは、一部のプラグインはサポートされません。コードが完成しだい、プラグインの互換性とサポートされているプラグインの一覧を提供いたします。</p> <hr/>
分析のモバイルアプリレポート	ライフサイクル指標を活用したモバイルアプリレポートで定義済みのダッシュボードが利用できるようになりました。
GEO セグメントレポートでのコンバージョン指標	地域に基づいたコンバージョン KPI についてレポートできるようになりました。これにより、コンバージョンイベント別にもっとも重要な地域を特定することができます。
Internet Explorer 6 に対する SiteCatalyst UI との互換性テストの終了	Internet Explorer 6 について、SiteCatalyst の UI との互換性テストは実施されなくなりました。Internet Explorer 6 を使用するお客様からのご要望に応じて、データ収集は引き続きご利用いただけます。

機能	説明
ログインのドロップダウンメニューで SiteCatalyst 15 がデフォルトで選択	過去に別のバージョンを選択した場合を除き、ログインメニューで SiteCatalyst 15 がデフォルトで選択されるようになりました。
ヒットにおける単一値の上限増加	単一ヒットでの単一値に対する上限が 32 bit から 64 bit に増加しました。これにより、世界通貨でさらに大きい値が使用できるようになりました。例えば、32 bit 値では 2,147,483,648 までの割り当て値を保持することができます。小数値では第 2 位までが必要（例：ドルに対するセント）なので、残りの最大値は単一の売上高値として 21,474,836 までしか到達できません。64 bit に変更すると、国際通貨の評価に必要な値をより大きく設定することができます。
Social メニューの追加	Adobe Analytics と Adobe Social の両方を使用している場合、SiteCatalyst の左側のナビゲーションメニューに新しい Social メニューが追加されます。このメニューには、Social 測定の一部として実装されているイベントと変数が含まれています。

詳しくは、[SiteCatalyst 15 のヘルプ](#)を参照してください。

## 修正点

- 指標の合計を使用して算出された指標が、カスタムのデータ範囲に対して正しくレポートされていませんでした。
- Segment Definition Builder の読み込みに時間がかかる原因となっていた、多数のセグメントの読み込み時にパフォーマンスが下がるという問題が修正されました。
- いくつかの Windows Phone デバイスが、Mobile Operating Systems Report に Windows デバイスとして表示されていませんでした。
- レポートスイート名に特殊文字を使用した場合、管理コンソールにアクセスするとエラーが表示されていた問題が修正されました。
- ライフサイクル指標が予約変数に正しくマッピングされないというモバイルアプリケーションのレポート機能に関する問題が修正されました。
- 少数の分類がデータ抽出に正しく表示されないという問題が修正されました。
- 特定の行項目を選択しようとしたときに一部の行項目がデータ抽出フィルターに表示されないという問題が修正されました。
- 英語以外の言語で発生していた予定レポートおよびダウンロードしたレポート内の日付形式の問題が修正されました。



- 特定の日付範囲と精度の組み合わせで、トレンドレポートの x 軸が正しく表示されないという問題が修正されました。
- 制限付き管理者アクセス権限を持つユーザーに発生していた、管理コンソールにおけるレポートスイート設定の表示上の問題が修正されました。
- 75 件を超えるイベントがある場合のコンバージョン権限に関する問題が修正されました。
- ReportBuilder ユーザーグループに許可されているライセンス数よりも多くのユーザーを追加できるという問題が修正されました。
- 処理規則の表示がログイン中のユーザーによって変わるという問題が修正されました。
- ダッシュボードからダウンロードした PDF レポートのテキストレポートレットに HTML の List タグが含まれていると書式が崩れるという問題が修正されました。

## SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース（2013 年 4 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

### 修正点

- ClickMap レポートが最適化され、読み込みが速くなりました。
- Segment Definition Builder の読み込みに時間がかかる原因となっていた、多数のセグメントの読み込み時にパフォーマンスが下がるという問題が修正されました。
- いくつかの Windows Phone デバイスが、Mobile Operating Systems Report に Windows デバイスとして表示されていませんでした。
- ロールアップレポートで月間トレンドが選択されたときに、ビデオビューがレポート期間より前の誤った日付で不正確に集計されていました。
- レポートスイート名に特殊文字を使用した場合、管理コンソールにアクセスするとエラーが表示されていた問題が修正されました。
- 特定の行項目を選択しようとしたときに一部の行項目がデータ抽出フィルターに表示されないという問題が修正されました。
- 英語以外の言語で発生していた予定レポートおよびダウンロードしたレポート内の日付形式の問題が修正されました。
- 制限付き管理者アクセス権限を持つユーザーに発生していた、管理コンソールにおけるレポートスイート設定の表示上の問題が修正されました。
- 75 件を超えるイベントがある場合のコンバージョン権限に関する問題が修正されました。
- ReportBuilder ユーザーグループに許可されているライセンス数よりも多くのユーザーを追加できるという問題が修正されました。

- ・ダッシュボードからダウンロードした PDF レポートのテキストレポートレットに HTML の List タグが含まれていると書式が崩れるという問題が修正されました。

## DataWarehouse

DataWarehouse 15.4 メンテナンスリリース（2013 年 4 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
レポートでページの URL 機能が使用可能	現在のレポートと履歴レポートでページの URL 機能を使用できるようになりました。

### 修正点

- ・二重のバックスラッシュを含む値が分類されませんでした。この問題は、一部の環境で MySQL がバックスラッシュを別のバックスラッシュでエスケープしている場合に発生していました。これらの値は今回のリリースで正しく分類されるようになりました。
- ・DataWarehouse の読み込みに時間がかかる原因となっていた、多数のセグメントの読み込み時にパフォーマンスが下がるという問題が修正されました。

## ReportBuilder 4.3 メンテナンスリリース

ReportBuilder 4.3 メンテナンスリリース（2013 年 4 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	
フィードバック調査	ReportBuilder を起動したときに表示され、その後 90 日ごとに表示されるアンケート調査を追加しました。このアンケート調査に回答し、ReportBuilder の改善に役立つフィードバックをお送りください。

### 修正点

- ・検索エンジンレポートの分類に検索指標が追加されました。
- ・SiteCatalyst 15 で可能だったトラフィックソース間の完全な下位関連付けを行えないという問題が修正されました。たとえば、ReportBuilder で自然検索エンジンレポートを実行し、サイトセクションのディメンションを使って下位関連付けを行うことはできませんでした。
- ・コマースイベントが地域レポートに追加されました。

- さらに多くのレポートに、Social 指標とビデオ指標が追加されました。

## Discover 3.1 メンテナンスリリース

Discover 3.1 メンテナンスリリース（2013 年 4 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

### 修正点

- Mac OS と Java 7 との間の非互換性の問題が解決されました。Java 7 を実行する Mac OS で、Discover を起動して実行できるようになりました。
- Discover では、単一ヒットに対する単一値に 64 bit を使用できるようになりました。以前の値は 32 bit でした。

実際には通貨全体の売上高コンバージョンではさらに大きな値が必要になります。例えば、32 bit 値では 2,147,483,648 までの割り当て値を保持することができます。小数値では第 2 位までが必要（例：ドルに対するセント）なので、残りの最大値は単一の売上高値として 21,474,836 までしか到達できません。64 bit に変更すると、国際通貨の評価に必要な値をより大きく設定することができます。

- Discover 1.5 が廃止されます。2013 年 4 月 19 日以降は使用できなくなり、サポート対象外となります。
- 計算指標を作成した後、または指標やセグメントの名前を変更した後に「保存」をクリックするとエラーが返されましたが、この問題は修正されました。
- 制限付きアクセスが設定されていたスイートが、Discover に表示されていました。これらの非表示レポートスイートは、Discover のユーザーインターフェイスには表示されなくなり、SiteCatalyst にリストされるレポートスイートに対応付けられるようになりました。
- 5 月の Discover 3.2 リリースから作成されるコンマ区切り（csv）ファイルには、次の更新が含まれています。
  - データにおいて、小数以下の桁数は Discover のユーザーインターフェイスに表示される桁数と一致するようになります。例えば、パーセンテージはデフォルトで 2 桁になります。また、計算指標では特定の桁数（デフォルトは 2）になります。
  - テキストにおいて（ページ名など）、バックスラッシュ文字は削除されなくなります。これまでは、\new\ は new と表示されていました。
  - データにおいて、NaN（数字ではない）は以前はゼロとして表示されていましたが、「NaN」と表示されるようになりました。
  - 見出しが SiteCatalyst から Discover に変更されました。
  - 見出しには、更新された著作権に関するメッセージが含まれるようになりました。

[Discover の新機能](#)に関するページを参照してください。

## Insight 5.5

Insight の最新のリリースノートおよびドキュメントについては、[Insight 製品ドキュメント](#)を参照してください。

### Genesis 3.1 メンテナンスリリース

Genesis 3.1 メンテナンスリリース（2013 年 4 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

#### 機能

機能	
Dev Center：イベント変数グループ	イベントフィルターの機能が強化され、統合ウィザードのイベントドロップダウンに複数のカスタムイベントタイプ（カウンター、通貨および数値）を表示できるようになりました。

Genesis の最新のリリース情報については、[Genesis の新機能](#)を参照してください。

#### 修正点

- 統合ウィザードの 7（イベントマッピング）のステップ 4 で、SiteCatalyst イベントグループのイベント 1 に誤った値が表示されるという問題が修正されました。
- Dev Center で、数式にカスタムイベントが含まれていると計算指標を追加できないという問題が修正されました。以前は「指定された数式は無効です。」というエラーが表示されていました。
- サマータイム時間で日数が不足するという日付範囲スクリプトの問題が修正されました。
- DFA プラグインで CQ が発生するという統合の問題が修正されました。

### Web サービス API

Web Services メンテナンスリリース（2013 年 4 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

- レポート API での異常検出に関する体験版の期間がカスタマイズされました。
- API の応答時間が改善されました。
- キューでのレポートの待機時間が減少しました。
- accountsummary 要素の mobile\_hits、mobile\_visits、および mobile\_visitors の各指標が SiteCatalyst 15 に適合するように調整されました。

Web サービス API について詳しくは、[developer.omniture.com](http://developer.omniture.com) を参照してください。

# AppMeasurement およびモバイル

## JavaScript AppMeasurement (レガシー)

### H.25.5

- 一部の Android 2.2 デバイスで JavaScript エラーが発生していた強制リンクトラッキングの問題が修正されました。
- Windows Media Player のビデオ自動トラッキングで、再生時間が正確にトラッキングされなかったスクラビングの問題が修正されました。

## その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

## クリックストリームデータフィード

このリリースでは更新はありません。

最新の情報については、[クリックストリームデータフィードのヘルプ](#)を参照してください。

## Recommendations

このリリースでは更新はありません。

Recommendations の最新ドキュメントについて詳しくは、[Recommendations の新機能](#)に関するページを参照してください。

## Search&Promote

このリリースでは更新はありません。

最新の情報について詳しくは、[Search&Promote のドキュメントホーム](#)を参照してください。

## Test&Target

このメンテナンスリリースには次の修正が含まれています。

SiteCatalyst で、マルチバイト文字（日本語など）を含むキャンペーン名に疑問符が含まれていた問題を修正しました。現在では、キャンペーンに分類が設定されると、マルチバイト文字でも正しく表示されます。

最新の情報について詳しくは、[Test&Target の新機能に関するページ](#)を参照してください。

## Social

2013 年 4 月 19 日にリリースされた Adobe Social では、バックエンドのパフォーマンス強化とバグ修正が行われています。

最新ドキュメントについて詳しくは、[Social のヘルプ](#)を参照してください。

## Scene7

Scene7 の最新のリリース情報について詳しくは、[Scene7 Publishing System Release Notes](#) を参照してください。

## AudienceManager

このリリースでは更新はありません。

最新の情報について詳しくは、[AudienceManager のヘルプ](#)を参照してください。

## AdLens

AdLens の最新情報については、[ヘルプ / ヘルプコンテンツ](#)をクリックしてください。

## SearchCenter

このリリースでは更新はありません。

最新の情報について詳しくは、[SearchCenter のヘルプ](#)を参照してください。

**重要:** このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:  
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Marketing Cloud リリースノート

Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: 2013 年 5 月 24 日

## Adobe Analytics

- [SiteCatalyst 15.5](#)
- [SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース](#)
- [ReportBuilder 4.4](#)
- [ClickMap](#)
- [DataWarehouse](#)
- [Web サービス API](#)
- [AppMeasurement およびモバイル](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [Genesis 3.1 メンテナンスリリース](#)
- [Discover 3.2 アップグレード](#)

## Adobe Target

- [Test&Target](#)
- [Recommendations](#)
- [Search&Promote](#)

## Adobe Social

- [Social](#)

## Adobe Experience Manager

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7](#)

## Adobe Media Optimizer

- [AudienceManager](#)
- [AdLens](#)
- [SearchCenter](#)

## Marketing Cloud のサービス

- [Web サービス API](#)



## SiteCatalyst 15.5

SiteCatalyst 15.5 リリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
現在のデータを含む	<p>2012 年 10 月にリリースされた現在のデータ機能が改善されました。レポートのヘッダーでこの処理機能を有効にできるようになりました。「現在のデータを含む」機能を使用すると、Adobe Analytics によりまだ処理されていないデータもレポートに表示されるようになり、分析レポートでのデータ待ち時間が 1 分程度に短縮されます。</p> <p>Analytics リファレンスヘルプの<a href="#">現在のデータを含む</a>を参照してください。</p>
分類ルールビルダー	<p>トラッキングコードが変更されるたびに分類の編集とアップロードを実行するのではなく、自動のルールベース分類を作成し、複数のレポートスイートに適用することができるようになりました。ルールを作成するときに、柔軟な正規表現を使用して、一貫した書式の文字列値（トラッキングコード内の文字列値など）进行分类することもできます。</p> <p>Analytics リファレンスヘルプの<a href="#">分類ルールビルダー</a>を参照してください。</p>

機能	説明
JavaScript 版 AppMeasurement の新バージョン	<p>新しい JavaScript 版 AppMeasurement ライブラリがコードマネージャーで使えるようになりました。このライブラリは s_code.js と同じ機能を提供しますが、モバイルサイトとデスクトップサイトのどちらで使用してもより軽量で高速です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• H.25 コードと比較して 3 倍 ～ 7 倍も高速</li> <li>• わずか 21K の非圧縮コード、8K の gzip 圧縮コード（H.25 コードでは、33K もの非圧縮コード、13K の gzip 圧縮コード）</li> <li>• クエリパラメーターの取得、Cookie の読み取り／書き込み、高度なリンクトラッキングの実行をネイティブサポート（プラグインが不要）。</li> <li>• モバイルサイトで使用できるほど軽量かつ高速で、フルデスクトップ Web で使用できるほど堅牢。1 つのライブラリを Web 環境全体で活用できます。</li> </ul> <p>詳しくは、Analytics 導入ガイドの <a href="#">JavaScript 版 AppMeasurement</a> を参照してください。</p> <hr/> <p><b>注意：</b>一部のプラグインは今回の新しいバージョンではサポートされていません。詳しくは、<a href="#">プラグインのサポート</a>を参照してください。</p>
リスト変数の分類	リスト変数（s.list1、s.list2、s.list3）で取得された値を SAINT で分類できるようになりました。
Social および Mobile アプリケーションのディメンションの分類	Social および Mobile アプリケーションのディメンションを分類できるようになりました。
Social および Mobile アプリケーションのレポートの拡張	Social および Mobile アプリケーションの指標を ReportBuilder および Web サービス API でレポートできるようになりました。
セグメントと比較	レポートヘッダー内で、新しい「セグメントと比較」オプションを使用して、現在のレポートのデータと比較するためのセグメントを選択できます。この機能の動作は、サイトと比較機能と類似しています。例えば、ページレポートを実行し、次に「 <b>セグメントと比較</b> 」をクリックすることで、データを迅速に比較できます。

機能	説明
<p>レポートスイートの設定範囲の拡張</p>	<p>管理者は1つまたは複数のレポートスイートについて、管理コンソールで次の機能を有効または無効にすることができます。</p> <p>一般 / 一般的な<b>アカウント</b>設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地理特性</li> <li>• トランザクション ID ストレージ</li> <li>• DataWarehouse の表示</li> </ul> <p><b>トラフィック / トラフィック</b>変数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カスタムトラフィック変数のパス</li> </ul> <p><b>コンバージョン / 成功</b>イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カスタムイベントのパーティシペーション</li> <li>• 個別イベントの記録（イベントのシリアルイズ）</li> </ul> <p><b>コンバージョン / コンバージョン</b>変数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カスタムコンバージョン変数に対するマーチャンダイジングの有効化</li> </ul>
<p>レポートスイートテンプレートの機能向上</p>	<p>新しいレポートスイートの作成時に、地理特性、日本語キーワード処理、DataWarehouse などの追加設定をコピーできるようになりました。さらに、ローカリゼーションとマーケティングチャネルレポートがデフォルトで有効になります。</p>

機能	説明
レポートにおける検索フィルターの機能向上	<p>レポートでの検索フィルターの動作が変更されました。</p> <p>以前は、各レポートに表示される検索フィールドではダッシュ「-」（否定の意味）などの特殊文字を使用できました。そのため、これらの特殊文字をそのままリテラル値として検索する場合は、バックスラッシュ「¥」でエスケープする必要がありました。これらの特殊文字は廃止され、リテラル値としてそのまま使用されるようになりました。</p> <p>代わりにアドバンスフィルターオプションで、次の検索オプションを使用できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次に等しい</li> <li>・次のいずれかを含む</li> <li>・次の語句で始まる</li> <li>・次の語句で終わる</li> </ul> <p>さらに、アドバンス検索を選択すると、特殊文字やワイルドカードを使用して検索できます。</p> <p>保存済みの検索結果を含む既存のブックマークはすべて、引き続き正常に機能します。これらの保存済みの検索結果は、特殊文字やワイルドカードを使用したアドバンス検索の結果として表示されます。</p>
トレンドダッシュボードおよびトレンドレポートでトップアイテムを正確に表示	<p>トレンドダッシュボードまたはトレンドレポートの「選択されたアイテム」で「トップアイテム」を選択したとき、選択された日付やセグメントでのトップアイテムが正確にレポートに表示されるようになりました。以前は、日付やセグメントを変更したとき、その日付範囲やセグメントのトップアイテムが以前と異なる場合も、以前と同じトップアイテムが表示されていました。</p>
iOS アプリケーション版 Adobe Analytics（準備中）	<p>iOS 版 Adobe Analytics では、ダッシュボード、ブックマーク付きレポートおよび異常検出機能付きカスタムレポート生成をモバイルから利用できます。間もなく Apple App Store で公開される予定です。</p>

詳しくは、[SiteCatalyst 15 のヘルプ](#)を参照してください。

#### 修正点

- ・処理ルールを使用して、イベントに 1 以外の値を設定できるようになりました。

- 時間単位の精度が選択されているとき、主要指標レポートでインスタンスが正確に配分されるようになりました。以前は1つの時間にすべてのインスタンスがレポートされていた。
- SiteCatalyst 15 のアップグレード日をまたいでレポートを行う場合、v14 におけるページビュー数指標が v15 の UI でインスタンスとして正しくレポートされるようになりました。v15 に新しいページビュー数指標が導入されたとき、v14 におけるページビュー数指標は v15 でインスタンスに名称変更されました。
- 1 か月未満の期間でレポートを日の精度でトレンド表示した場合に、トータル指標（行項目ごとにレポート期間での合計を使用する指標）が月全体の合計になる問題を修正しました。
- トラフィックソースのレポートと prop 変数をクロス集計した場合に、永続的なデータが使用されなくなりました。そのため、クロス集計を使用して、あるページにユーザーを誘導した参照ドメインを確認できます。
- 大文字小文字の区別をしないオプションを有効にすると大文字を含むキーの値が重複する問題を修正しました。
- 作成済みのターゲットを編集できないことがある問題を修正しました。
- 特定のレポートについて、サイト階層レポートでデータが表示されない問題を修正しました。
- リスト変数に対して分類を使用できるようになりました。
- 特定のユーザーが予定レポートにアクセスできない問題を修正しました。
- ターゲットのレポートを HTML 形式で配信すると表示できない問題を修正しました。
- モバイルレポート同士をクロス集計したレポートで計算指標がゼロになる問題を修正しました。
- 電子メールメッセージが予定レポートを添付せずに送信されることがある問題を修正しました。
- トラフィック指標とコマース指標の両方を含む計算指標を作成できない問題を修正しました。
- 特定の予定レポートを配信できない問題を修正しました。これらのレポートは、2013 年 4 月のメンテナンスリリース以前は、スケジュールに従って配信されていました。
- DataWarehouse を Google Chrome で使用する場合のユーザーインターフェイスの問題を修正しました。
- 複数のレポートスイートを使用する場合に、発行リストマネージャーで複数の電子メールアドレスが適切に処理されるように修正しました。
- Microsoft Internet Explorer 9 で「メニューのカスタマイズ」オプションを使用できない問題を修正しました。

- ・管理コンソールのモバイルアプリケーションレポート機能を使用できない問題を修正しました。
- ・十分な権限を持つユーザーが「メニューのカスタマイズ」オプションを使用してメニューを編集しようとしたときにエラーメッセージが表示される問題を修正しました。

## SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

### 修正点

- ・サイトセクションレポートで、入口指標を使用して日付を比較できるようになりました。以前は、この指標を複数の日付の間で比較した場合にデータが表示されませんでした。
- ・1 か月未満の期間でレポートを日の精度でトレンド表示した場合に、トータル指標が月全体の合計になる問題を修正しました。
- ・大文字小文字の区別をしないオプションを有効にすると大文字を含むキーの値が重複する問題を修正しました。
- ・特定のユーザーが予定レポートにアクセスできない問題を修正しました。
- ・モバイルレポート同士をクロス集計したレポートで計算指標がゼロになる問題を修正しました。
- ・電子メールメッセージが予定レポートを添付せずに送信されることがある問題を修正しました。
- ・特定の予定レポートを配信できない問題を修正しました。これらのレポートは、2013 年 4 月のメンテナンスリリース以前は、スケジュールに従って配信されていました。
- ・DataWarehouse を Google Chrome で使用する場合のユーザーインターフェイスの問題を修正しました。
- ・複数のレポートスイートを使用する場合に、発行リストマネージャーで複数の電子メールアドレスが適切に処理されるように修正しました。
- ・Microsoft Internet Explorer 9 で「メニューのカスタマイズ」オプションを使用できない問題を修正しました。

## ReportBuilder 4.4

ReportBuilder 4.4 リリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
----	----

機能	説明
データ最新性	<p>データ最新性は、オプションウィンドウで現在のデータを含むを有効にした場合に利用できます。</p> <p>この分析レポート機能は、SiteCatalyst 14 のレポートへの反映時間が短いという利点を SiteCatalyst 15 の（確定された）処理にも適用するものです。現在のデータのモードでデータを表示すると、処理される前のデータでも、<b>データ待ち時間</b>が 1 分程度に短縮されます。</p> <p>データ最新性を使用しない場合は、データは表示前に確定され、通常は待ち時間が長くなります。</p> <p>現在のデータを含むを有効にする場合は、次の使用上の注意を確認してください。</p> <p><b>フォーマットオプション:</b> <b>表示ヘッダーの書式設定を行う</b>場合に、セルヘッダーにデータ最新性を表示するかどうかを指定できます。</p> <p>内訳：サポートされません。現在のデータを含むを有効にした場合に、いずれかのリクエストに内訳が含まれていると、影響を受けるリクエストは確定モードに戻されます。</p> <p><b>リクエストマネージャー:</b> 予定リクエストがデータ最新性を使用しているかどうかは、リクエストマネージャーで確認できます。現在のデータ列が追加されています。</p> <p><b>スケジュールされたワークブック:</b> データ最新性は、スケジュールの処理中にワークブックレベルで保存されます。確定データを使用しているスケジュールされたワークブックを開き、データ最新性を適用した場合は、その後は現在のデータのモードが使用されます。</p> <p>権限：データ最新性へのアクセス権限のないユーザーに対しては、このオプションは非表示になります。</p> <p>このオプションを有効にしたときに、1 つ以上のリクエストを適用できない場合は、警告が表示されます。</p>
すべてのトラフィック変数でクロス集計が可能	<p>クロス集計がすべてのトラフィック変数に対してデフォルトでできるようになりました。任意のトラフィック変数を、他の任意のトラフィックレポートでクロス集計できます。この修正により、ReportBuilder が SiteCatalyst と同等になりました。この機能は、SiteCatalyst 向けに <b>2013 年 3 月 22 日</b>にリリースされました。</p>

- 4 月にリリースされたレポートビルダーのネットプロモータースコア調査が製品の起動時に表示されない問題を修正しました。
- ReportBuilder 予定タスクの割り当てを管理（管理**コンソール** / 会社名 / **ReportBuilder レポート**）の問題を修正しました。この問題では、Enter キーを押さない限り「予定 / 使用可能」の値を更新できませんでした。

## ClickMap

ClickMap メンテナンスリリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

- Internet Explorer および Firefox 向けの ClickMap ダウンロードページが SiteCatalyst 15 に追加されました。以前は、このダウンロードは SiteCatalyst 14 でのみ可能でした。
- JavaScript 版 AppMeasurement の新バージョンのサポートを追加しました。

## DataWarehouse

DataWarehouse 15.4 メンテナンスリリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

### 修正点

- セグメント構築時に、product 変数、リスト変数、tnt および調査列の変数に対する「any」操作の否定ができない問題を修正しました。

## Web サービス API

Web サービスメンテナンスリリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
トークン上限の撤廃	<p>Web サービス API の使用時にトークン上限値が適用されなくなりました。後方互換性を維持するため、トークンは現在もカウントされますが、トークン上限値に達してもアクセスは中断されません。また、過去のトークン上限値を渡した場合、いかなる過分についても請求されません。</p> <p>このように変更されたので、使用可能な API リクエストの数が多くなります。最適なエクスペリエンスとパフォーマンスを実現するには、<a href="#">API のベストプラクティス</a>を参照してください。</p>



機能	説明
インラインでのセグメント化（レポート API）	レポートの説明内で、単純なセグメントをインラインで定義できます。 <a href="#">インラインでのセグメント化</a> を参照してください。
現在のデータ（レポート API）	レポートの現在のデータビューを取得できます。SiteCatalyst の「現在のデータを含む」オプションと同じデータが返されます。現在のデータフラグについては、 <a href="#">reportDescription</a> を参照してください。
データフィード API	ステータス API を使用して、データフィードの配信と処理のステータスを表示できます。 <a href="#">データフィード API</a> を参照してください。

- ・ レポート API の異常検出の問題を修正しました。この問題では、最小値と最大値の差が非常に大きい場合に、誤った異常データが返されました。

Web サービス API について詳しくは、[developer.omniture.com](https://developer.omniture.com) を参照してください。

## AppMeasurement およびモバイル

### JavaScript 版 AppMeasurement

#### 1.0

新しい JavaScript 版 AppMeasurement ライブラリがコードマネージャーで使用できるようになりました。このライブラリは `s_code.js` と同じ機能を提供しますが、モバイルサイトとデスクトップサイトのどちらで使用してもより軽量で高速です。

- ・ H.25 コードと比較して 3 倍 ～ 7 倍も高速
- ・ わずか 21K の非圧縮コード、8K の gzip 圧縮コード（H.25 コードでは、33K もの非圧縮コード、13K の gzip 圧縮コード）
- ・ いくつかの共通プラグインに対するネイティブサポート（クエリパラメーターの取得、Cookie の読み取り／書き込み、URL のエンコード、高度なリンクトラッキング）
- ・ モバイルサイトで使用できるほど軽量かつ高速で、フルデスクトップ Web で使用できるほど堅牢。1 つのライブラリを Web 環境全体で活用できます。

---

**注意：** この新しいバージョンでは、一部のプラグインはサポートされません。

---

### 従来の JavaScript 版 AppMeasurement（`s_code`）

#### H.26

- [カスタムリンクコードを使用した手動リンクトラッキング](#)で説明している `useForcedLinkTracking` オプションが Firefox 20 以降にも適用されるようになりました（以前は WebKit ブラウザーにのみ適用されました）。
- 画像オブジェクトの ID 生成がインスタンス間で一意になりました。そのため、同じページ上に複数のインスタンスがある場合の衝突を防ぐことができます。

## その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

## クリックストリームデータフィード

### 時間別データフィード

時間別データフィードによって、通常の 1 日の増分ではなく 1 時間の増分で SiteCatalyst の生のデータを取得できるようになりました。データを 1 時間の増分ずつに分割することで、元のサーバーと宛先のサーバーの両方でピーク時の負荷を抑えながら、よりタイムリーにデータを配信できます。[時間別データフィード](#)を参照してください。

最新の情報については、[クリックストリームデータフィードのヘルプ](#)を参照してください。

## Genesis 3.1 メンテナンスリリース

Genesis 3.1 メンテナンスリリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

- Dev Center: 「システム」で「均等タイプ」を選択した場合に発生するエラーを修正しました。このエラーでは、「データタイプ」が適切に表示されませんでした。
- Dev Center: 変数を追加ページにある「イベントタイプ」および「データタイプ」グループラベルをローカライズしました。

- Dev Center: 承認用に送信した製品が読み取り専用として表示されるように変更しました。
- パートナー API の統合: 事前に定義された変数内に作成した分類がアップロードされない問題を修正しました。
- サイトのセットアップとアクティブ化ページで、「コレクションコードを手動で追加」フィールドに 5 つ以上のリソースを追加したときに起こる表示の問題を修正しました。
- BrightEdge Express: 統合ウィザードの手順 2 で無効な引数の警告が表示される問題を修正しました。
- 統合を追加し、パートナー製品の下のある[ここをクリック](#)リンクをクリックすると重大なエラーが発生する問題を修正しました。

## Discover 3.2 アップグレード

Discover 3.2 アップグレードおよびメンテナンスリリースのアップグレード要件、新機能および修正された問題は次のとおりです。

### アップグレード要件

Discover のバージョン 3.2 へのアップグレード（2013 年 5 月 24 日）後は、Discover を終了し再起動してアップグレードする必要があります。

### 新機能

機能	説明
新しいセグメントビルダー	新しいセグメントビルダーでは、属性に基づいてサイトの訪問者を定義できるだけでなく、訪問やヒットの順序、およびセッション間や複数のセッションにわたる時間に基づいて訪問者セグメントを定義できます。
順次セグメント化	順次セグメント化によって、コンテンツへのアクセス方法やサイト全体のナビゲート方法に基づいて訪問者をセグメント化して、サイト全体での顧客の行動についてより深く理解できます。
時間間隔によるセグメント	あるページ表示から次のページ表示までの（またはその後の）時間、および複数の訪問にわたる時間に基づいて訪問者をセグメント化することで、イベント内またはイベント後の指定した期間に照合の対象を制限できます。

機能	説明
除外セグメント	Exclude 演算子を順次セグメント内で使用して、定義された訪問またはヒットが訪問者によって実行されなかった訪問者シーケンスを特定できます。
CSV レンダラー	データをコンマ区切り値として保存し、他のツールおよびレポートにエクスポートできるようになりました。

## 修正点

- トラフィックフローレポートにすべてのデータを正しく読み込むことができず、レポートの第 3 レベル以下にはドリルダウンできませんでした。データが数値を返さない（ゼロまたは無限大を返す）場合、トラフィックフローレポートでデータが解決されませんでした。この問題は修正されました。
- ファイルをローカルに保存する際に、ファイル拡張子が誤ったファイルタイプとして保存され、この拡張子のタイプを変更できませんでした。以前に保存されたときのファイル拡張子が、次の保存時のファイルタイプに誤って適用されていました。ネイティブの Discover ファイル (.dproj) として保存しようとしたファイルが、Excel ファイル (.xlsx) タイプとして保存される場合があります。この問題は修正されました。
- CSV 形式のスケジュールされた配信経由で送信されたトラフィックフローレポートで、レポート表内の追加の行項目が除去されていました。Excel で表示するときに必要となる拡張ノードのデータがありませんでした。この問題は修正されました。
- 予定レポートがランダムな間隔で配信されることがありました。この問題は、1 日目が月曜日として初期化されるデータからレポートがエクスポートされ、日曜日が週の最初の日として初期化されるスケジュールにインポートされる場合に発生しました。この問題は修正されました。
- Windows でローカルドライブにファイル（Excel ファイルなど）を保存できませんでした。これは、Windows 内部のセキュリティポリシーが原因で発生した問題です。現在のバージョンでは、セキュリティポリシーが原因でファイルを保存できない場合、正しいドライブアクセス権限がないことを伝えるダイアログが表示されます。

## Search&Promote

Search&Promote 8.9.8 リリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
----	----

機能	説明
共通フレーズ - 完全一致のサポート	<p>共通フレーズには、異なるそれぞれの語ではなく一体として検索される 2 語以上の語句が含まれます（「boot cut」、「tank top」など）。共通フレーズには、それぞれ個別の語とは異なる独自の意味があります。</p> <p>貴社のビジネスに関連する共通フレーズのディクショナリをお客様がメンテナンスします。複数の語を含む検索クエリを実行すると、ディクショナリに対して完全に一致するかを調べる検索が実行されます。</p> <p>共通フレーズは、追加、編集または削除できます。また、ドメインディクショナリと同様に、共通フレーズをグループ化することもできます。例えば、アパレル、布地、ジュエリー、サイズ、ショッピング、一般というグループで、共通フレーズをグループ化できます。</p>

## 修正点および改良点

- バックエンド検索のための CGI パラメーター `sp_date_range_#` が、ユーザー定義フィールドに対しては動作していませんでした。
- 履歴バージョンに戻しても、URL 入力ポイントフィールドの内容が更新されませんでした。
- JSON エンコーディングで、誤ってエンコードされた文字に対処されませんでした。
- ステージングされたインデックスをリモートからプッシュして有効にするためのサポートを追加しました。

Adobe Search&Promote の最新ドキュメントについては、[Search&Promote ドキュメントホーム](#)を参照してください。

## Social

Social 2.6 リリース（2013 年 5 月 24 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
アプリケーション：ギャラリーテンプレート	新しいギャラリーアプリケーションテンプレートが使用できるようになりました。

機能	説明
アプリケーション： Web ページに投稿	アプリケーションを Web サイトに投稿します。この機能によって、Social で作成したアプリケーションやプロモーションを使用してユーザーに提示することで、Facebook 以外のオーディエンスのアクションを誘導することができます。

## 修正点

- まれにユーザーとグループの「最後のログイン」列に不正確なタイムスタンプが表示される問題を修正しました。
- アプリビルダーの「環境設定」タブ（環境設定 / アプリの設定）からアイコンを追加した場合、このアイコンがアプリケーション内で正しくレンダリングされない問題を修正しました。この問題は、Microsoft Internet Explorer（バージョン 8 およびバージョン 9）でのみ発生していました。
- 投稿内でテキストの後に表示されるはずの URL リンクがテキストの前に表示される、投稿の問題を修正しました。

最新ドキュメントについて詳しくは、[Social のヘルプ](#)を参照してください。

## AudienceManager

このリリースでは更新はありません。

最新の情報について詳しくは、AudienceManager を参照してください。

## AdLens

AdLens の最新情報については、[ヘルプ](#) / [ヘルプコンテンツ](#)をクリックしてください。

## SearchCenter

このリリースでは更新はありません。

最新の情報について詳しくは、[SearchCenter のヘルプ](#)を参照してください。

**重要：**このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:  
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Adobe Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: 2013 年 6 月 21 日

## Adobe Analytics

- [SiteCatalyst 15.5 メンテナンスリリース](#)
- [SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース](#)
- [Discover 3.2 メンテナンスリリース](#)
- [DataWarehouse](#)
- [Web サービス API](#)
- [AppMeasurement およびモバイル](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [ReportBuilder 4.4 メンテナンスリリース](#)
- [Genesis 3.1 メンテナンスリリース](#)

## Adobe Target

- [Test&Target 3.4](#)
- [Recommendations](#)
- [Search&Promote](#)

## Adobe Social

- [Social](#)

## Adobe Experience Manager

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7](#)

## Adobe Media Manager

- [AudienceManager](#)
- [AdLens](#)
- [SearchCenter](#)

## Marketing Cloud のサービス

- [Web サービス API](#)



## SiteCatalyst 15.5 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 15.5 リリース（2013 年 6 月 21 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
サイト指標によるクロス集計	トラフィック変数の「サイトでの滞在時間」、およびコマース変数とイベントの「訪問別滞在時間」と「イベント前の時間」をレポートの分類メニューで選択できるようになりました。
モバイルアプリストアのデータ統合（準備中）	<p>Genesis の data connectors と <a href="#">Distimo</a> を使用して、アプリストアの指標（ダウンロード数、売上高、ランク）とディメンション（アプリ名、アプリストア、アプリの地域）を Adobe Analytics に毎日自動で同期します。Apple、Google Play、Windows Phone など、多数のアプリストアがサポートされます。既存の Distimo ユーザーは、最大 180 日間分のデータを自動でバックフィルできます。</p> <p>この統合は、Genesis の「ラボ」セクションで間もなくご利用いただける予定です。</p> <p>詳細は、<a href="#">Distimo 用 Adobe Genesis の統合</a>を参照してください。</p>
iOS アプリケーション版 Adobe Analytics（準備中）	iOS 版 Adobe Analytics では、ダッシュボード、ブックマーク付きレポートおよび異常検出機能が付いたカスタムレポート生成をモバイルから利用できます。間もなく Apple App Store で公開される予定です。

### お知らせ

- Internet Explorer 7 による SiteCatalyst の UI との互換性テストは実施されなくなりました。Internet Explorer 7 からアクセスされた場合のデータは引き続き収集されます。
- 2013 年 10 月以降、SiteCatalyst 13.5 のインターフェイスにアクセスできなくなります。それまでに、SiteCatalyst 13.5 で配信セットされたすべての予定レポートを、サポート対象のバージョンの SiteCatalyst で作成し直してください。

### 修正点

- 現在のデータを有効にした場合に、売上高、購入回数およびイベントレポートにおいて奇数時間の値が 2 倍になる問題を修正しました。

- ・分類されたレポートを2段階以上クロスした状態で日付の比較が機能しない問題を修正しました。
- ・時間の精度でトレンド表示したコンバージョンレポートで現在のデータを有効化できてしまう問題を修正しました。有効にすると、現在の時間の値が当日の未来の時間帯に表示されていました。精度が時間単位と選択されている場合、現在のデータオプションは選択できなくなりました。
- ・テキストレポートレットのPDFのダウンロードの際に、「1行目にHTMLエラーがあります：XHTMLの形式が正しくありません」という内容のエラーメッセージが表示される問題を修正しました。
- ・一部のExcelレポートが「送信」をクリックしても電子メールで送信されない問題を修正しました。
- ・ダウンロードしたExcelレポートで、パスの長さがSiteCatalystのUI上に表示される正しい値と一致しない問題を修正しました。
- ・同一ユーザーが別のブラウザーやタブで同時に複数の処理ルール編集画面を開くと、そのユーザーが最後に選択したレポートスイートに処理ルールが保存される問題を修正しました。ルールは、対象のタブまたはウィンドウで選択されたレポートスイートに正しく保存されるようになりました。
- ・管理コンソールで、複数のレポートスイートを選択した状態でコンバージョン変数の設定を変更すると、「現在使用可能なレポートはありません」というエラーが表示される問題を修正しました。これらの変更は、選択したレポートスイートすべてに正しく保存されるようになりました。

詳しくは、[SiteCatalyst 15 のヘルプ](#)を参照してください。

## SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース

SiteCatalyst 14.9 メンテナンスリリース（2013年6月21日）には、次の変更が含まれています。

- ・「キーワードを使用できません」というASIセグメント定義がSiteCatalyst 14に表示されない問題を修正しました。

## Discover 3.2 メンテナンスリリース

Discover 3.2 メンテナンスリリース（2013年6月21日）には、次の変更が含まれています。

- ・ExcelおよびCSVのレポートに、「M」で始まるファイル名または「N」以降の英字で始まるすべてのファイル名が表示されない問題を修正しました。

- Discover のメニューの分類レポート上のタイトルに、適切な分類のタイトルではなく親の名前が表示される問題を修正しました。このタイトルは正しく表示されるようになりました。
- 有効になっていないレポート内のカスタムイベントが Discover のメニューに表示される（メニュー項目が増えすぎて画面内に収まらない）問題を修正しました。このようなメニューは正しく表示されるようになりました。
- Excel の予定レポートで、一部の列が圧縮表示され（通常は A 列または B 列）、レポートを開いたときに見えなくなる問題を修正しました。このような列は、Excel の表を開いたときに正しく展開されるようになりました。

注意：7 月のメンテナンスリリースより、Discover ではカスタムイベントの通貨フォーマットが変更されました。これにより、レポートやセグメントに影響が生じる場合があります。例えば、Discover ではペニー（0.01）をベースライン値として使用していましたが、7 月からはすべての通貨でドル（1.00）を基準とします。この変更はすべての通貨で同様です。

多くの場合、以前に Discover で作成されたレポートやセグメントは変更されません。ほとんどの既存のレポートやセグメントは新しい形式でも値や機能に変更は見られません。レポート内のデータ値は変更されませんが、セグメントルール内の通貨の値はこの仕様変更に合わせて変更されます。例えば、セグメントで 50 セントの値を使用して実行されるカスタムイベントを作成していた場合、この値は 0.50 ドルに変更され、以前と同じデータを返します。

フォーマットを変換できない場合、古い形式の変数であることを示すエラーがセグメントビルダーに表示されます。

## DataWarehouse

DataWarehouse メンテナンスリリース（2013 年 6 月 21 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
製品リスト以外で設定された数値 / 通貨イベントをレポートに追加	2013 年 3 月に、イベント変数内で数値 / 通貨イベントを設定できるようになりましたが、この値が DataWarehouse でレポートできるようになりました。

- イベント 51 ～ 100 に基づくセグメントからデータが返されない問題を修正しました。イベント 51 ～ 100 に基づく既存のセグメントは DataWarehouse で再作成する必要があります。
- 訪問別滞在時間を含む DataWarehouse セグメントが Discover に表示される場合、この値は訪問別滞在秒数として表示されます。

## Web サービス API

Web サービスメンテナンスリリース（2013 年 6 月 21 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
リアルタイムレポート API	購入回数、売上高、購入点数、カスタムイベントおよびインスタンスを、相関関係のある最大 3 つのディメンションと共に表示して、精度の高いリアルタイムのダッシュボードを作成します（待ち時間は数秒です）。 <a href="#">リアルタイムレポート</a> を参照してください。

Web サービス API について詳しくは、[developer.omniture.com](http://developer.omniture.com) を参照してください。

## AppMeasurement およびモバイル

### JavaScript 版 AppMeasurement

このメンテナンスリリースでは更新されていません。

### その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

## クリックストリームデータフィード

このメンテナンスリリースでは更新されていません。

最新の情報については、[クリックストリームデータフィードのヘルプ](#)を参照してください。

## ReportBuilder 4.4 メンテナンスリリース

ReportBuilder 4.4 メンテナンスリリース（2013 年 6 月 21 日）には、次の変更が含まれています。

## 新機能

機能	説明
使用可能なすべてのエレメントの選択	<p>Adobe ReportBuilder のリストから選択パネルの「使用可能なエレメント」リストで、すべての項目を選択できます。</p> <p>すべての項目を選択するには、最初の項目をクリックし、リストの最後までスクロールして、<b>Shift キーを押しながら最後の項目をクリック</b>します。</p> <p>項目の選択を解除するには、次の手順を実行します。</p> <p><b>Windows の場合:</b> Ctrl キーを押しながらクリック</p> <p><b>Mac OS 上の Windows 仮想マシンの場合:</b> Control + Command キー</p>
「完了」をクリックした場合のセル選択の改善	<p>セルの場所を選択する前に、「ピボットレイアウト」にある「完了」をクリックすると、セルの選択を求めるメッセージを表示した後で、自動的に要求を終了するようになりました。</p> <p>これまでは、セルを選択した後で、要求ウィザードに戻って、「完了」をもう一度クリックする必要がありました。</p>

## 修正点

分類レポート用の変数が「ディメンション」タブで正しく並べ替えられない問題を修正しました。

## Genesis 3.1 メンテナンスリリース

Genesis 3.1 メンテナンスリリース（2013 年 6 月 21 日）には、次の変更が含まれています。

## 修正点

- 「設定」タブの「データ設定」に分類名が正常に保存されない問題を修正しました。
- 「名前」パラメーターの「レビューの概要」ステップで発生する、BrightEdge 統合の文字エンコーディングの問題を修正しました。
- Qualtrics 用に簡略化された統合ウィザードを追加しました。
- Distimo 用の統合（変数を追加ページの予約変数を含む）を追加しました。
- Qualtrics で分類階層が作成されない問題を修正しました。

- 電子メールマーケティング統合の「データ設定」のステップに「計算指標」セクションが表示されない問題を修正しました。
- **Dev Center:** 処理ルールを保存しようとする则表示される「ソース ID が無効」という内容のエラーを修正しました。

## Test&Target 3.4

Test&Target 3.4 リリース（2013 年 6 月 21 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

機能	説明
プロファイルの一括更新	API を使用して、プロファイルの更新を一括でアップロードできます。
キャンペーンデータのリセット	選択したキャンペーンのすべてのレポートデータをリセットできます。
API	パフォーマンス向上のため、および今後のリリースに備えて、いくつかの処理の変更が行われました。クライアントの変更は必要ありません。
リブランディング	Test&Target は、統合された Adobe Target ソリューションの主要コンポーネントとしてリブランディングされました。

[Test&Target ヘルプへようこそ](#)を参照してください。

### 修正点

- キャンペーンレポートのローカリゼーションに関する問題を解決しました。
- Test&Target のキャンペーン名が SiteCatalyst メニューで分類レポートとして表示される問題を解決しました。
- コピーしたオファーをフォルダーに移動する場合に発生する問題を解決しました。

## Recommendations

このリリースでは更新はありません。

Recommendations の最新ドキュメントについて詳しくは、[Recommendations の新機能](#)に関するページを参照してください。

## Search&Promote

このリリースでは更新はありません。

Adobe Search&Promote の最新ドキュメントについては、[Search&Promote ドキュメントホーム](#)を参照してください。

## Social

Social 2.6 メンテナンスリリース（2013 年 6 月 21 日）には、パフォーマンスと安定性を向上するためのバックエンドのバグ修正が含まれています。

最新ドキュメントについて詳しくは、[Social のヘルプ](#)を参照してください。

## Scene7

Scene7 の最新のリリース情報について詳しくは、[Scene7 Publishing System Release Notes](#) を参照してください。

## AudienceManager

このリリースでは更新はありません。

最新の情報について詳しくは、AudienceManager を参照してください。

## AdLens

AdLens の最新情報については、[ヘルプ / ヘルプコンテンツ](#)をクリックしてください。

## SearchCenter

このリリースでは更新はありません。

最新の情報について詳しくは、[SearchCenter のヘルプ](#)を参照してください。

**重要：**このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386





# Adobe Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: 2013 年 7 月 19 日

**ブランド情報:** Adobe Marketing Cloud ソリューションの変更に関する重要な情報については、[Marketing Cloud へのブランドの変更](#)を参照してください。

## お知らせ

- [Marketing Cloud へのブランドの変更](#)

### Adobe Analytics

- [Reports & Analytics](#) (旧称 [SiteCatalyst](#))
- [SiteCatalyst 14.9](#)
- [SiteCatalyst 13.5 の提供終了](#) (2013 年 10 月)
- [Ad Hoc Analysis](#) (旧称 [Discover](#))
- [Report Builder](#)
- [Data Warehouse](#)
- [AppMeasurement](#) およびモバイル
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [Data Connectors](#) (Genesis)

### Adobe Target

- [Test&Target 3.4.1](#)
- [Recommendations 2.15](#)
- [Search&Promote](#)

### Adobe Social

- [Social 3](#)

### Adobe Media Manager

- [Audience Manager](#)
- [AdLens](#)

AdLens の最新情報については、[ヘルプ](#) / [ヘルプコンテンツ](#)をクリックしてください。

### Marketing Cloud のサービス

- [Web サービス API](#)

- [Tag Management 2.0](#)

## Adobe Experience Manager

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

## Marketing Cloud コミュニティ

知識を共有し、専門家に相談しましょう。Adobe.com 上の新しい Marketing Cloud コミュニティを利用できるようになりました。

Adobe ソリューションエキスパート、カスタマーケア担当者およびお客様のコラボレーションによる Marketing Cloud コミュニティを利用することで、最新のアドビのソリューションを見つけることができます。ヘルプを入手したり、アドバイスを求めたり、別のエキスパートのお客様とつながることができます。



Analytics、Social、Target、Experience Manager および Marketing Cloud に関するコミュニティを利用できます。

[Adobe Marketing Cloud Community](#)にアクセスして、Adobe ID（SSO）アカウントでサインインしてください（英語のみ）。

## Marketing Cloud へのブランドの変更

Adobe Marketing Cloud では、これまで分かれていた各製品ソリューションの統合を進めています。次の表は、新しい機能名と旧製品名との対応を示しています。

統合が進むにつれて、適宜、機能名を使用する頻度を高くしていく予定です。ただし、すべての製品名がただちに変更されるわけではありません。

ロゴ	ソリューションおよび機能	
	<b>Marketing Cloud</b> Adobe Marketing Cloud は、アドビのデジタルマーケティングソリューションを統合する新しいサービスです。プロジェクト専用の個人向けのワークスペースで作業内容を共有したり、共同作業を行ったりできます。 現在、この機能は、選ばれたクライアントに対して段階的に公開されています。	
	<b>Analytics</b>	
	旧製品名	機能名


ロゴ	ソリューションおよび機能	
	SiteCatalyst	Reports & Analytics
	Discover	Ad Hoc Analysis
	Insight	Data Workbench
	Genesis	Data Connectors
	DataWarehouse	Data Warehouse
	TagManager	Tag Management
	Report Builder	Report Builder
	ClickMap	Visitor Click Map
	<b>Social</b>	
	旧製品名	機能名
	Social	Global Page Management and Workflow
	Social	Listening and Moderation
	Social	Targeting Publishing
	Social	Application Builder
	AdLens / Social	Integrated Social Ads
	SiteCatalyst	Social Analytics
	<b>Media Manager</b>	
	旧製品名	機能名
	AdLens	Advertising management and optimization
	Audience Manager	Audience management
	Digital AdTargeting	Audience targeted creative
	Digital AdTargeting	Ad serving and tracking
	<b>Target</b>	

ロゴ	ソリューションおよび機能	
	旧製品名	機能名
	Test&Target	A/B/N testing and multivariate testing
	Test&Target	Rules based targeting
	Test&Target	Geotargeting
	Recommendations	Recommendations and cross-selling
	Search&Promote	Site search and merchandising
	Search&Promote	Dynamic navigation
	<b>Experience Manager</b>	
	旧製品名	機能名
	Adobe CQ Web Management	Web content management
	Scene7	Dynamic media
	Scene7	Personalized media
	Scene7	Video
	Adobe Marketing Campaign Management	Marketing campaign management
	Adobe Social Communities	Social communities
	Adobe CQ Digital Asset Management	Digital asset management
	Adobe CQ Cloud Manager	Cloud management
	Adobe CQ Mobile	Mobile
	Adobe CQ eCommerce	Commerce

## Reports & Analytics（旧称 SiteCatalyst）

Reports & Analytics リリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
----	----

機能	説明
更新されたインターフェイス	<p>将来のプラットフォームの強化と機能に備えて、Adobe SiteCatalyst を Adobe Marketing Cloud に統合させる取り組みが進められています。新しいインターフェイスでは、ナビゲーションが強化され、ユーザーエクスペリエンスを向上させる優れた機能が提供されます。</p> <p>今回は主に外観の変更なので、お客様の業務フローを妨げることはありません。</p> <p>変更点の詳細および新しいインターフェイスのプレビューについては、<a href="#">今後の変更</a>を参照してください。また、ビデオを見るには、次にアクセスしてください。</p> 
カスタム日付範囲における履歴トレンドライン	<p>より多くのトレンドレポートに履歴トレンドラインが表示されるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履歴トレンドラインは、単位（現在の日、週、月または年をクリックする場合など）と期間（日付の開始日と終了日を選択する場合）のどちらを選択した場合でも表示されるようになります。</li> <li>履歴トレンドラインはカスタムカレンダーでも表示されます。</li> <li>「選択された日付」、「選択された週」、「選択された月」、「選択された年」などの特殊な列ヘッダーがカスタムカレンダーでも表示されるようになりました。</li> <li>すべてのレポートでスムージングを使用できます。また、スムージングでは履歴トレンドラインがサポートされます。</li> <li>曜日オプションを選択した場合でも、履歴トレンドラインが表示されます。</li> </ul>
Social および Mobile アプリケーションの指標を使用したセグメント	<p>Social および Mobile アプリケーションの指標は、Reports &amp; Analytics、Ad Hoc Analysis および Data Warehouse で作成したセグメントに含めることができるようになりました。</p>

- 分類ルールビルダーで上書きオプションを利用した場合に 1 か月以上前のデータを分類できなかった問題を修正しました。
- 一部のレポートスイートのレポートナビゲーションメニューで、ビデオイベントや指標がカスタマイズされた名前ではなくデフォルト名で表示されていた問題を修正しました。
- PDF 形式のダウンロードされたレポートまたは予定レポートで、右から左に記述する言語のデータが誤って左から右に表示されていた問題を修正しました。
- Report Builder グループにユーザーを保存する際に「十分な Report Builder ライセンスがありません」という内容のエラーが表示される問題を修正しました。ユーザーが既にライセンスを付与されていて、ライセンスの最大数を超えていない場合でも、この問題が発生していました。
- アドバンス検索ダイアログで、内訳レポート上のアドバンスフィルターが保存されていませんでした。これにより、適用後の検索を再び表示または編集することができませんでした。この問題を修正しました。
- アドバンスフィルターでパイプ文字 (|) が適切にエスケープされず、パイプ文字をリテラル文字として検索できない問題を修正しました。
- モバイルデバイスタイプレポートで、分類階層のドリルダウンの後に内訳を適用するとレポートにデータが表示されない問題を修正しました。
- レポートスイートサマリーのレポートレットにおいて、現在のデータがサポートされない指標が含まれる場合に「レポートレットを取得できません」エラーが表示される問題を修正しました。これらのレポートレットには現在のデータを含まない確定されたデータが表示されるようになりました。
- ClickMap レポートにおいて、2 ページ目以降に 1 ページ目と同じデータが表示される問題を修正しました。
- モバイルデバイスタイプレポートとモバイルのオペレーティングシステムレポートにおいて、「Other」「Unknown」をフィルターできない問題を修正しました。
- ページでの滞在時間ランクレポートに SiteCatalyst 15 アップグレード前のデータが表示されていなかった問題を修正しました。
- 主要指標トレンドレポートで現在のデータが有効な場合に、売上高および買い物かごの指標の現在のデータが表示されていなかった問題を修正しました。
- フルパスレポートを日付で比較した場合、2 つの日付のどちらかの値が、レポートの並べ替え順序に基づいてすべて 0 と表示される問題を修正しました。

## SiteCatalyst 14.9

SiteCatalyst 14.9 リリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

- 2013 年 5 月 23 日から 2013 年 7 月 19 日の間に配信された、アドバンスフィルター適用の予定レポートに何もデータが表示されていなかった問題を修正しました。この問題の影響を受けていたのは予定レポートのみであり、SiteCatalyst に表示されるレポートには問題はありません。

## SiteCatalyst 13.5 の提供終了（2013 年 10 月）

2013 年 10 月以降、SiteCatalyst 13.5 にアクセスできなくなります。SiteCatalyst 13.5 をお使いの場合は、次の情報をご確認のうえ、サポート対象のバージョンに移行してください。

- レポート上のメモは移行されません。この情報は、サポート対象のバージョンの同じレポートまたは対応するレポートに手動で移行する必要があります。
- アラート上のメモはサポート対象外になりました。
- ダッシュボードは表示可能ですが、編集するにはダッシュボードを移行する必要があります。[レガシーダッシュボードからの移行](#)を参照してください。

次の項目はサポート対象のバージョンでそのまま使用できます。

- ブックマーク
- カレンダーイベント
- ターゲット
- アラート
- Data Warehouse リクエスト
- ダウンロード可能なレポートおよび予定レポート

## Ad Hoc Analysis（旧称 Discover）

Ad Hoc Analysis リリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

- Adobe Analytics 製品スイート内で、Adobe Discover のブランドを「Ad Hoc Analysis」機能に変更しました。
- シングルサインオンがサポートされるようになりました。
- Social および Mobile アプリケーションの指標を Ad Hoc Analysis（Discover）、Report Builder および Web サービス API でレポートできるようになりました。
- Social および Mobile アプリケーションの指標は、Ad Hoc Analysis（Discover）、Reports & Analytics および Data Warehouse で作成したセグメントに含めることができるようになりました。

- ・ 今回のメンテナンスリリースより、Ad Hoc Analysis（Discover）ではカスタムイベントの通貨フォーマットが変更されました。これにより、レポートやセグメントに影響が生じる場合があります。例えば、Ad Hoc Analysis ではペニー（0.01）をベースライン値として使用していましたが、7 月からはすべての通貨でドル（1.00）を基準とします。この変更はすべての通貨で同様です。日本円の場合、以前は 1 円を指定するために 100 円として入力する必要がありましたが、今後は 1 がそのまま 1 円として扱われるようになります。

多くの場合、以前に作成されたレポートやセグメントの適用結果が変わらないように、値が自動変換されます。レポート内のデータ値は変更されませんが、セグメントルール内の通貨の値はこの仕様変更に合わせて変更されます。例えば、セグメントで 50 セントの値をカスタムイベントとして指定していた場合、この値は 0.50 ドルに変更され、以前と同じデータを返します。

フォーマットを変換できない場合、古い形式の変数であることを示すエラーがセグメントビルダーに表示されます。必要に応じてセグメントを再作成する方法については、[ヘルプ](#)を参照してください。

- ・ 以前は、同じ親コンテナにルールとコンテナが混在する場合は、表示に関わらず常に AND 演算子を使用して結合されていました。そのため、OR 演算子が利用できない状態でした。今後は、同じ親コンテナにルールと子コンテナが混在する場合は、そのルールの AND/OR を制御するためのコンテナが自動作成されるようになりました。
- ・ 以前は、事前設定済みのセグメント「Microsoft Bing から来た訪問件数」で Live.com 経由の訪問件数しか検索されていませんでした。現在は、次のような訪問件数を含めるようにセグメントロジックを修正しました。

検索エンジン = Microsoft Bing

OR

検索エンジン = Live.com

OR

検索エンジン = m.bing

- ・ セグメントビルダーのウィンドウがノートブックパソコンの画面よりも大きく表示され、「送信」ボタンが表示されていませんでした。Ad Hoc Analysis（Discover）のウィンドウ以下のサイズでセグメントビルダーのウィンドウを開くことで、この問題を修正しました。
- ・ レポートで識別および保存される直帰率がある場合、そのレポートを再度開くと、直帰率はパーセント値としてレポートされず、代わりに 0 または 1 のデータが表示されます（例えば、0.58 は 1.0 に四捨五入されます）。

この修正で新しいプロジェクトが適切に保存されますが、以前に保存したプロジェクトについては、次のようにする必要があります。

1. そのプロジェクトを開きます。
2. もう一度、直帰率にドロップします。
3. プロジェクトを保存します。



- ブラウザーのタイプレポート内で、複数の「**その他**」の行項目が表示されていました。そこで、入力に基づいてデータを表示し、Reports & Analytics（SiteCatalyst）と一致させるための「未指定」の行項目が追加されました。
- **セグメントビルダー**では、**Within** 演算子を使用した「**ページビュー数**」に基づいて訪問者シーケンスを設定できるようになりました。
- Java 7（update 25）を実行している場合、実装によっては、適切にレンダリングされないことがありました（ユーザーインターフェイスで適切に描画されないなど）。この問題は修正されました。

## Data Workbench（旧称 Insight）

Data Workbench リリース（Insight 5.54 パッチ）には、次の変更が含まれています。

- Query API を使用した SSL 接続の問題を修正しました。
- セグメントエクスポートのスレッドロックの問題を修正しました。
- 非常に大きなセグメントエクスポート処理に対するスロットリングメカニズムを追加しました。
- Insight サーバーによる、長期間実行される子プロセスの問題を修正しました。

更新されたその他の機能については、[Data Workbench リリースノート](#)を参照してください。

## Report Builder 4.5

Report Builder 4.5 リリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
----	----

機能	説明
シングルサインオン	<p>新しい Marketing Cloud のログイン（現在は一部のお客様のみ利用可能）を使用している場合は、Adobe ID（電子メールアドレスとパスワード）を Reports &amp; Analytics（旧称 SiteCatalyst）の資格情報にマッピングできます。資格情報をマッピングした後で Marketing Cloud にサインインすると、Report Builder に自動的にログインします。</p> <p>現在、Report Builder の「<b>サインイン</b>」をクリックしたときに使用できるログインオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Marketing Cloud:</b> 上記のマッピングされた Adobe ID（電子メールアドレスとパスワードの組み合わせ）。ログインに失敗すると、Marketing Cloud のログインページにリダイレクトされます（Marketing Cloud を使用するように設定している場合）。</li> <li>• <b>シングルサインイン:</b> お客様が事前にカスタム設定するシングルサインオン（会社名とユーザー名）。</li> <li>• <b>レガシー:</b> 会社名、ユーザー名およびパスワードを使用する従来のログイン方法。</li> </ul>
アドバンスフィルター	<p>Reports &amp; Analytics（旧称 SiteCatalyst）の強化されたアドバンスフィルターを Report Builder で使用できます。最頻使用 <b>フィルター / フィルター</b> を定義ページに次の演算子を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>次に等しい:</b> 完全な一致を返します。</li> <li>• <b>次で始まる:</b> 特定の値で始まる結果を返します。</li> <li>• <b>次で終わる:</b> 特定の値で終わる結果を返します。</li> <li>• <b>アドバンス（特殊文字）:</b> 次の文字の正規表現を使用できます。        ""、^、-、*、\$、 </li> </ul> <p>Report Builder ヘルプの <a href="#">ディメンションフィルター</a> を参照してください。</p>

## 修正点

- 予定レポートが 0 を返す原因となる、固有フィルターの選択における問題を修正しました。この問題は、大文字と小文字の区別が原因で発生していました。
- 相対日付を指定すると「日付を保存」ボタンと精度を適用メニューが表示されなくなる問題を修正しました。

- ・「一般的に使用される日付」リストに文字を入力して、「次へ」をクリックすると発生する例外エラーを修正しました。
- ・スケジュールされたタスクマネージャーで「ダウンロード」を選択すると発生するエラーを修正しました。

## Data Warehouse

機能	説明
eVar パーティシペーション指標	Data Warehouse でパーティシペーション指標を使用できるようになりました。これらの指標は「カスタムインサイト」という見出しの「指標」リストに表示されます。
ソーシャルおよびモバイルアプリケーションの指標を使用したセグメント	Social および Mobile アプリケーションの指標は、Reports & Analytics、Ad Hoc Analysis および Data Warehouse で作成したセグメントに含めることができるようになりました。

- ・Data Warehouse リクエストで、14 日より長いレポート期間の時間別の精度をレポートできるようになりました。
- ・カレンダーがカスタマイズされたレポートスイートで月のプリセットを使用した予定レポートにおいて、開始日が変化する場合があります。今月または前月のプリセットを使用するレポートの場合、以前はカレンダーの月の初めから月の特定の日が計算されていました。現在は、カスタムカレンダーの月の初めから日が計算されるようになりました。

## AppMeasurement およびモバイル

### JavaScript 版 AppMeasurement

#### 1.0.2

- ・自動リンク追跡でハッシュ／フラグメントが無視されるようになりました。以前は、次の URL が自動的にダウンロードリンクとして追跡されていました。これは、ハッシュを含む URL が .pdf で終わるためです。

```
1. <a href="index.htm#anchor.pdf">Test Link</a>
```

現在はハッシュ／フラグメントが無視されるので、ファイル名の拡張子が一致する場合にのみリンクが追跡されます。

#### H.26.1

- ・自動リンク追跡による確認の前に、ハッシュ／フラグメントが削除されるようになりました。以前は、次の URL が自動的にダウンロードリンクとして追跡されていました。これは、

ハッシュを含む URL が .pdf で終わるためです。

```
1. <a href="index.htm#anchor.pdf">Test Link</a>
```

現在は、リンクの追跡時にハッシュ／フラグメントが考慮されなくなりました。

## その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

## クリックストリームデータフィード

このメンテナンスリリースでは更新されていません。

最新の情報については、[クリックストリームデータフィードのヘルプ](#)を参照してください。

## Web サービス API

Web サービス メンテナンスリリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
リスト変数の管理	管理 API を使用して、他の変数と同様にリスト変数を管理できるようになりました。
IP アドレスの除外の保存時における 50 個の除外のサポート	<a href="#">ReportSuite.SaveIPAddressExclusions</a> を使用して、最大 50 個の IP アドレスを除外できるようになりました。

Web サービス API について詳しくは、[developer.omniture.com](http://developer.omniture.com) を参照してください。

## Tag Management 2.0

Tag Management メンテナンスリリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
コンテナの名前の変更と削除	タグコンテナは、名前の変更および削除ができるようになりました。
プレビュー	現在のリビジョン用に生成されたアセットの内容を確認するためのプレビューオプションが追加されました。

- ・コピー＆ペーストされた大きな JavaScript コードのあるリビジョンにアクセスする場合にエラーが発生する問題を解決しました。
- ・新しいコンテナを作成する場合のコンテナ名の検証に関する問題を解決しました。

## Data Connectors（Genesis）

このリリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

- ・DFA 統合の VISTA ルールによって編集後に更新が適切に行われない問題を修正しました。
- ・管理ツールにおける分類名が Dev Center の設定と一致しない場合にエラーを引き起こすデータ設定の問題を修正しました。
- ・「電子メールの送信」をクリックした後にウィザードの最後の手順で文字化けが発生する問題を修正しました。
- ・無効な WSDL URL が使用された場合に「設定」タブの手順 1（統合設定）に警告エラーを表示する方法を改善しました。
- ・Distimo：分類ツリーに eVar のわかりやすい名前を追加しました。この場合、ルート名はウィザードに表示されます。
- ・Distimo：ウィザードに表示されるわかりやすい名前に合わせて、メニューおよび指標セクターの指標名を変更しました。
- ・Distimo：変数マッピングとデータ設定の手順を表示しないようにして、統合ウィザードを簡略化しました。統合が有効化されると、これらの手順を使用できるようになります。
- ・ウィザードの最初の手順に「引き継ぎ」オプションを追加しました。管理者は、このオプションを使用して、統合を作成した削除済みユーザーから統合の所有権を取得できます。以前は、統合の所有者を削除すると統合に失敗していました。
- ・Distimo：分類の命名に関して、コンテンツに応じたサポートを追加しました。

- 変数マッピングの問題を修正しました。カスタム名を付けた変数の末尾に空白文字があると変更を保存できませんでした。

## Test&Target 3.4.1

Test&Target リリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

### 機能

- キャンペーン作成 API では読み取り専用オプションがサポートされます。
- キャンペーン状態 API ではキャンペーンのアーカイブがサポートされます。
- REST API では OAuth / IMS 認証トークンがサポートされます。

### 修正点

- キャンペーンの概要とレポートビューに（RPV、上昇率などの）異なる結果が表示されていた問題を修正しました。
- イベントログのパフォーマンスを強化しました。
- プロファイルパラメーターの値がエスケープされた形式で UI に表示されていた問題を修正しました。この問題により、ターゲット設定で使用する正しい値についての混乱が生じていました。
- パフォーマンスレポート REST API の呼び出しによって間違ったコンテンツタイプ（Content-Type: text/xml; charset=UTF-8 ではなく Content-Type: <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?> ;charset=UTF-8）が返されていた問題を修正しました。
- ユーザーが Marketing Cloud を使用してログインしなかったときに、Marketing Cloud のヘッダーの通知領域にエラーが表示されなくなりました。
- セキュリティ関連の修正がいくつか行われました。

## Recommendations 2.15

このリリースには、次のような変更が含まれています。

機能	説明
最近表示した項目のアルゴリズム	最近表示した項目を表示します。
動的に除外するエンティティの推奨	特定の項目（既に買い物かごに追加されている項目など）を表示しないようにします。

機能	説明
カスタムアルゴリズムを使用した ホストグループのサポート	カスタムアルゴリズムに「ホストグループ名」属性を追加しました。ホストグループ名が指定されていない場合は、デフォルトのホストグループが使用されます。
実稼動バックフィルへの複数環境 のサポートの追加	以前は、デフォルトの実稼動ホストグループがバックフィルのソースとしてハードコードされていました。現在は、バックフィルのソースを選択できます。この設定は Adobe ClientCare が行う必要があります。

## 修正点

- ・グラフの重複の原因となっていた UI の問題を修正しました。

## Search&Promote

Search&Promote 8.10 リリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

### 新機能

- ・動的**ファセット** - 動的ファセットの設定は、パフォーマンスの新しい機能強化です。これにより、動的ファセットフィールドのプールからの特定の検索に対して N 個の最も関連性の高い動的ファセットフィールドのセットを主要な検索から返すことができます。

この機能を有効にして実装するには、アドビのコンサルティングサービスにお問い合わせください。

- ・**ドイツ語の復号化解除ツール** - 復号化解除ツールがドイツ語に対応しました。

### 修正点および強化された機能

- ・**ビジネスルール** - 複数のスケジュールをビジネスルールに割り当てる機能を追加しました。
- ・**ガイド付き検索** - XML パーサーへのフォールバックが無効になる問題を修正しました。
- ・**アーカイブ、圧縮および非圧縮ファイル** - 次のアーカイブ、圧縮および非圧縮ファイルをダウンロードして情報を抽出する機能を追加しました。`.zip / tar / tar.gz / tar.bz2 / gzip / bzip2`
- ・**リモート制御のインデックス作成** - インデックス作成操作をリモート制御する再生成機能を追加しました。
- ・**ファセットパネル** - 複数のファセットパネルのサポートを追加しました。

[Search&Promote のドキュメントのホーム](#)を参照してください。

## Social 3

Social は、モバイルデバイス向けに最適化された新しいタッチインターフェイスを採用して再設計されました。すぐに使用できるインタラクティブな新しいレポートが含まれており、新しいプラットフォームのサポートが提供されます。また、公開、アプリおよびモデレートの新しい機能も追加されました。

Social 3 には 100 を超える新機能が追加されています。

主な機能は次のとおりです。

- **マルチプラットフォームへの公開**：プラットフォームごとに投稿を作成することなく、複数のソーシャルプラットフォーム（Facebook、Twitter、Google+ および LinkedIn）への同時公開が可能です。
- **コンテンツカレンダー**：コンテンツカレンダーを使用して、新しいコンテンツを作成したり、Social Publisher がリストビューやカレンダービューから作成した既存のコンテンツを操作したりできます。
- **予測公開および推奨**：Publisher の事後予測機能では、投稿後に投稿にコンテンツを追加した場合や、獲得する可能性のあるいいね！、コメントおよび共有の数の予測を表示するようにスケジュールを変更した場合に、動的に更新を実行します。この情報は、できるだけ多くのアクションを得るために、投稿のコンテンツを改良したり投稿を最適な時間にスケジュールしたりするのに役立ちます。
- **LinkedIn のサポート**：LinkedIn の会社ページやグループにコンテンツを公開します。
- **モバイルアプリの最適化**：デスクトップ、タブレットおよびスマートフォン向けに最適化された単一のアプリを作成します。
- **Adobe Analytics との統合の強化**：Analytics との統合の強化および豊富なデータ収集機能によって、アプリを容易に作成できます。
- **Twitter のモデレートのフィード**：Social 3 では、単一の投稿のストリームからカスタマイズ可能な複数のフィードビューへのアップグレードが行われました。所有するプロパティ、ソーシャル Web の会話、トレンド分析のハッシュタグ、承認申請されたコンテンツなどからフィードを並行して作成、保存および監視できます。
- **Adobe Marketing Cloud との統合**：Marketing Cloud は、アドビのマーケティングソリューションを個人向けのワークスペースに統合します。また、様々なソリューションを使用して、チームのメンバーがプロジェクトへのアクセス、共同作業、視覚化およびメンバー同士のやり取りを行うことができます。

新機能および強化された機能について詳しくは、[Social のヘルプのリリースノート](#)を参照してください。

Audience Manager



Audience Manager メンテナンスリリース（2013 年 7 月 19 日）には、次の変更が含まれています。

- **新しいユーザーインターフェイス**：すべての Adobe Marketing Cloud 製品に合わせて設計標準が新しくなり、Audience Manager のユーザーインターフェイスの外観が変更されました。
- **役割に基づくアクセス制御**：Audience Manager では、詳細なアクセス制御を追加して、組織の様々なグループのアクセスを管理できます。すべての機能をユーザーインターフェイスから制御できます。また、API を使用してユーザーアカウントにアクセスの制限を適用することもできます。

[Audience Manager のヘルプ](#)を参照してください。

**重要：**このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Marketing Cloud リリースノート

リリース日: 2013 年 8 月 16 日

## Adobe Analytics

- [Reports & Analytics](#)
- [SiteCatalyst 14.9](#)
- [Ad Hoc Analysis](#)
- [Report Builder 4.6](#)
- [Data Warehouse](#)
- [AppMeasurement およびモバイル](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [Data Connectors](#)

## Adobe Target

- [Adobe Target 3.5](#)
- [Recommendations](#)
- [Search&Promote](#)

## Adobe Social

- [Social 3.0.1](#)

## Adobe Media Manager

- [Audience Management](#)
- [AdLens](#)

AdLens の最新情報については、[ヘルプ / ヘルプコンテンツ](#)をクリックしてください。

## Adobe Experience Manager

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

## Reports & Analytics

Reports & Analytics リリース (2013 年 8 月 16 日) には、次の変更が含まれています。

機能	説明
----	----

---

機能	説明
IP Obfuscation（IP の不明化）	<p>管理ツールの IP Obfuscation（IP の不明化）オプションが変更されました。次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最終オクテットを 0 で置換します。最終オクテットは、地域ルックアップ前に置換されます。結果として、地域レポートが有効な場合、レポートの正確性に影響する可能性があります。</li> <li>IP アドレスを不明化または削除します。地域レポートが有効な場合、IP アドレスが不明化または削除される前に地域ルックアップが実行されます。</li> </ul>

#### 修正点:

- レガシーダッシュボードで、選んだ幅よりも狭くグラフが表示されることがありました。
- 詳細を含む設定の地域 - 国レポートレットを「レポートの HTML バージョンを含める」オプションを有効にして配信設定しても、配信されませんでした。
- Test&Target／キャンペーンレポートを表示した状態でレポートスイートを切り替えた直後に未分類の値が表示されていました。現在は、レポートスイートを切り替えても分類された値が表示されます。
- 管理ツールの成功イベントページにある「すべてを表示」ボタンで、各チェックボックスを表示するだけでなく、すべてのチェックボックスが選択されていました。
- 処理ルールインターフェイスのドロップダウンメニューに、リスト Var が表示されていませんでした。
- Ad Hoc Analysis を有効にしていないカンパニーで管理ツールの一般的なアカウント設定ページの変更が保存できない状態でした。
- 参照ドメインレポートレットの詳細のみの表示に、リファラータイプフィルターが適用されませんでした。
- SiteCatalyst 15 への移行日以前の時間別訪問データを表示すると、時間別でなく日別のデータが表示されていました。移行前のこのデータは利用できないので、現在は、移行日以前の時間別訪問データは 0 として表示され、通知メッセージが表示されます。
- カスタムカレンダーを含むレポートスイートについて、すべての毎週のアラートは、日曜日ではなく、カスタムカレンダーの週の最初の日に送信されるようになりました。
- セグメント名に引用符が含まれている場合、UI に表示されませんでした。セグメントは正常に読み込まれて適用されていたましたが、名前は「セグメント」フィールドに表示されませんでした。

- ・参照ドメインレポートのトレンド表示で売上高パーティシペーションのデータが表示されていませんでした。
- ・平均ページの深さの仕様が変更されました。Ad Hoc Analysis と一致させるために、「ページの深さ / 訪問回数」ではなく、「ページの深さ / インスタンス」として計算されます。通常、この結果、すべてのページで平均ページの深さの値が低くなります。「[平均ページの深さ](#)」を参照してください。
- ・月単位の精度のトレンドレポートは、SiteCatalyst 15 アップグレードが発生した月のデータを表示していませんでした。
- ・モバイルレポートで、「不明」、「対応」、「非対応」のラインアイテムが翻訳されていませんでした。
- ・カスタムトラフィックレポートでは、1 か月の実訪問者数と月別訪問者数の合計値は、行項目が一致するにもかかわらず、一致していませんでした。
- ・ページサマリレポートでは、対応するレポートの選択したページについてその指標が表示されたにもかかわらず、ページで過ごした時間が 0 と表示されていました。

## SiteCatalyst 14.9

SiteCatalyst 14.9 リリース（2013 年 8 月 16 日）には、次の修正が含まれています。

- ・列見出しのいくつかが、ダウンロードされた Excel レポートの列データと一致していませんでした。
- ・買い物かごコンバージョンファネルおよびカスタムイベントファネルレポートは、2013 年 7 月 19 日のメンテナンスリリース以降、正常に完了していませんでした。

## Ad Hoc Analysis

Ad Hoc Analysis リリース（2013 年 8 月 16 日）には、次の修正が含まれています。

- ・レポートを実行しようとするときタイムアウトエラー（309）が表示され、データの取得が完了しないことが示されていました。これは、検索の効率性を向上することで解決されました。
- ・パーティシペーションが正しく計算されず、ゼロとして表示されることがありました。
- ・フォールアウトレポートのカスタムイベントが正しく表示されませんでした。これは、修正されました。

## Report Builder 4.6

Report Builder 4.6（2013 年 8 月 16 日）には、次の変更が含まれています。

---

機能	説明
地域分類の米国の州レポート	地域分類の米国の州レポートが利用できるようになりました。
イベント前の時間レポート	<a href="#">イベント前の時間レポート</a> が利用できるようになりました。
ワークブックの配信時に、ファイル名、FTPディレクトリ、または電子メールの件名をカスタマイズ	<p>配信する電子メールに添付するワークブックのファイル名、および電子メールの件名をカスタマイズできるようになりました。</p> <p>また、日時スタンプやレポートスイート名を追加することもできます（発行リストを使用する場合）。</p>

#### 修正点:

- Social、ビデオおよびパーティシペーションイベントは、Social およびビデオレポートでは利用できませんでした。現在は、これらのイベントが利用できます。
- 合計訪問者数を含む計算指標は、検索キーワードレポートまたはすべてのカスタムトラフィックレポートに表示されませんでした。
- セルからレポートスイートを参照すると、選択したレポートスイートが利用できないことを示すエラーが発生していました。
- `currentData` フラグがオフに設定されている場合でも、状況によっては、現在のデータが返されていました。
- リクエストマネージャーフォームの読み込み速度を向上しました。

## Data Warehouse

Data Warehouse リリース（2013 年 8 月 16 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
eVar パーティシペーション指標	Data Warehouse レポートで <a href="#">パーティシペーション指標</a> をリクエストできるようになりました。これらの指標は「カスタムインサイト」という見出しの「指標」リストに表示されます。
Social およびモバイルアプリ指標	Social およびモバイルアプリ指標は、Data Warehouse でレポートできるようになりました。

#### 修正点:

- 「訪問別滞在時間」指標が Data Warehouse レポートで選択されると、ダウンロードされたレポートでは、この列が「サイトでの滞在時間」として誤ってリストされていました。現在は、ダウンロードされたレポートでは、この指標は「訪問別滞在時間」と正しく表記されています。
- 訪問者 ID の分類および訪問 / 訪問者のカウントについて、カスタムの訪問者 ID と併せて誤った値がレポートされていた Data Warehouse の問題を解決しました。
- 購入およびチェックアウトイベントのカスタム名が適切に表示されなかった Data Warehouse リクエストマネージャーの問題を解決しました。

## AppMeasurement およびモバイル

### JavaScript 版 AppMeasurement

#### 1.0.3

- Adobe Tag Management を使用したデプロイメントのサポートを追加しました。
- 階層変数が AppMeasurement オブジェクトで設定されない問題を修正しました。

### その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

## クリックストリームデータフィード

このメンテナンスリリースでは更新されていません。

最新の情報については、[クリックストリームデータフィードのヘルプ](#)を参照してください。

## Data Connectors

Data Connectors リリース（2013 年 8 月 16 日）には、次の変更が含まれています。

- 下位分類を含む分類を削除できてしまっていました。現在は、分類を削除する前にすべての下位分類を削除する必要があります。
- SOAP エラー応答が適切な形式の XML で返されるようになりました。
- いくつかの日付フォーマットが UI でローカライズされていませんでした。
- 分類名の末尾の空白文字が原因で、保存中にエラーが発生していました。現在では、末尾の空白文字は自動的にトリミングされるようになりました。
- 統合が有効になった後、必要に応じて統合を表示するための最終手順のページが利用できるようになりました。
- リスト変数の名前の変更のサポートを追加しました。
- ウィザードで、計算指標の式について、わかりやすい名前を表示するようになりました。
- オプションの変数に対して、分類が利用できるようになりました。
- 新しいレポートスイートを作成して、データフィードを有効にするように選択している場合、レポートスイートでは、SiteCatalyst 15 の処理が有効になりませんでした。
- Gigya：ウィザードの実行中、少なくとも 1 つの機能が有効にされていることを確認するための検証が追加されました。
- DFA：DFA エラー eVar はオプションであるにもかかわらず、この eVar がマッピングされていない場合、手順 9 で警告が表示されていました。

## Search&Promote

2013 年 8 月 16 日のメンテナンスリリースでは、Search&Promote の更新はありません。

[Search&Promote のドキュメントのホーム](#)を参照してください。

## Adobe Target 3.5

このリリースには、次の機能が含まれています。

機能	説明
オファ어의タイプを制限可能	アカウントに対して許可されたオファ어의タイプは、ClientCare またはコンサルティングによって制限できます。デフォルトでは、すべてのオファ어의タイプが有効です。

機能	説明
コンマ区切りのカテゴリにより個別の項目を作成	以前は、コンマ区切りのカテゴリは、単一のカテゴリとしてリストされていました。現在では、コンマで区切ったカテゴリは、個別のカテゴリを作成します。例えば、「categoryId=clothing, shoes, nike, running, shox, nike shox turbo, nike shox turbo VI」または「entity.categoryId=clothing, shoes, nike, running, shox, nike shox turbo, nike shox turbo VI」を使用して、7つのカテゴリを作成します。
読み取り専用キャンペーン用 API のサポート	「editUrl=readonly」を使用して、キャンペーンが管理 UI で変更されるのを防ぐことができます。キャンペーンは、依然として、この設定で API を使用して更新できます。詳しくは、Developer Connection にある API ドキュメントを参照してください。
キャンペーンのアーカイブ用 API のサポート	キャンペーン状態 REST API には、アーカイブオプションが含まれるようになりました。詳しくは、Developer Connection にある API ドキュメントを参照してください。
キャンペーンの有効（無効）時間設定の API のサポート	<p>キャンペーン作成 API を使用して、キャンペーンの開始時間および終了時間を設定できるようになりました。形式を次に示します。</p> <p>&lt;start&gt;2013-07-05T04:00&lt;/start&gt; および &lt;end&gt;2013-08-05T04:00&lt;/end&gt;</p> <p>詳しくは、Developer Connection にある API ドキュメントを参照してください。</p>

## Social 3.0.1

このリリースで強化された機能は次のとおりです。

強化された機能	説明
キーワードの設定	CSV ファイルを使用してキーワードおよびキーワードのセットをアップロードできるようになりました。この方法を使用することで、個々のキーワードまたはキーワードセットをリッスンするソーシャルプロバイダーを指定したり除外したりできます。
投稿：スケジュール投稿	5 分間のスケジュール投稿間隔の制限は、なくなりました。投稿は、1 分間隔でスケジュールできるようになりました。



強化された機能	説明
投稿：コンテンツカレンダー	<p>コンテンツカレンダーで行われた変更および機能強化を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードおよびパフォーマンスが強化されました。</li> <li>・発言者オプションを使用してコンテンツカレンダーをフィルターした場合、複数のユーザーを選択できるようになりました。</li> <li>・週単位の表示カレンダーでは、その週の最も早い投稿に自動的にスクロールします。</li> <li>・「スケジュール済みの投稿」ドロップダウンリストは、名前が変更されて「投稿タイムライン」となり、機能と目的がより明確になりました。</li> <li>・コンテンツカレンダーおよび投稿で Facebook 投稿をターゲット設定する場合、リーチ予測が利用できるようになりました。</li> </ul>

詳しくは、「[Social リリースノート](#)」を参照してください。

#### 修正点

- ・失敗および有効期限が切れた投稿およびアプリ投稿の FB トークンの再試行ロジックが改善されました。

## Recommendations

このリリース（2.15）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
最近表示した項目のアルゴリズム	最近表示した項目を表示します。
動的に除外するエンティティの推奨	特定の項目（既に関心アイテムに追加されている項目など）を表示しないようにします。
カスタムアルゴリズムを使用したホストグループのサポート	カスタムアルゴリズムに「ホストグループ名」属性を追加しました。ホストグループ名が指定されていない場合は、デフォルトのホストグループが使用されます。

機能	説明
実稼動バックフィルへの複数環境のサポートの追加	以前は、デフォルトの実稼動ホストグループがバックフィルのソースとしてハードコードされていました。現在は、バックフィルのソースを選択できます。この設定は Adobe ClientCare が行う必要があります。

このリリースには、次の修正が含まれています。

- グラフの重複の原因となっていた UI の問題を修正しました。

## Audience Management

最新情報については、[Audience Manager ヘルプ](#)を参照してください。

**重要:** このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: **2013 年 9 月 13 日**

## Adobe Analytics

- [Reports & Analytics](#)
- [SiteCatalyst 14.9](#)
- [Ad Hoc Analysis](#)
- [Report Builder](#)
- [Data Warehouse](#)
- [AppMeasurement](#) およびモバイル

## Adobe Social

[Adobe Social 3.0.2](#)

## Adobe Target

- [Adobe Target](#)
- [Recommendations and Cross-Selling](#)
- [Search&Promote](#)

## Adobe Media Manager

- [Audience Management](#)
- [AdLens](#)

最新情報については、AdLens の[ヘルプ](#) / [ヘルプコンテンツ](#)をクリックしてください。

## Marketing Cloud のサービス

- [Data Connectors](#)

## Adobe Experience Manager

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System](#) リリースノート

## Reports & Analytics

この Reports & Analytics メンテナンスリリース（2013 年 9 月 13 日）には、次の変更が含まれています。

- 主要指標レポートがタイムアウトになった場合に、「不完全なデータ」エラーが表示されるようになりました。
- 日付範囲が変更された後、状況によって、「現在のデータを含む」オプションがレポートに表示されなくなっていました。
- 2 番目の分岐が 8 以上に設定された場合、状況によって、次のフローレポートで「不完全なデータ」エラーが表示されていました。
- パスレポートで、「次を含まない」アドバンスフィルター を利用した場合、一致する行項目がレポートから除外されていませんでした。
- 検索エンジンレポートで Lycos、So-net、au（sp-search.auone.jp）や Rakuten（websearch.rakuten.co.jp）を含む 11 の 検索エンジンからの検索を識別できるようになりました。
- サイトセクションレポートで、直帰数指標のデータが表示されていませんでした。
- 英語以外の言語がセグメント名に含まれる場合、リファラータイプおよび地域/州 (米国) レポートでデータが表示されていませんでした。

[トップ](#)

## SiteCatalyst 14.9

すべての SiteCatalyst 14 レポートスイートは、2013 年 11 月 1 日に Reports & Analytics プラットフォーム（SiteCatalyst 15）に自動的に一斉アップグレードされます（事前にアップグレードしている場合を除く）。

[トップ](#)

## Ad Hoc Analysis

Ad Hoc Analysis メンテナンスリリース（2013 年 9 月 13 日）には、次の変更が含まれています。

- Ad Hoc Analysis は、2013 年 8 月に Java 開発証明書を更新しました。この更新では、ユーザーは、Java .jar ファイルのアプリケーションを許可し、Ad Hoc Analysis を起動するために最初に JNLP ファイルを実行する際のセキュリティに関するアラートをクリックする必要があります。

[トップ](#)

## Report Builder

この Report Builder 4.6 メンテナンスリリース（2013 年 9 月 13 日）には、次の変更が含まれています。

- Reports & Analytics UI で作成された計算指標が Report Builder で表示できない問題を修正しました。
- ページディメンションを含んでいるリクエストを更新する際にデータが返されないことの原因となる、まれな問題を修正しました。

[トップ](#)

## Data Warehouse

この Data Warehouse メンテナンスリリース（2013 年 9 月 13 日）には、次の変更が含まれています。

- セグメントビルダーでセグメントを定義する場合に、ページ名ドロップダウンリストですべてのページ名が利用できていませんでした。
- Data Warehouse リクエストの表示ページで、リクエストの説明の表に、ジョブリクエストの開始日に適用したセグメントの名前が表示されるようになりました。
- リクエスト開始日と同じタイムゾーンに、リクエスト日の完了が表示されませんでした。

[トップ](#)

## AppMeasurement およびモバイル

### Marketing Cloud ソリューション用 iOS および Android バージョン 4 SDK

[Developer Connection](#) で iOS および Android の Mobile SDK の新しいバージョンを利用できます（Android は 9 月 19 日より提供予定）。新しい機能は次のとおりです。

- パフォーマンスの大幅な向上
- 目標点および地域
- 全期間値
- 時間指定イベント
- オプトインおよびオプトアウトの管理
- Visitor ID が s\_vi を設定するようになった
- 実装でコンテキストデータおよび処理ルールを標準化

### JavaScript 版 AppMeasurement

#### 1.1

- 計測用のタグを head 内に配置できるようになりました。

- onLoad のサポートを追加しました。

## その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

[トップ](#)

[Analytics ヘルプとリファレンスホーム](#)

## Adobe Social 3.0.2

Adobe Social 3.0.2 リリース（2013 年 9 月 13 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
ソーシャルバズレポート	<p>ソーシャルバズレポートに以下の機能を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• リアルタイムのソーシャルバズレポートが強化され、ユーザーは、レポートに表示する時間範囲を指定できるようになりました（過去 30 分間、過去 1 時間、過去 2 時間など）。</li><li>• Microsoft Excel ファイルに投稿をダウンロードする際のユーザーインターフェイスを改善しました。</li></ul>

機能	説明
投稿：コンテンツカレンダー	<p>コンテンツカレンダーに以下の機能を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>投稿を停止</b>：管理ユーザーが個別の投稿を一時的に停止したり、バルクアクションを使用して複数の投稿を停止できる機能を追加しました。</li> <li>・ <b>投稿をドラフトに一括移動</b>：バルクアクションを使用して複数の投稿をドラフトフォームに移動する機能を追加しました。</li> <li>・ <b>ドラフト投稿を表示</b>：「月単位の表示」および「週単位の表示」からコンテンツカレンダーにあるドラフト投稿を表示する機能を追加しました。</li> <li>・ <b>コンテンツカレンダーの表示</b>：コンテンツカレンダーのリスト表示に「先週以降」の期間を追加し、前の週から始まる投稿を、将来予定されているすべての投稿を含めて表示するようにしました。</li> </ul>
アプリケーション：テンプレート	コンテストテンプレートのギャラリーのルックアンドフィールを改善しました。
ルールの設定	<b>ベータ版機能</b> ：ソーシャル Web のキーワードを追跡するために、フィルタータイプ（発言者、発生場所、言葉の近接性、および地理的情報など）を使用して複雑なルールを作成する機能を追加しました。

詳しくは、「[Social リリースノート](#)」を参照してください。

#### 修正点

- ・ オーディエンスやページグループに含まれるページをユーザーが削除できない問題を修正しました。最初にグループからページを削除し、次にページを削除するようにユーザーに通知するメッセージが表示されるようになりました。
- ・ キャンペーンの詳細レポートの「キャンペーンのタイムライン」セクションに投稿を読み込めない問題を修正しました。
- ・ 指標の合計で「フォロー」が「フォロワー」列に表示される原因となる、投稿一覧レポートのエクスポートファイルにある問題を修正しました。
- ・ 「Facebook ページを追加」ページのページネーションの問題を修正しました。この問題により、ユーザーは、アクセス権を持つすべての所有ページを表示できていませんでした。

- ・ 投稿一覧ページのダウンロード機能で、現在指定しているフィルターが反映されない問題を修正しました。
- ・ 一部のユーザーが Twitter のモデレートからリツイートできない問題を修正しました。
- ・ ユーザーが追加のレポートスイートに対して Twitter のモデレートを有効にできない問題を修正しました。
- ・ アプリケーションがアプリケーションビルダー内と Facebook ページ上で異なって表示される問題を修正しました。

[トップ](#)

## Adobe Target

このリリースでは更新はありません。

製品のヘルプについては、「[AB Testing と Multivariate Testing](#)」を参照してください。

[トップ](#)

## Recommendations and Cross-Selling

このリリースでは更新はありません。

製品のヘルプについては、「[Adobe Recommendations and Cross-Selling](#)」を参照してください。

[トップ](#)

## Search&Promote

このリリースでは更新はありません。

製品のヘルプについては、「[Adobe Search&Promote ヘルプホーム](#)」を参照してください。

[トップ](#)

## Audience Management

Audience Management リリース（2013 年 9 月 13 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
----	----



機能	説明
受信データ転送	データプロバイダーが特性のリストを送信して、ターゲットのデータプロバイダーのユーザーの既存の特性を上書きするのを可能にする、新しいファイルタイプ（.overwrite）の承認を開始しました。
特性ビルダーの地域ターゲット設定	特性ビルダーを使用して、ISP や組織でユーザーをターゲット設定できるようになりました。
データソース	左側のナビゲーションメニューに新しいオプションが追加され、Audience Management ユーザーインターフェイスからデータソースを操作できるようになりました。
データソース API メソッド	既存の API メソッドが更新され、新しいデータソースを作成したり、1 つ以上のデータソースのプロパティを返したりできるようになりました。新しいメソッドが追加され、既存のデータソースを更新したり、1 つ以上のデータソースを（個別に、または一括で）削除したりできるようになりました。
統合コード	統合コード（id）を使用して、Segment および Trait メソッドを使用できます。

詳しくは、「[Audience Management リリースノート](#)」を参照してください。

[Media Manager ヘルプ](#)

[トップ](#)

## Data Connectors

Data Connectors リリース（2013 年 9 月 13 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
アクティビティログの更新	アクティビティログに、カスタム値、eVar、イベントマッピング、名前を変更した分類、および名前を変更した計算指標に対して行われた更新が表示されるようになりました。

修正点

- 新しいブラウザータブで 2 番目の統合を開いている場合、統合設定を変更できない問題を修正しました。
- ウィザードのレビューの概要の手順で、リスト変数が表示されない問題を修正しました。
- 有効化ウィザードのサイトのセットアップとアクティブ化（手順 5）の後に表示される次の手順ポップアップを改善しました。これらの手順は、アドビによるさらなる設定サポートを必要とする統合に対してのみ表示されます。
- 統合で作成した処理ルールが Analytics の管理ツールに表示されない問題を修正しました。
- Dev Center: 「情報」タブにある「ウィザード後の統合の手順」フィールドの保存の問題を修正しました。
- Dev Center: 製品の編集時に発生する分類情報に変更できない問題を修正しました。
- Dev Center: 既存の製品の編集時に、「追加」ボタンが表示されない問題を修正しました。

## [Data Connectors ヘルプ](#)

### [トップ](#)

**重要:** このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:  
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: 2013 年 10 月 18 日

## Marketing Cloud およびクラウドサービス

- [Marketing Cloud](#)
- [Dynamic Tag Management](#)
- [Adobe Mobile サービス](#)
- [Data Connectors](#)

## Adobe Analytics 1.4

- [Adobe Analytics 1.4 の新機能](#)
- [Reports & Analytics](#)
- [Report builder 4.7](#)
- [Ad Hoc Analysis](#)
- [Data Warehouse](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [SiteCatalyst 14.9 アップグレードのお知らせ](#)
- [SiteCatalyst 13.5 の終了](#)

## Adobe Social 3.1

### [Adobe Social 3.1](#)

## Adobe Target

- [Adobe Testing and Targeting Essentials 1.1](#)
- [Recommendations and Cross-Selling](#)
- [Search&Promote](#)

## Adobe Media Manager

- [Audience Management](#)
- [Advertising Management](#)

最新情報については、AdLens の[ヘルプ](#) / [ヘルプコンテンツ](#)をクリックしてください。

## Adobe Experience Manager

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

# Marketing Cloud

[Adobe Testing and Targeting Essentials](#) が Marketing Cloud インターフェイス上で利用可能になりました。A/B テストやルールベースのターゲティングを視覚的に作成および管理でき、Adobe Marketing Cloud と連携できます。Essentials は、デジタルメディアの実装を簡易化します。各ページに 1 行のコードを記述するだけで、サイトと Adobe Target の間で必要なすべての通信を管理できます。日本でのご提供は現時点で未定です。

また、[Dynamic Tag Management](#) が Marketing Cloud から使用できるようになりました（以下を参照）。

[トップ](#)

## Dynamic Tag Management

業界をリードするソリューションとして、最低限の IT リソースで迅速なタグ管理とデータ計測を可能にする、Dynamic Tag Management の提供を開始しました。Adobe Marketing Cloud に含まれているので、追加料金は必要ありません。

[詳細情報](#)

[ドキュメント](#)

[トップ](#)

## Adobe Analytics 1.4 の新機能

Adobe Analytics 1.4 リリースでは、次の Analytics 機能を強化しました。

機能	説明
----	----

機能	説明
異常の検出	<p>異常の検出は、統計的なモデリングを使用して、データ内の予期しないトレンドを自動的に見つけます。このモデルは、指標を分析して、値の下限、上限、および予想される範囲を決定します。予期しないスパイクまたは下落が発生した場合にレポートします。</p> <p>この機能により、「ノイズ」から「真のシグナル」を分離し、これらのシグナルまたは異常の潜在的な要因を特定できます。これにより、何を分析すべきかが明らかになります。さらに、信頼できる指標（KPI）の予測を取得できます。</p> <p>調査できる異常の例を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均注文額の急激な下落</li> <li>・ 売上の低い注文の急増</li> <li>・ トライアル登録の急増または下落</li> <li>・ ランディングページ表示の下落</li> </ul> <p>指標の合計値とディメンション別の両方の異常をレポートできます。異常の検出は、Reports &amp; Analytics、Adobe Analytics の Report Builder 機能、および Web サービス API で使用できます。</p>
リアルタイムレポート	<p>刻一刻と変わるリアルタイムのトレンドを秒単位で把握できます。リアルタイムレポートにより、レポートの自動更新、リアルタイム収集、およびコンテンツとコンバージョンの追跡が可能になります。データは、10 ～ 15 秒ごとに更新されます。</p> <p>収集されるとすぐにデータが表示されます。リアルタイムレポートにより、レポートの自動更新、リアルタイム収集、およびコンテンツとコンバージョンの追跡が提供されます。これにより、ニュースや EC サイトのトレンドを示すトラフィックおよび買い物かごの指標を視覚的にレポートできます。</p> <p>リアルタイムレポートは、Reports &amp; Analytics、Adobe Analytics の Report Builder 機能、および Web サービス API で使用できます。</p>
シンプル化されたレポートメニュー	<p>新しいユーザーがすばやくレポートを見つけられるよう、一般的な指標を中心にシンプル化されたメニュー構成に切り替えられるようになりました。</p>

機能	説明
Ad Hoc Analysis の新しい視覚化	<p>Ad Hoc Analysis のチャート機能が強化されました。以下のようなインタラクションが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強化されたハイライト表示</li> <li>グラフと軸の自動リサイズ</li> <li>グラフのズーム機能とパン機能</li> <li>線とエリアによる各種統計指標の表示</li> </ul> <p>時系列による合計値のトレンドレポートでも、各種の統計指標を表示できます。</p>
統計指標	<p>各種の統計指標が利用可能になりました。これにより、以前はさらなる分析のためにデータを Excel などに取り込む必要があった計算の多くを Ad Hoc Analysis および Data Workbench で直接実行できます。</p>
ハートビートビデオ	<p>ハートビートは、Analytics でレポートするビデオ視聴状況を集計する、新しい機能です。ビデオの再生中に、頻繁な「ハートビート」コールが送信され、再生時間を測定します。送信間隔は、通常、10 秒未満なので、ビデオエンゲージメント指標やビデオフォールアウトレポートがより正確になります。また、ハートビートビデオを導入するためにカスタム変数を割り当てる必要がないので、ビデオ計測の実装が簡易化されます。</p> <p>ハートビートビデオは、Adobe Flash で使用できます。今後、他の Web およびモバイルプラットフォームで使えるようになる予定です。</p>
ビデオ広告トラッキング	<p>ビデオ広告のトラッキング機能が実装されました。ビデオ広告の視聴開始、滞在時間、視聴完了、および広告 / ポッド ID を追跡するために、カスタム変数ではない専用の変数が使われます。広告データは、新しいハートビートビデオレポートに統合されています。</p>

機能	説明
Mobile AppMeasurement SDK	<p>新しい Marketing Cloud 4.x SDK は、よりシンプルで迅速な実装を実現するために新たに書き直されました。1 つの 4.x SDK だけで、iOS および Android モバイルアプリに Adobe Analytics、Adobe Target および Audience Management を実装できるようになりました。</p> <p>新しい機能は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジオフェンスおよび目標点（POI）</li> <li>・ ライフタイム指標</li> <li>・ 経過時間イベント</li> <li>・ オプトイン／オプトアウト管理</li> <li>・ パフォーマンス強化</li> <li>・ Analytics と Target の間の統合によるライフサイクル、POI およびライフタイム指標データのシームレスな活用</li> <li>・ シンプル化された実装とその他の多くの改善および強化</li> </ul> <p><a href="#">Marketing Cloud ソリューション用 iOS SDK 4.x</a></p> <p><a href="#">Marketing Cloud ソリューション用 Android SDK 4.x</a></p>

## [Analytics ヘルプホーム](#)

### [トップ](#)

## Reports & Analytics

### 新機能

[Adobe Analytics 1.4 の新機能](#)を参照してください。

### 修正点

- ・ トラフィックソース／リファラーを参照ドメインで分類ができない問題を修正しました。
- ・ セグメントドロップダウンメニュー中の情報アイコンをクリックすると、セグメント定義のボックスが空白になる問題を修正しました。
- ・ 特殊文字を含む参照ドメインの一部が参照ドメインレポートに表示されない問題を修正しました。
- ・ 日付が比較されると、パーティシペーション指標の幅がテーブルより広くなる問題を修正しました。その問題が原因で、一部のブラウザで、余分な列がヘッダーおよびフッターに追

加されていました。

- ・階層レポートの分類で、他の分類と一致させるために、訪問の代わりにインスタンスを使用するようになりました。例えば、この変更の後、ページレポートを階層レポートで分類すると、階層レポートをページレポートで分類するのと同じ値が表示されるようになります。
- ・「現在のデータ」オプションが訪問者**プロフィール** / 地理特性レポートで有効になっている場合に、日別訪問者数にデータが表示されない問題を修正しました。
- ・次のページレポートの比較日機能を使用する場合、サイト全体を比較するとゼロが表示される問題を修正しました。
- ・訪問別滞在時間が分類の2番目として適用されると、2つの「1分未満」行項目が表示される問題を修正しました。
- ・大量のセグメントを含むレポートスイートのダッシュボードにおけるセグメントの表示と変更のパフォーマンスを改善しました。

## トップ

# Report Builder 4.7

## 新機能

[Adobe Analytics 1.4 の新機能](#)を参照してください。

## 修正点

- ・すべての受信者が自動配信をキャンセルした場合にスケジュールされたワークブックが失敗する問題を修正しました。この修正により、予定レポートは、編集および配信をスケジュールできる状態が維持されます。
- ・予定レポートで配信失敗の通知がユーザーに送信されない問題を修正しました。
- ・マーケティングチャネルレポートでディメンションを分類できない問題を修正しました。
- ・夏時間に起因する予定レポートの配信時間の問題を修正しました。
- ・既存のリクエストの編集時の「**キャンセルして更新**」ボタンのラベルを「**キャンセル**」に変更しました。リクエストがキャンセルされると、更新は発生しません。
- ・複数のワークブックが開いている場合に、ツールバーが現在のユーザーのログイン状態と同期されない問題を修正しました。

詳しくは、「[Report Builder の新機能](#)」を参照してください。

## トップ

# Ad Hoc Analysis



## 新機能

[Adobe Analytics 1.4 の新機能](#)を参照してください。

### 修正点

- ・ お気に入りフォルダーに共有セグメントが表示されないことがある問題を修正しました。
- ・ セグメント定義エディターでの保存の問題を修正しました。以前は、「等しくない」演算子を使用する場合、「イベント、等しくない、ゼロ」としてセグメントを保存すると、「イベント、次に等しい、ゼロ」式に変更されていました。
- ・ **セグメントビルダー**で、既にセグメントに適用され、保存されている名前でセグメント名を保存しようとする、以前は名前が複製され、同じ名前の2つのセグメントが保存されましたが、この修正により、既存のセグメント名を上書きするかどうかを尋ねる警告メッセージが表示されるようになります。これにより、セグメント名を重複させることなく変更できるようになります。
- ・ **ディメンションパネル**に**ダウンロードリンク**を追加すると、展開されたすべてのディメンション項目が「不明」として表示され、適切なタイトルが表示されない問題を修正しました。
- ・ サイト分析画面上の名前と説明が、簡単に識別でき、表示切れを避けるために、3つのパネルに分割されるようになりました。

## Ad Hoc Analysis ヘルプ

### トップ

## Data Warehouse

### 新機能

機能	説明
ソリューション変数のパーティシペーション指標	ソリューション変数のパーティシペーションをレポートに追加できるようになりました。現在、Social 指標、モバイル指標およびビデオ指標が含まれています。
安定性とパフォーマンスの強化	一般的な Data Warehouse のパフォーマンスを改善するために、いくつかの更新が行われました。

### 修正点

- ・ 自動解析ツールで問題を引き起こす、時間単位のタイムスタンプが誤った形式で一部のレポートに表示されていた問題を修正しました。これらのタイムスタンプは、標準的な時間単位の形式で表示されるようになりました。

- 英語以外の言語のパーティシペーション指標で、パーティシペーションラベルが正しく表示されていませんでした。パーティシペーションでない指標が2回表示されていました。現在は、パーティシペーション指標は、英語以外のUIの「（パーティシペーション）」ラベルを正しく表示します。
- Data Warehouse リクエストが「error9」で失敗する問題を修正しました。このエラーが原因でリクエストを完了できなかった場合、リクエストを再スケジュールできるようになりました。

[トップ](#)

## クリックストリームデータフィード

---

**重要:** 2013 年 10 月 17 日から、すべてのデータフィードにイベントルックアップファイルが追加されます（以下を参照）。このファイル进行处理するために、お使いの ETL ツールの設定を変更する必要がある可能性があります。

---

### 新機能

機能	説明
ソーシャル、モバイルおよびビデオソリューション変数がデータフィードで使用できます。	<p>データフィードでソリューション変数を受け取ることができるようになりました。現在、Social 指標、モバイル指標およびビデオ指標が含まれています。</p> <p>データフィード定義を更新してソリューション変数を追加するには、カスタマーケアにお問い合わせください。</p>
データフィードのダウンロードに含まれるようになったイベントルックアップファイル	<p>2013 年 10 月 18 日から、すべてのデータフィードにイベントルックアップファイルが追加されます。このファイル进行处理するために、お使いの ETL ツールの設定を変更する必要がある可能性があります。</p> <p>この新しいルックアップファイルにより、買い物かごイベント、インスタスイイベント、カスタムイベント、モバイル用イベント、ソーシャル用イベントなどを含む、すべてのイベントの対照マップが提供されます。モバイル、ソーシャルおよびビデオソリューションイベント番号のマップは、各レポートスイートごとに異なることに注意してください。各レポートスイートと共に配信されるイベントルックアップファイルは、そのレポートスイート専用と見なす必要があります。</p>

[トップ](#)

## SiteCatalyst 14.9 アップグレードのお知らせ

すべての SiteCatalyst 14 レポートスイートは、2013 年 11 月 1 日に Reports & Analytics プラットフォーム（バージョン 15）に自動的に一斉アップグレードされます（すぐにアップグレードする予定がある場合を除く）。11 月 1 日にアップグレードするために対処は必要ありません。

バージョン 14 と 15 における機能とデータ処理の違いについて詳しくは、[SiteCatalyst 14 からのアップグレード](#)を参照してください。

詳しくは、担当のアカウントマネージャーにお問い合わせください。

[トップ](#)

## SiteCatalyst 13.5 の提供終了

2013 年 10 月 18 日以降は、SiteCatalyst 13.5 にアクセスできなくなります。

ブックマーク、カレンダーイベント、ターゲット、アラート、およびスケジュールされた Data Warehouse リクエストは、自動的に移行されて、Reports & Analytics および SiteCatalyst 14.9 でアクセスできますが、次の制限があります。

- ・ レポート上のメモは移行されません。
- ・ アラート上のメモはサポート対象外になりました。
- ・ ダッシュボードは表示可能ですが、編集するにはダッシュボードを移行する必要があります。[レガシーダッシュボードからの移行](#)を参照してください。

ほとんどの予定レポートは自動的に移行されました。ただし、レポートのごく一部とデータ抽出は、自動的に移行できません。影響を受ける顧客には、これらの予定レポートおよびデータ抽出を手動で移行するよう通知が送信されています。

手動で移行する必要があるか正常に配信できない予定レポートまたはデータ抽出がある場合、次を実行することでスケジュールを移行できます。

1. Reports & Analytics または SiteCatalyst 14.9 で、**お気に入り** / **予定レポート**をクリックします。
2. 正常に配信されなかったレポートまたはデータ抽出を見つけて、「**レポート名**」列の名前をクリックします。
3. 関連するブックマークまたはダッシュボードを再保存します。

4. [レポートを再スケジュール](#)します。

[トップ](#)

## AppMeasurement およびモバイル

### Marketing Cloud ソリューション用 iOS および Android バージョン 4 SDK

#### JavaScript 版 AppMeasurement

##### 1.1.1

- 「opera:」で始まるリンクについて（「opera:」は他のブラザーの「about:」および「chrome:」と同じ）、リンクトラッキング呼び出しが Opera ブラウザーから送信されませんでした。
- Accessible Video and Communications Act に準拠するために、すべての画像オブジェクトに `alt=""` が追加されました。

##### H.26.1

- Accessible Video and Communications Act に準拠するために、すべての画像オブジェクトに `alt=""` が追加されました。

#### その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

[トップ](#)

[Analytics ヘルプとリファレンスホーム](#)

# Adobe Mobile サービス

Adobe Mobile サービスにより、アプリ用の各ソリューションが Adobe Marketing Cloud 上で統合されます。今回は、Adobe Analytics および Adobe Target ソリューションのアプリ分析およびターゲット化機能とのシームレスな統合を提供します。2013 年 10 月 25 日からご提供を開始できるのは、英語環境のみとなります。日本語でのご提供は現時点で未定です。

機能	説明
レスポンスな Web ユーザーインターフェイスと改善された視覚化	レポート画面がアプリの計測と最適化に特化され、見やすくわかりやすくなりました。
Mobile AppMeasurement SDK	<p>新しい Marketing Cloud 4.x SDK は、よりシンプルで迅速な実装を実現するために新たに書き直されました。1 つの 4.x SDK だけで、iOS および Android モバイルアプリに Adobe Analytics、Adobe Target および Audience Management を実装できるようになりました。</p> <p>新しい機能は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ジオフェンスおよび目標点（POI）</li><li>・ ライフタイム指標</li><li>・ 経過時間イベント</li><li>・ オプトイン／オプトアウト管理</li><li>・ パフォーマンス強化</li><li>・ Analytics と Target の間の統合によるライフサイクル、POI およびライフタイム指標データのシームレスな活用</li><li>・ シンプル化された実装とその他の多くの改善および強化</li></ul> <p><a href="#">Marketing Cloud ソリューション用 iOS SDK 4.x</a></p> <p><a href="#">Marketing Cloud ソリューション用 Android SDK 4.x</a></p>
簡易化された SDK 設定	Adobe Mobile で直接モバイルレポートスイートを作成して、追加設定なしにデータを送信できるように完全に設定された SDK をダウンロードします。
目標点による地域ターゲティング	緯度、経度と半径で目標点を定義し、測定とターゲティングを可能にします。これにより、より正確な位置セグメントを提供し、モバイルアプリの正確な位置ベースのマーケティングを可能にします。

機能	説明
Adobe Analytics と Adobe Target の統合されたワークフロー	アプリレポートのディメンション値をクリックしてターゲティングのキャンペーンを作成できます。
モバイルならではのディメンションやアプリのライフサイクルデータに基づいたターゲットオーディエンス	デバイスタイプ、オペレーティングシステムまたは地域（目標点からの距離）など、モバイル用のディメンションによってオーディエンスを定義できます。また、アプリのライフサイクル指標（例えば、アップグレード）やディメンションを選択して、アプリエクスペリエンスのターゲットオーディエンスを定義できます。
アプリのエクスペリエンステスト（A/B）	アプリ内の A/B テストにより、エクスペリエンス（機能やコンテンツ、UI）の効果を定量化します。
Google Play コンバージョンの追跡	Google Play アプリのダウンロードを促進するためのキャンペーン情報を測定します。キャンペーンソース、キーワードなどの Google Play 指標をレポートできます。
ライフタイム値	優良顧客を特定できるようなアプリ内での行為を検知し、レポートします。ターゲティングも可能です。
経過時間イベント	アプリ内時間および合計時間を含む、主要なイベントを完了するまでにユーザーが費やした時間を測定およびレポートします。
App Store およびアプリ内課金レポート	売上、ダウンロード、ランキングなどの App Store データをインポートし、起動、アップグレードやリテンションと同じレポートに表示できます。

詳しくは、[Adobe Mobile](#) を参照してください。

[トップ](#)

## Adobe Social 3.1

Adobe Social 3.1 リリース（2013 年 10 月 18 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
----	----

機能	説明
リスニングルール	複数のフィルターを使用してソーシャル Web のアクティビティを追跡するための高度なリスニングルールの作成機能が追加されました。  ルールビルダーにリアルタイムの Twitter プレビューパネルが追加されました。このプレビューにより、ルールおよびフィルターで追跡するソーシャル Web 上のアクティビティについて Twitter ユーザーが現在つぶやいていることをより把握できます。
複数レベルの承認ワークフロー	複数レベルの承認ワークフローを作成する機能が追加されました。これらのワークフローにより、割り当てられたソーシャルプロパティに投稿される前に投稿を承認する必要があるユーザーグループまたは個々のユーザーを含む階層レベルを作成できます。
競合者の分析	競合相手の Facebook ページから収集した公開データを分析できるように、それらのページを Social に追加する機能が追加されました。
リンク短縮	Awe.sm、Po.st および BudURL リンク短縮サービスのサポートが追加されました。
「プロパティ」レポート	プロパティのロールアップ機能が追加されました。これにより、ソーシャルプロパティをプラットフォームでグループ化し、すべてのプラットフォームをリスト表示で指標を展開した状態で表示して、プラットフォームごとに集計したプロパティ統計を提供します。
スパムフィルター	Social からスパム投稿を自動的にフィルターするスパムフィルターが追加されました。ソーシャルバズレポートのフィルターオプションを使用してスパムとしてマークしたコンテンツを表示できます。
発言者レポート	Pinterest、Tumblr および YouTube のサポートが追加されました。
ソーシャルバズレポート	分類およびスパムでソーシャルバズレポートをフィルターする機能が追加されました。
Twitter ターゲット設定	国、地域および市区町村でツイートをターゲット設定する機能が追加されました。

機能	説明
Twitter ハンドル名のオートコンプリート	@ 記号から Twitter ハンドル名を入力し始めると、ユーザーの Twitter ハンドル名を自動的に入力するオートコンプリート機能が追加されました。
Excel にエクスポート	コンテンツカレンダーから Excel ファイルへのコンテンツのエクスポート機能が追加されました。この機能により、組織のユーザーは、Social の外部でデータを分析できます。
Sina Weibo アカウント管理	<p>アカウントの追加、投稿に対する承認の必須化、アカウント所有者の変更、アカウントの削除およびアカウントの再認証を含む、Sina Weibo アカウントの管理機能が追加されました。</p> <p>Sina Weibo は、主に中国で使用される Twitter に似たアプリケーションです。</p>
Sina Weibo への公開	Sina Weibo へのテキストおよび画像の投稿機能が追加されました。
YouTube プロパティ管理（ベータ*）	チャンネルの追加、投稿に対する承認の必須化、チャンネル所有者の変更、チャンネルの削除およびチャンネルの再認証を含む、YouTube チャンネルの管理機能が追加されました。
YouTube ビデオ公開（ベータ*）	管理する YouTube チャンネルにビデオアセットを投稿し、ビデオを再生リストに追加する機能が追加されました。
YouTube 分析（ベータ*）	YouTube チャンネルおよびコンテンツの指標を分析する機能が追加されました。

\* お使いのアカウントでこのベータ機能を有効にしたい場合は、担当の Social アカウントマネージャーにお問い合わせください。

詳しくは、「[Social リリースノート](#)」を参照してください。

#### 修正点

- ・コンテンツカレンダーで、複数のプラットフォームの投稿にフィルターを適用する際の問題を修正しました。
- ・プロパティレポートからエクスポートしたデータにフィルターが適用されない問題を修正しました。



- キャンペーンの詳細レポートで、指標セクターを使用して指標を追加した後で個別の投稿にゼロが表示される問題を修正しました。
- アクション率指標で計算が間違っている問題を修正しました。
- Microsoft Word またはテキストエディターからコピーして Publisher に貼り付けると、テキストが切り捨てられる問題を修正しました。
- Internet Explorer 8 または Firefox からコピーして Publisher に貼り付けると、Publisher からテキストが消える問題を修正しました。
- Mac の Firefox からコピーして Publisher に貼り付けると、テキストが正しくない書式になる問題を修正しました。
- Social バックエンドでのデータクエリの実行が遅くなる問題を修正しました。
- Social での画像サイズの制限のチェックが強化されて、大きい画像ファイルを含むツイートが投稿できない問題を修正しました。
- Google+ 投稿に正しくない画像が投稿される問題を修正しました。
- ユーザーが Google+ 投稿のリンクを使用して YouTube ビデオを公開できない問題を修正しました。
- ユーザーが十分な権限を持っていない場合でも Facebook アプリケーションを削除できる問題を修正しました。
- アプリケーションの透明ボタンの問題を修正しました。ユーザーは（ボタンの空の領域の代わりに）テキストをクリックして次の画面に移動する必要がありました。

## トップ

### Adobe Testing and Targeting Essentials 1.1

このリリースには、次の修正および機能強化が含まれています。

- 有効なエクスペリエンスを部分的なアクティビティに追加した後、最初に同期しようとする際にアクティビティの同期に失敗する問題を修正しました。
- エクスペリエンスを削除および追加した後、概要レポートで 500 エラーになる問題を修正しました。
- 訪問者が複数のエクスペリエンスを表示すると、不正確な訪問者データになる問題を修正しました。
- Internet Explorer 10 のサポートを追加しました。
- アクティビティの開始および終了時間が、Essentials と Advanced で正しく同期するようになりました。
- 混合コンテンツの表示を改善しました。

- HTML コードの JavaScript が JSON オブジェクトのブラウザー定義を上書きする場合に、Visual Experience Composer が正常に機能しない問題を修正しました。
- 状態に従って並べ替えた場合に、表示されたアクティビティの数が正確でない問題を修正しました。
- ゴールフィールドの空白が正しく検証されない問題を修正しました。
- 画像がスワップされた場合に、Advanced で 1 つに対して複数のオファーが作成される問題を修正しました。
- コンテンツピッカーの画像で検索が動作しない問題を修正しました。
- 名前または状態で並び替えた場合にアクティビティリストの並び替えが逆になる問題を修正しました。
- アクティビティで使用されていない場合、匿名オファーが削除されない問題を修正しました。
- アクティビティの編集集中に、正しくないエクスペリエンス名が共有カードに表示される問題を修正しました。
- Scene7、Testing および Targeting Advanced で、更新された画像オファーがコンテンツを適切に更新しない問題を修正しました。
- 画像アセットをコピーすると、コピーされるべきでない Scene7 関連のプロパティもコピーされるという問題を修正しました。

トップ

Recommendations and Cross-Selling

このリリースでは更新はありません。

製品のヘルプについては、「[Adobe Recommendations and Cross-Selling](#)」を参照してください。

トップ

Search&Promote

Adobe Search&Promote 8.11.0（2013 年 10 月 18 日）には、次が含まれています。

機能	説明
デンマーク語の 復号化解除ツール	メカニズムが提供されて、Search&Promote で言語（デンマーク語）の検出、複混合、ステミングおよびアドビが提供するセグメント化サービスにアクセスできるようになります。

## 強化された機能および修正点

- 既存の Search&Promote テーブル一致機能が強化されました。この機能強化により、ますます複雑になる SKU と製品データとの関係に関する顧客の要件のさらなるサポートを提供します。
- アカウントの言語に応じてファセットを並べ替えることができるオプションが追加されました。
- 選択した複数選択ファセットの数を増加するオプションが追加されました。
- 「**HTTPS を使用する検索のみ許可**」チェックボックスオプションが設定 / 検索 / 制限に追加されました。
- 設定 / 検索 / **フィード / フィードを作成 / 一般的なフィード**に、ウィザードのファイルの送信パネルでタブ文字を保持するオプションが追加されました。
- 新しいファセット定義フォームのトップおよびボトムフィールドで許可されるデータのサイズが増加され、80 文字から 1000 文字になりました。
- ビジネスルール数が、ガイド付き検索のデバッグパラメーターで正しくレポートされるようになりました。
- ビジネスルールがライブ環境に適用されるようになりました。
- Language = "Danish (Denmark)" に設定したアカウントで、緯度 / 経度で検索する際に近接検索が機能するようになりました。
- スケジュールが割り当てられていない、結果ベースのトリガーが、発動されるようになりました。
- 言語 / 単語**および**言語で、「**アポストロフィを無視**」オプションを使用した場合に、一貫性のある結果がレポートされるようになりました。
- オートコンプリートワードリストユーザーインターフェイスが、大量のファセットで動作するようになりました。

製品のヘルプについては、「[Adobe Search&Promote ヘルプホーム](#)」を参照してください。

### トップ

## Audience Management

詳しくは、「[Audience Management リリースノート](#)」を参照してください。

### Media Manager ヘルプ

### トップ

# Data Connectors

Data Connectors リリース（2013 年 10 月 18 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
Dev Center: 分類ルール	<p>Dev Center で、パートナーは、統合をアクティブ化または編集する際に顧客がデプロイできる分類を作成できます。ルールは、データ設定にあるウィザードおよび管理ツールの分類ルールビルダーで確認できます。</p> <p>分類ルールセットの作成については、管理ツールヘルプの「<a href="#">分類ルールビルダー</a>」を参照してください。Data Connectors インターフェイスは、Analytics ヘルプで説明しているのと同じフィールドおよびオプションを使用します。</p> <hr/> <p><b>注意:</b> 管理ツールでは、Data Connectors 用に作成した分類ルールを編集しないでください。</p> <hr/>

## 修正点

- ・統合の編集時にユーザーが既存の分類にマッピングできない問題を修正しました。
- ・「予期しない余分なフォームフィールド」エラーメッセージが「サポート」タブに表示される問題を修正しました。このエラーは、計算指標の名前を 2 回変更しようとするが発生していました。
- ・ウィザードの変数マッピング、インポート設定、およびエクスポート設定で発生していたローカライズの問題を修正しました。
- ・分類名がレビューダイアログに表示されない問題を修正しました。
- ・指標がExactTarget 統合にインポートできない問題を修正しました。この問題では「エラーコード2」が表示されていました。
- ・重複した分類名に異なる変数がある場合に、アクティブ化された統合ですべての分類が表示されない問題を修正しました。
- ・Tag Management の統合を管理する際に発生していた問題を修正しました。「**Tag Management にコレクションコードを追加**」をクリックするとデータのロードに失敗していました。
- ・Distimo: Distimo 分類が Ad Hoc Analysis および Report Builder に表示されていなかった問題を修正しました。

[Data Connectors ヘルプ](#)

[トップ](#)

**重要:** このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



# Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: 2013 年 11 月 15 日

## Marketing Cloud およびクラウドサービス

- [Data Connectors](#)
- [Dynamic Tag Management](#)
- [Adobe Mobile サービス](#)

## Adobe Analytics 1.4.1

- [Adobe Analytics 1.4.1 の新機能](#)
- [Reports & Analytics](#)
- [Report builder 4.7](#)
- [Ad Hoc Analysis](#)
- [Data Workbench](#)
- [Data Warehouse](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [AppMeasurement およびモバイル SDK](#)

## Adobe Social 3.1.1

- [Adobe Social 3.1.1](#)

## Adobe Target

- [Adobe Target Standard 1.3 \(2013 年 11 月 18 日\)](#)
- [Adobe Target Advanced 3.7](#)

## Adobe Media Manager

- [Audience Management](#)
- [Advertising Management](#)

Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

## Adobe Experience Manager

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

# Dynamic Tag Management

Dynamic Tag Management を使用すると、Analytics、Target およびその他のタグを、ドメイン数にかかわらず、すべてのサイトにわたって管理できます。Adobe Marketing Cloud に含まれているため、追加料金は必要ありません。

最新のリリース情報については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

[トップ](#)

## Adobe Analytics 1.4.1 の新機能

Adobe Analytics 1.4.1 リリースでは、次の Analytics 機能を強化しました。

機能	説明
技術レポートのモバイル Web ブラウザーおよびオペレーティングシステム	<p>2013 年 11 月 19 日から、モバイル Web ブラウザーからのアクセスが、Reports &amp; Analytics、Data Warehouse 及び Ad Hoc Analysis のブラウザー、ブラウザータイプおよびオペレーティングシステムレポートに含まれるようになります。次に、この変更がレポートに与える影響について示します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>ブラウザーレポート</b> : モバイルデバイスは、現在、このレポートで「なし」としてレポートされています。この変更の後、「なし」は、モバイルブラウザーの特定のバージョンに置き換わります。</li><li>・ <b>ブラウザーのタイプレポート</b> : モバイルブラウザーは、現在、このレポートには含まれていないので、この変更の後、レポートスイートから受け取るモバイルブラウザーのトラフィックの量に比例してこのレポートの量が増加します。</li><li>・ <b>オペレーティングシステムレポート</b> : <b>モバイルデバイスは、このレポートでは「指定なし」とレポートされています。この変更の後、「指定なし」は、iOS、Android およびその他のモバイルオペレーティングシステムの特定のバージョンに置き換わります。</b></li></ul>
追加のレポートの分類	Reports & Analytics および Report Builder におけるリアルタイムおよび異常値の検出レポートで分類が使用できるようになりました。

機能	説明
ソーシャルコンテンツに応じたレポート	<p>Report Builder のソーシャルコンテンツに応じたレポートに、次の新しいエlementおよび指標が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>エlement</b>: socialaccountandappids= 所有するソーシャルアカウントおよびアプリ ID、socialinteractiontype= プラットフォームのインタラクション</li> <li>・ <b>指標</b>: socialinteractioncount= インタラクション</li> </ul>

## [Analytics ヘルプホーム](#)

## [トップ](#)

# Reports & Analytics

## 新機能

[Adobe Analytics 1.4.1 の新機能](#)を参照してください。

## 修正点

- ・ **セグメント**の追加ドロップダウンリスト内の表示順を修正しました。ディメンションのリスト全体が、アルファベット順に並べ替えられるようになりました。
- ・ 同じ製品の別の分類で分類を実行した場合にクロス販売がアクティブ化されるのを変更しました。以前は、製品（分類なしまたは分類 X）が製品（分類 Y）によって分類されるといっても、クロス販売がアクティブ化されました。この変更により、クロス販売は、このタイプの分類でアクティブ化されなくなります。（クロス販売は、同じ注文の製品間の関係を表示します。例えば、訪問者が商品 A を購入した場合、クロス販売は、同じ注文でその他にどの製品が購入されたかを示します。）
- ・ カスタムトラフィックがオペレーティングシステムレポートの分類メニューに表示されなかった問題を修正しました。
- ・ 次のページまたは前のページレポートレットの日付を選択または変更するとレポートレットのゼロが表示される問題を修正しました。
- ・ ブックマークを開き、変更し、新しいフォルダーの下に保存した後に発生した問題を修正しました。保存の確認が表示されず、ブックマークが左のブックマークメニューに表示されませんでした。ただし、ブックマークの管理には表示されていました。
- ・ ダウンロードされたレポートが不明な埋め込み ICC カラープロファイルを持つ画像を含んでいる場合に、適切に送信できない問題を修正しました。ICC プロファイルは無視され、レポートが適切に送信されるようになります。



- 次のページレポートが CSV または Excel ファイルとしてダウンロードできなかった問題を修正しました。
- 計算指標の配置がずれる原因となる **Test&Target** / **キャンペーン**レポートの合計列の配置を修正しました。
- 上位 5 つの値のトレンドを確認する場合に、スムージングが適用されないトレンドレポートの問題を修正しました。特定の項目が選択された場合にのみ、スムージングが正しく適用されていました。
- 次のサイトセクションレポートの PDF バージョンがダウンロードおよび電子メールで送付できない問題を修正しました。

## トップ

# Report Builder 4.7

Report Builder 4.7 の必要システム構成は、次のように更新されました。

- Windows XP 以降
- 32 ビットまたは 64 ビットの Microsoft Excel 2007 以降

## 新機能

[Adobe Analytics 1.4.1](#) の新機能を参照してください。

## 修正点

- 「この機能を使用する前に、フォーカスのある Excel セルを終了してください」というような警告メッセージが誤って表示されていました。

詳しくは、「[Report Builder の新機能](#)」を参照してください。

## トップ

# Ad Hoc Analysis

Ad Hoc Analysis リリース（2013 年 11 月 15 日）には、次の変更が含まれています。

---

**重要:** .jnlp ファイルから Ad Hoc Analysis を起動する場合、[Reports & Analytics](#) にログインして、**Adobe Marketing Cloud / Ad Hoc Analysis / Ad hoc Analysis** を起動をクリックすることで最新ファイルをダウンロードしてください。これにより、最新の Java インストールを使用して Ad Hoc Analysis 機能を直接開くことができますようになります。

---

## 新機能

[Adobe Analytics 1.4.1 の新機能](#)を参照してください。

## 修正点

- 管理者権限を持たないユーザーは、スケジュール済みレポートを .rtf、.html および .pdf で受け取ることができませんでした。非管理者ユーザーは、すべての使用可能な形式でスケジュール済みレポートを受け取れるようになりました。
- リスト変数の分類のラベルに表示される名前が正しくないか、ラベルにテキストが表示されていませんでした。現在はラベルが正しく表示されるようになっています。
- ランクレポートなど、元のレポートから選択したディメンションの合計行をクリックしてデータのトレンドを表示すると、すべてのディメンションの合計の値が表示され、選択したディメンションに基づいた値が表示されませんでした。現在はこれは修正され、選択したディメンションに基づいた正しいトレンドの値が表示されます。
- 左のツールパネルで、右クリックして、エレメント、指標、セグメントおよびその他のカスタマイズしたリストを削除できるようになりました。
- 以前は、スケジュール済みレポートをプレビューするとレポートが現在のワークスペースで開いたので、現在のワークスペースでフィルターを適用している場合に混乱が生じていました。現在では、スケジュール済みレポートは新しいウィンドウで開いて正確なプレビューを提供します。

## [Ad Hoc Analysis ヘルプ](#)

### [トップ](#)

## Data Workbench

このリリースでは更新はありません。

## [Data Workbench ヘルプ](#)

### [トップ](#)

## Data Warehouse

## 修正点

- ページでの滞在時間を計算する際に、訪問の最終ページであっても、イベントトラッキングやリロードが発生した場合に限り、計算されるようになりました。これは、Reports & Analytics で使用されるロジックと合致します。
- 数多くの個別の値を持つ変数の分類を処理する状況でレポート生成エラーが発生する問題を修正しました。

- マーケティングチャネルのディメンションを選択し、データ範囲にマーケティングチャネルが存在する前のデータが含まれている場合にレポートに無効な値が表示される問題を修正しました。
- 長期間にわたるレポートの場合の一部のパス指標に関するまれな状況で、異常に大きな値が表示される問題を修正しました。
- より記述的なメッセージを提供するようにエラーメッセージを改善しました。
- レポートに日付精度が含まれる場合に一部のディメンションで大文字と小文字の区別が適切に考慮されなかった問題を修正しました。

[トップ](#)

## クリックストリームデータフィード

このリリースでは変更はありません。

[トップ](#)

## AppMeasurement およびモバイル SDK

### Marketing Cloud ソリューション用 iOS および Android バージョン 4 SDK

#### JavaScript 版 AppMeasurement

##### 1.2.1

- [ハードビートビデオ指標](#)のサポートが追加されました。

### その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP

- Symbian

[トップ](#)

[Analytics ヘルプとリファレンスホーム](#)

## Adobe Mobile サービス

Adobe Mobile サービスにより、アプリ用の各ソリューションが Adobe Marketing Cloud 上で統合されます。今回は、Adobe Analytics および Adobe Target ソリューションのアプリ分析およびターゲット化機能とのシームレスな統合を提供します。2013 年 10 月 25 日からご提供を開始したのは、英語環境のみとなります。

詳しくは、[Adobe Mobile サービスのドキュメント](#)を参照してください。

[トップ](#)

### Adobe Social 3.1.1

Adobe Social 3.1.1 リリース（2013 年 11 月 15 日）には、次の変更が含まれています。

機能	説明
ルール変数	Social を使用すると、リスニングルールの作成中にルール変数を作成および保存できます。ルール変数を使用すると、他のリスニングルールで再利用できる、条件付きの単一のフィルターを作成できます。ルール変数を変更する必要がある場合、1 か所で変更すると、変数を使用したすべてのリスニングルールにその変更が複製されます。
所有するプロパティによるマーケティングの概要ダッシュボードのフィルタリング	マーケティングの概要ダッシュボードをフィルタリングして、ログインしたユーザーが所有するプロパティのみのデータを表示できます。
強化された投稿のダウンロードのサポート	200 万もの投稿およびデータ（字句、発言者、メンション、リツイート、その他）をソーシャルバズレポートからダウンロードできるようになりました。
投稿一覧のロールアップビュー	投稿一覧レポートの別のビューを提供し、並べ替え可能な列、成長指標、および各プラットフォームでの指標の合計を含む表形式でお客様が投稿データを表示できます。

機能	説明
投稿一覧のネイティブ Twitter のサポート	投稿一覧レポートは、Social で作成したツイートおよび Twitter で作成したネイティブツイートを表示するようになりました。
ハッシュタグのオートコンプリート	Social の投稿でツイートを作成する際に # タグを使用する場合のオートコンプリート機能を提供します。
モデレーターの概要ダッシュボード（ベータ）	モデレーターの概要ダッシュボードでは、組織のモデレーターの取り組みを完全に把握できます。チームの個々のメンバーのモデレーター統計を表示でき、上がってきた問題をチームが解決するのにかかった時間を確認したり、問題が上がってくるのが 1 日の内のどの時間かを特定したり、解決した問題と未解決の問題の件数を比較したりといったことができます。
統合モデレーター（ベータ）	新しいマルチプラットフォームモデレーター機能を使用すると、Facebook や Twitter、LinkedIn から入ってくるコンテンツ、および Adobe Experience Manager によるオンサイトのソーシャルコミュニティから入ってくるコンテンツを、1 つのダッシュボードで左右に並べて表示して、カスタマイズされたモデレーターフィードの形でモデレーターできます。

詳しくは、「[Social リリースノート](#)」を参照してください。

## 修正点

- 新しく追加された Twitter ハンドルに対する作成者のメンションがモデレーターフィードに表示されない問題を修正しました。
- モデレーターフィードのフィルタリング時に、追跡されたキーワードのオートコンプリート機能で間違った値が返される問題を修正しました。
- ユーザーが既存のワークフローと同じ名前を投稿ワークフローに付けようとした場合、エラーメッセージが表示されるようになりました。
- ユーザーが新しいキャンペーンを作成しようとした場合にレポートスイートが新しいというエラーメッセージが表示される問題を修正しました。
- 一部のグラフでの日付の配置の問題を修正しました。
- バックフィルが正常に完了したと Social が示している場合でも、Social が適切に Twitter データをバックフィルできていない問題を修正しました。
- 複製されたアプリケーションが元のアプリケーションのスケジュールを保持する問題を修正しました。

- ・アプリケーションをスケジュールすると、お客様がデータおよび時間コントロールにアクセスできない問題を修正しました。
- ・コンテストアプリのエラーメッセージのポップアップ画面がエントリーポップアップ画面の背後に表示される問題を修正しました。
- ・アプリケーションが Microsoft Internet Explorer で表示される場合に「送信」ボタンが適切に表示されない問題を修正しました。
- ・ターゲットが現在のウィンドウに設定されている場合にユーザーがストーリーを共有できない問題を修正しました。
- ・チェックボックス要素のインラインテキストの編集が正常に機能しない問題を修正しました。
- ・現在使用されている Facebook アプリケーションをユーザーが削除できる問題を修正しました。
- ・コンテストアプリケーションでユーザーが「投票」ボタンをクリックした後、ストーリーを共有ポップアップ画面が表示されない問題を修正しました。
- ・共有されたストーリーが携帯電話で正しく表示されない問題を修正しました。
- ・レポートのビデオの投稿時間が YouTube での実際の投稿時間と一致しない問題を修正しました。
- ・英語以外の特定の言語の UI を使用した Social から YouTube ビデオを投稿できない問題を修正しました。
- ・プレビューでのフォーマットは適切に表示されるにもかかわらず、テキストの後にタブを含むツイートが別のエディターから Social にコピーされ、Twitter に投稿されるというフォーマットの問題を修正しました。
- ・コンテンツカレンダーのオートコレクトで修正されたスペルが投稿で保持されない問題を修正しました。
- ・お客様で YouTube および Sina Weibo を無効にしている場合でも、これらのプラットフォームのフィルターがコンテンツカレンダーに表示される問題を修正しました。
- ・リンクを含む LinkedIn グループ投稿が公開できない問題を修正しました。
- ・リンクを貼り付けると、Publisher のテキストの配置がずれる問題を修正しました。
- ・Google+ ページへのカスタムリンクを含む投稿を公開する場合に、エラーメッセージが表示される問題を修正しました。
- ・LinkedIn 投稿がスケジュールされた場合、承認された場合、投稿に失敗した場合などに、通知電子メールメッセージが送信される問題を修正しました。
- ・利用できる予測データがない場合でも、投稿予測機能が処理し続ける問題を修正しました。

- Publisher で投稿にリンクを添付すると、無効な URL エラーが表示される問題を修正しました。
- エクスポートしたレポートの投稿の値が正しくない問題を修正しました。
- Facebook ページの設定を Social で編集する場合、以前の所有者設定が考慮されず、以前の設定に関係なく、モデレートとインサイトおよび予測の設定がオンにリセットされる問題を修正しました。
- LinkedIn の会社とグループでの認証の問題を修正しました。会社ページまたはグループが再認証する必要がある時期と再認証の方法を UI が示してませんでした。
- 設定 / 環境設定で夏時間を採用しない地域のお客様（アリゾナなど）がタイムゾーンを設定した場合の不一致の問題を修正しました。

## トップ

# Adobe Target Standard 1.3（2013 年 11 月 18 日）

このリリースには、次の新機能および機能強化が含まれています。

機能	説明
地域ターゲティング	国、都道府県、市区町村、郵便番号または DMA をターゲットにします。
Visual Experience Composer を使用して要素を再配置します。	Visual Experience Composer を使用して、ページの要素を再配置できます。
シミュレーターを使用しないエクスペリエンスのプレビュー	エクスペリエンスは、シミュレーターを使用せずにテスト表示できます。これは、シミュレーションが許可されない制約のあるサイトで特に役に立ちます。

このリリースには、次の修正が含まれています。

- エクスペリエンス URL がリセットされると、クリック追跡指標がアクティビティから削除できない問題を修正しました。
- Experience Composer でエクスペリエンスを操作すると、新しいコンテンツが表示される前にデフォルトのエクスペリエンスがすばやく点滅する問題を修正しました。

このリリースには、次の既知の問題が含まれています。これらの問題は、今後の更新で修正される予定です。

- mbox で制御していないページのある領域で画像を入れ替えると、404 エラーになることがあります。
- アクティビティ用の共有されたカードの一部で、エクスペリエンスおよびデータが表示されません。
- Visual Experience Composer で、スライダー要素の最初の画像の上にエクスペリエンスを作成できますが、その他には作成できません。
- 画像が CSS で参照されている場合、その画像を入れ替えることができません。
- ダウンロードされたオファーで .html 以外の拡張子、または拡張子がないものは、オファーとして表示されません。
- オーディエンスのサンプルのパーセント設定は保持されません。
- アセットが別のフォルダーに移動されると、HTML オファーの移動に失敗します。
- ページから削除した要素は、「アクティビティモード」が選択されていると、ハイライトにできません。

最新の製品情報については、[Target Standard オンラインヘルプ](#)を参照してください。

トップ

Adobe Target Advanced 3.7

このリリースで強化された機能は次のとおりです。

機能	説明
1:1 Automated Decisioning and Targeting のインサイトレポートのフィルターが改善されました。	オファーまたはモデリンググループおよび場所でインサイトレポートテーブルをフィルターできるようになったので、解釈がより簡単になります。
1:1 Automated Decisioning and Targeting のインサイトレポートの注目領域カウンターが改善されました。	インサイトレポートで、「注目領域カウンター」から「関心の量」に名前が変更されました。関心の量の範囲は 0 ～ 10 で、最大で小数点以下 2 桁です。
1:1 Automated Decisioning and Targeting の注目領域クローラーが改善されました。	注目領域クローラーにオプションが追加され、個別の顧客レベルで無効にできるようになりました。

このメンテナンスリリースには、次の修正が含まれています。



- ラベルの削除時に発生する一般的な例外エラーを修正しました。
- Adobe Target Standard および今後のリリースをサポートするようにバックエンドが変更されました。
- Automated Decisioning and Targeting のモデリンググループレポートで、訪問とインプレッション／ページビューを切り替えると一部のオファーが表示されなかった問題を修正しました。
- コンバージョン／成功指標のキャンペーンセグメントのキャンペーンで、再利用可能なセグメントを 2 回使用しても、レポートのセグメント名が更新されなかった問題を修正しました。
- .coop ドメインの電子メールアドレスを使用した場合にユーザーの作成に失敗する問題を修正しました。
- mbox 使用状況のカウントに非アクティブな mbox が含まれていた問題を修正しました。
- キャンペーンリストでラベルを追加すると JavaScript 例外が発生するエラーを修正しました。
- 一部のクライアントのキャンペーンが読み込まれない問題を修正しました。
- 「reset-campaign-report-data」のクライアント設定が削除され、すべてに対して有効になりました。
- キャンペーンリスト API で、一部のキャンペーンが返されない問題を修正しました。
- ダウンロードされた CSV がインターフェイスに表示される訪問数と一致しないデータの問題を修正しました。
- mbox API がレポートされたすべてのオフラインの売上高を記録しない問題を修正しました。
- 監査レポート API でレポートされる内部サーバーエラーを修正しました。
- 毎日の結果グラフのエラーを修正しました。
- レポートインターフェイスの RPV の定義の問題を修正しました。
- キャンペーン状態 API が原因で有効化日がリセットされない問題を修正しました。
- 空の名前と空の URL が更新されるエラーを修正しました。
- 一部の非アクティブな mbox がアクティブな mbox のリストにも表示される問題を修正しました。

最新の製品情報については、[Target Advanced オンラインヘルプ](#)を参照してください。

[トップ](#)

Recommendations

このリリースには、次のような変更が含まれています。

機能	説明
Recommendations の予定された .csv ファイルのアップロード	FTP または HTTP の場所から Recommendations への .csv 形式の商品フィードのアップロードを予定できます。

製品のヘルプについては、「[Adobe Recommendations](#)」を参照してください。

[トップ](#)

## Search&Promote

このリリースでは更新はありません。

製品のヘルプについては、「[Adobe Search&Promote ヘルプホーム](#)」を参照してください。

[トップ](#)

## Audience Management

詳しくは、「[Audience Management リリースノート](#)」を参照してください。

## Media Manager ヘルプ

[トップ](#)

## Data Connectors

Data Connectors リリース（2013 年 11 月 15 日）には、次の変更が含まれています。

- 統合の Mode 2 へのダウングレードの問題を修正しました。
- BrightEdge：ページ名の変数マッピングログを修正し、変更ログで非表示になるようになりました。
- BrightEdge：左角括弧（[ ]）文字を使用して計算指標の名前を変更する場合の警告の問題を修正しました。
- データ設定の手順で、指標の名前が長すぎる場合に文字列が表示される問題を修正しました。
- eVar マッピングを変更した後、変更ログで eVar の名前が適切に表示されない問題を修正しました。
- Dev Center：パートナーがバグを入力すると、製品名が更新されない問題を修正しました。

- Demandbase バージョン 2 統合を非アクティブ化すると発生するエラーを修正しました。
- ダラス、ロンドンおよびシンガポールのデータセンターで、`Product.GetAdProcessing`、`Product.GetAccessRequests` および `Product.GetResources` API のサポートを追加しました。

[Data Connectors ヘルプ](#)

[トップ](#)

**重要:** このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:  
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386

